

## 第3回小金井市男女平等推進審議会

平成24年5月21日（月）

午後2時～午後4時

場所：市民会館萌え木ホールA会議室

### 次 第

#### 1 内 容

- (1) (仮称) 第4次男女共同参画行動計画（案）の検討について
- (2) 男女平等に関する意識調査の結果について

#### 2 配布資料

資料1 (仮称) 第4次男女共同参画行動計画（案）について

- (1) 計画の基本方針（基本的理念・方向性・全体イメージ案）
- (2) 第3次行動計画の庁内の検証
- (3) 計画期間案
- (4) 検討スケジュール案

資料2 男女平等に関する意識調査について（結果）

資料3 男女平等・男女共同参画に関する現状等について

- ・出生数（率）・婚姻数（率）・離婚数（率）の年次別推移
- ・合計特殊出生率
- ・人口動態ピラミッド（住民基本台帳人口による）
- ・未婚率（男女年齢別比較）
- ・労働力率（女性）の年次別推移
- ・統計資料・意識調査結果・審議会提言書等のまとめ

(参考資料)

- ・男女平等推進審議会委員名簿（平成24年4月1日現在）
- ・第4次小金井市基本構想・前期基本計画（一部抜粋）
- ・第3次男女共同参画基本計画（一部抜粋）
- ・市報こがねい平成24年3月1日号コピー
- ・他市の計画概要の傾向に関する資料
- ・男女共同参画の視点からの表現の手引（平成24年3月作成、配布済み）

(仮称) 第4次男女共同参画行動計画(案)について

1 計画の基本方針

(1) 基本的理念

第4次基本構想・前期基本計画「3 豊かな人間性と次世代の夢を育むまち(文化と教育)」の関連計画とする。

(2) 方向性

「男女が共に自立し、性別にかかわらず個性と能力を発揮できる社会の形成に向けて、家庭、学校、職場、地域などあらゆる場を通じて男女共同参画を進めます。」

(第4次基本構想・前期基本計画P110)

(3) 全体イメージ(案)

第4次基本構想・前期基本計画(P110～P112)

男女共同参画の推進

- ① 男女共同参画の計画的推進
- ② 男女平等の意識づくり
- ③ あらゆる分野への男女共同参画の推進
- ④ 生涯を通じた男女の心身の健康支援と生活基盤の確立

↓

(イメージ)

- ・人権の尊重及び男女平等意識の啓発・教育(②)
- ・ワークライフバランス推進(④)
- ・男女共同参画の総合的推進(①③)
- ・配偶者等からの暴力防止(配偶者暴力対策基本計画該当部分)(②)等

2 第3次行動計画の庁内の検証

- ・毎年度実施の第3次行動計画推進状況調査を兼ねるものとする。
- ・第3次行動計画に記載された各施策及び主な事業に対する概要(これまでの取組状況・課題、男女共同参画の推進に寄与したと考えられる効果、今後の方向性)
- ・その他の各施策に関する事業実施の現状または予定

3 計画期間案（イメージ）

（年度）

H23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
第4次基本構想									
前期基本計画					後期基本計画				

第3次行動計画	（仮称）第4次男女共同参画行動計画
---------	-------------------

4 検討スケジュール案

	男女平等推進審議会	庁内
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回男女平等推進審議会 意識調査の結果確認 計画年次、計画概要の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識調査結果確認</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4回男女平等推進審議会 目次案（体系図）の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3次行動計画の評価・検証（庁内照会。平成23年度推進状況調査を兼ねる）</li> <li>計画素案（たたき台）の作成（庁内照会）</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第5回男女平等推進審議会 計画素案の検討①</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第6回男女平等推進審議会 計画素案の検討②</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第7回男女平等推進審議会 計画素案の検討（全体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画素案の確認・検討</li> <li>パブリックコメント前の計画素案確認・検討（庁内照会）</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民懇談会</li> <li>第8回男女平等推進審議会 計画素案の検討（まとめ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックコメント・市民懇談会の結果の確認・検討</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第9回男女平等推進審議会 計画案答申</li> </ul>	
12月		

# 男女平等に関する意識調査について(報告)

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

本調査は、第3次行動計画の見直しと第4次行動計画の策定にあたり、男女共同に関する市民や市職員の考えを把握し、今後の男女共同参画施策を検討するための基礎資料とするために実施しました。

### 2. 調査設計

#### 【市民意識調査】

- 調査地域：小金井市全域
- 調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した市内在住の18歳以上の男女
- 対象者数：市民 2,000 人
- 調査期間：平成 24 年 2 月 27 日～3 月 21 日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収による調査

#### 【職員意識調査】

- 調査対象：小金井市職員（正規職員）
- 対象者数：職員 703 人
- 調査期間：平成 24 年 2 月 20 日～3 月 2 日

### 3. 回収結果

	配布数	回収数	回収率
市民	2,000	578	28.9%
女性	1,000	326	32.6%
男性	1,000	244	24.4%
性別不明	-	8	※0.4%
職員	703	526	74.8%
女性	302	229	75.8%
男性	401	287	71.5%
性別不明	-	10	※1.4%

※回収率は総数に対する割合

#### 4. 報告書を見る際の留意点

- 回答結果の割合（％）はサンプル数（集計対象者総数）に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表のn数（number of case）は、サンプル数（集計対象者総数あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人数）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

## II 市民対象調査の結果

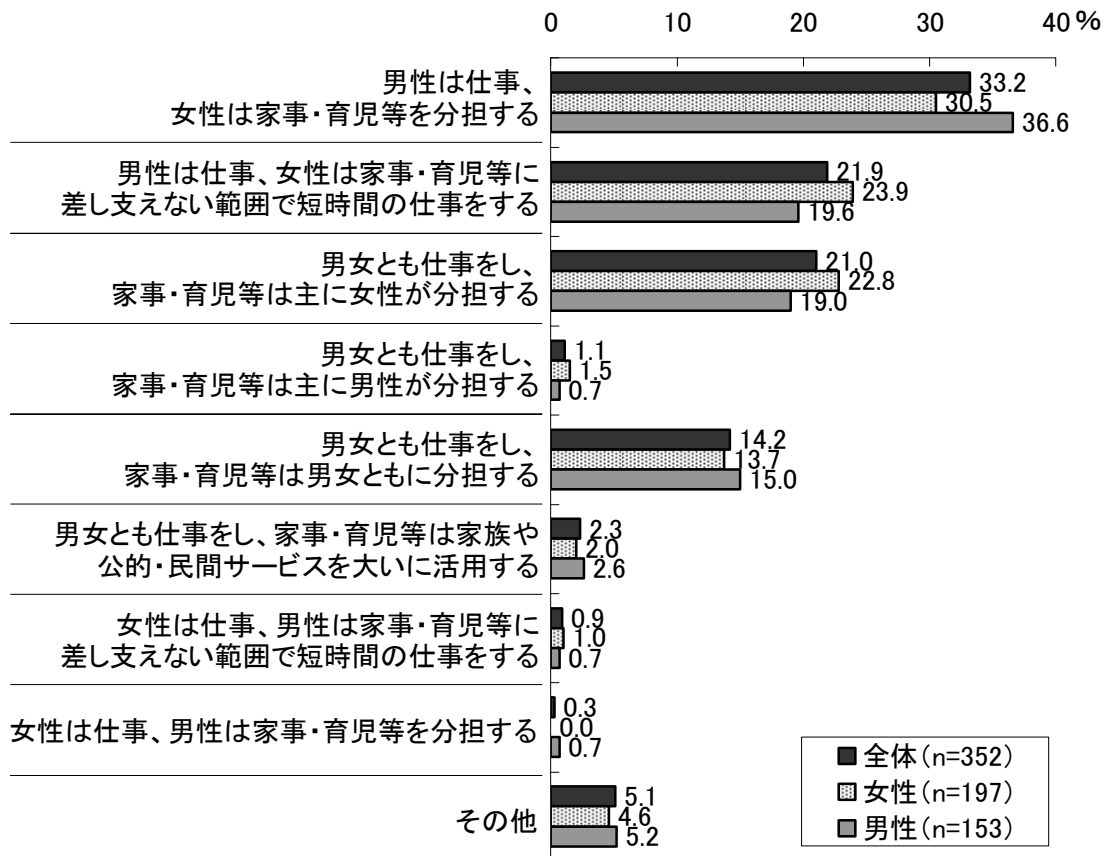
### 1. 家庭生活について

問1 あなたのご家庭では、仕事（生計を得るための仕事）と家事・育児等の家庭内の仕事を、どのように男女で分担していますか。また、理想はどうあるべきだと思いますか。  
（最も近いもの1つずつ選択。現在、該当しない方は理想のみお答えください。）

#### ■現状

家庭における仕事と家事・育児等の分担の現状についてみると、全体では「男性は仕事、女性は家事・育児等を分担する」が33.2%と最も高く、次いで「男性は仕事、女性は家事・育児等に差し支えない範囲で短時間の仕事をする」となっています。

性別にみると、男女とも「男性は仕事、女性は家事・育児等を分担する」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも5ポイント以上高くなっています。

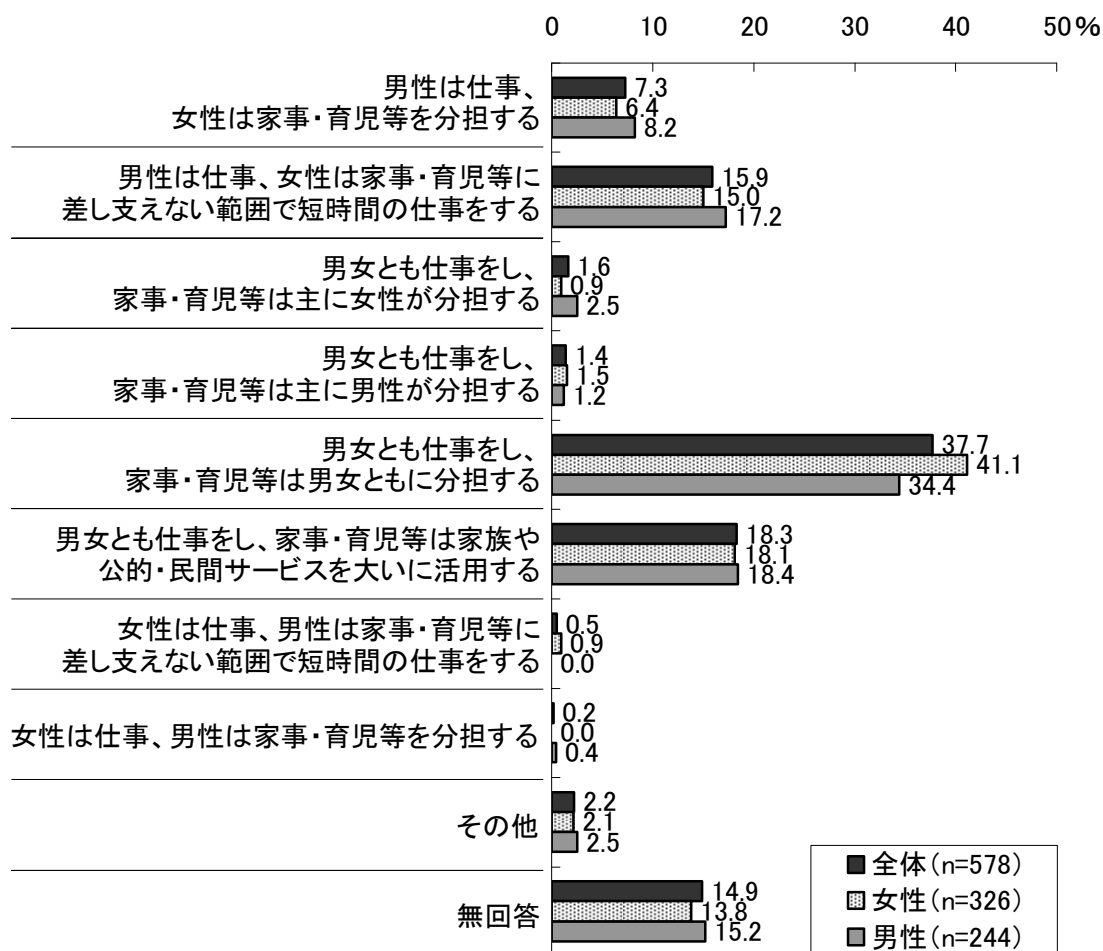


※該当者のみを集計しているため、無回答者数を除いた数値となっています。

## ■理想

家庭における仕事と家事・育児等の分担の理想についてみると、全体では「男女とも仕事をし、家事・育児等は男女ともに分担する」が37.7%と最も高く、次いで「男女とも仕事をし、家事・育児等は家族や公的・民間サービスを大いに活用する」となっています。

性別にみると、男女とも「男女とも仕事をし、家事・育児等は男女ともに分担する」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも5ポイント以上高くなっています。

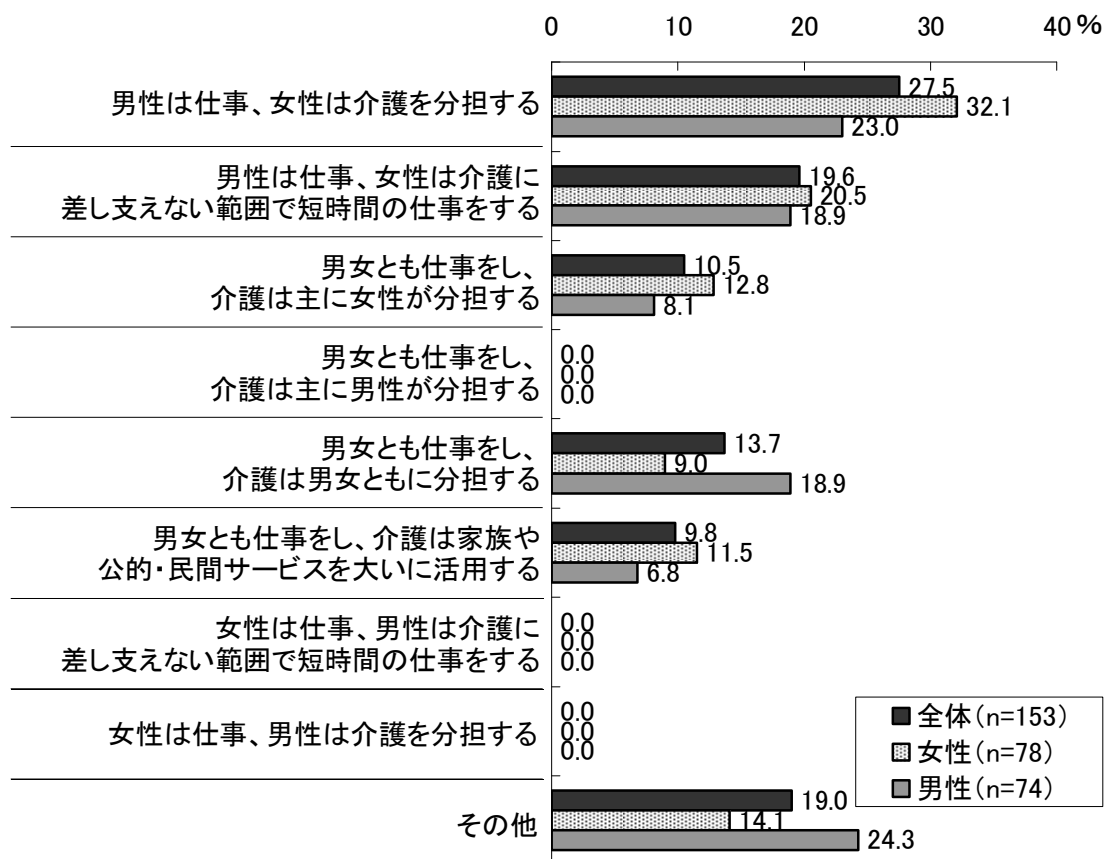


問2 あなたのご家庭では、仕事と介護をどのように男女で分担していますか。また、理想はどうあるべきだと思いますか。(最も近いもの1つずつ選択。現在、該当しない方は理想のみお答えください。)

■現状

家庭における仕事と介護の分担の現状についてみると、全体では「男性は仕事、女性は介護を分担する」が27.5%と最も高く、次いで「男性は仕事、女性は介護に差し支えない範囲で短時間の仕事をする」となっています。

性別にみると、女性は「男性は仕事、女性は介護を分担する」、男性は「その他」が最も高くなっています。また、「男性は仕事、女性は介護を分担する」は女性が男性よりも10ポイント弱、「男女とも仕事をし、介護は男女ともに分担する」は男性が女性よりも10ポイント弱高くなっています。



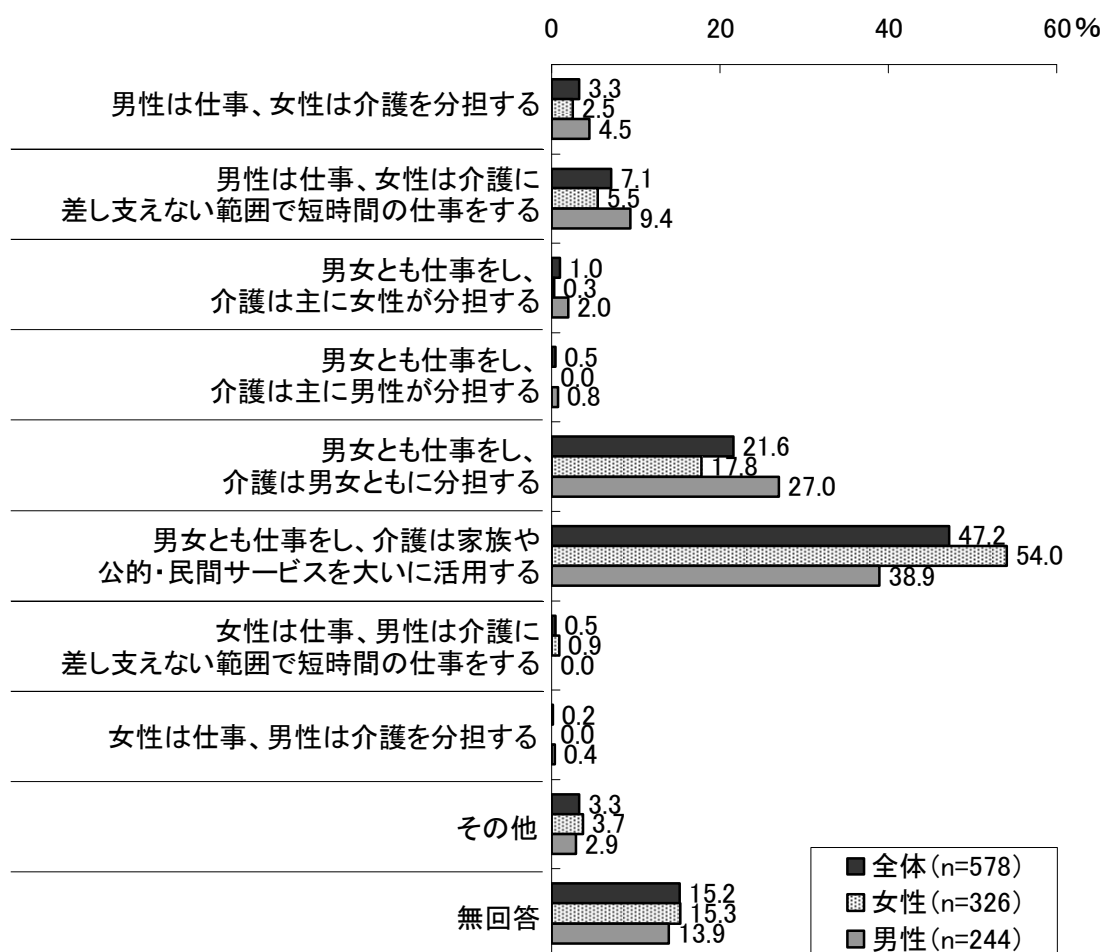
※該当者のみを集計しているため、無回答者数を除いた数値となっています。



## ■理想

家庭における仕事と介護の分担の理想についてみると、全体では「男女とも仕事をし、介護は家族や公的・民間サービスを大いに活用する」が47.2%と最も高く、次いで「男女とも仕事をし、介護は男女ともに分担する」となっています。

性別にみると、男女とも「男女とも仕事をし、介護は家族や公的・民間サービスを大いに活用する」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも15ポイント以上高くなっています。また、「男女とも仕事をし、介護は男女ともに分担する」は男性が女性よりも10ポイント弱高くなっています。

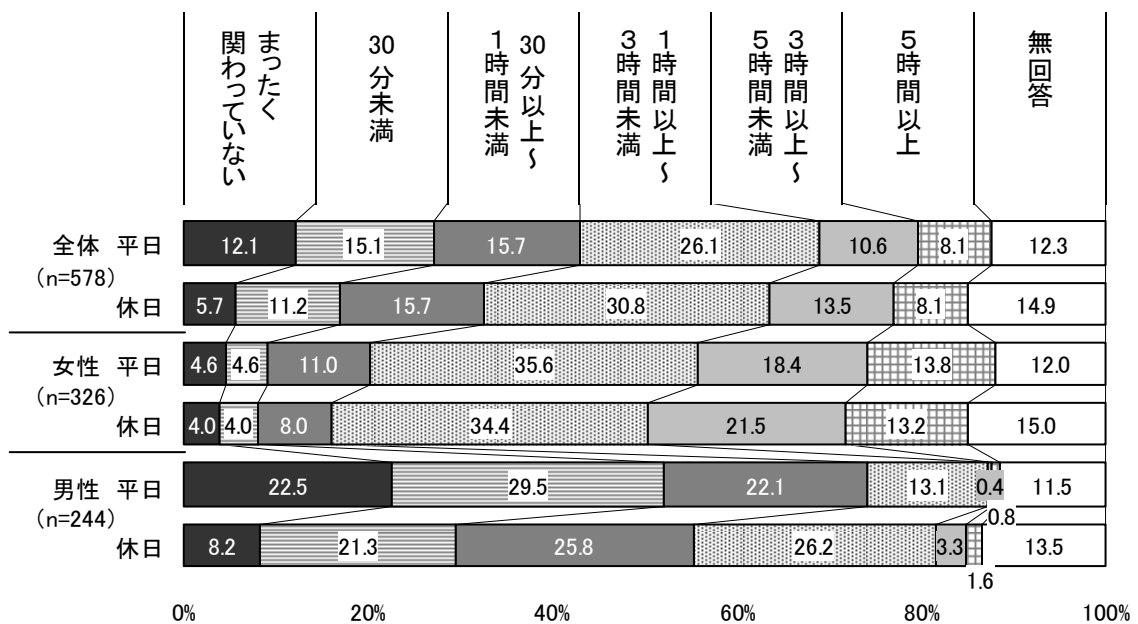


問3 あなたが「A. 家事」、「B. 育児」、「C. 介護」に携わる時間は、1日あたりそれぞれどれくらいですか。(①平日、②休日のそれぞれについて○は1つ)

A. 家事 (平日/休日)

家事に1日あたりどれくらい携わるかについてみると、全体では平日・休日とも「1時間以上～3時間未満」が最も高く、次いで「30分以上～1時間未満」となっています。

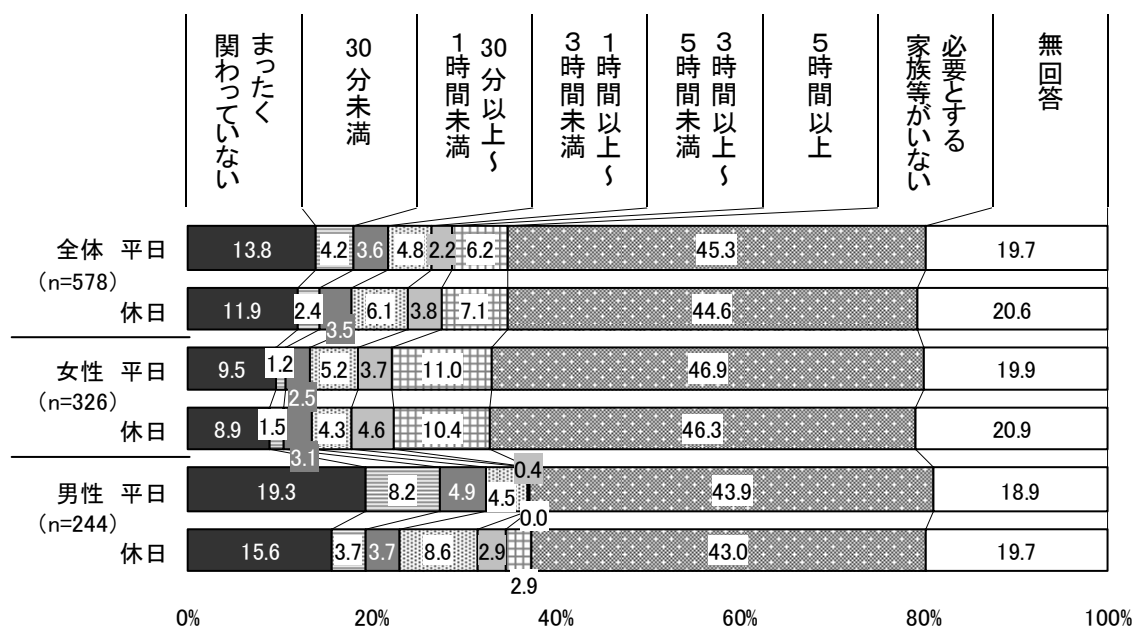
性別にみると、女性では平日・休日とも「1時間以上～3時間未満」が最も高く3割を超えており、3時間未満が半数を占めています。男性では、平日は「30分未満」、休日は「1時間以上～3時間未満」が最も高くなっています。平日は30分未満、休日は1時間未満が半数を占めており、男性の家事に携わる時間が女性よりも相対的に短いことがうかがえます。



## B. 育児（平日／休日）

育児に1日あたりどれくらい携わるかについてみると、全体では「必要とする家族等がない」が4割半ばと最も高くなっています。

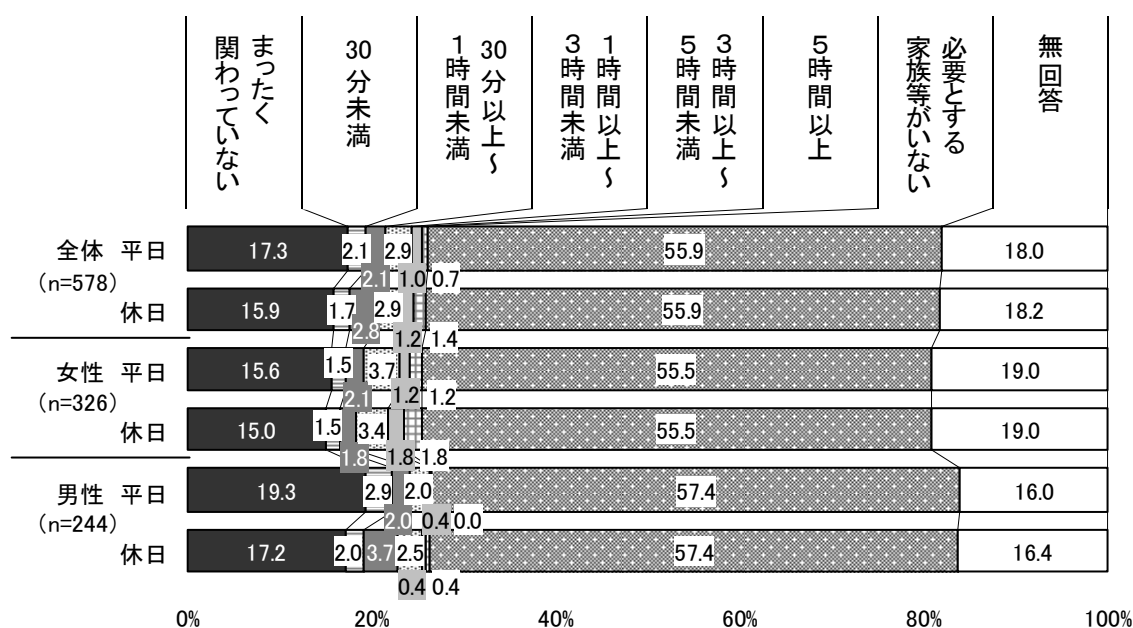
性別にみると、男女とも「必要とする家族等がない」が最も高くなっているものの、女性では「5時間以上」が1割を超えているのに対し、男性では「まったく関わっていない」が1割半ばから2割弱と高くなっています。



## C. 介護（平日／休日）

介護に1日あたりどれくらい携わるかについてみると、全体では「必要とする家族等がない」が5割半ばと最も高くなっています。

性別にみると、男女とも「まったく関わっていない」が1割半ばから2割弱と最も高くなっているものの、男性が女性よりもやや高くなっています。

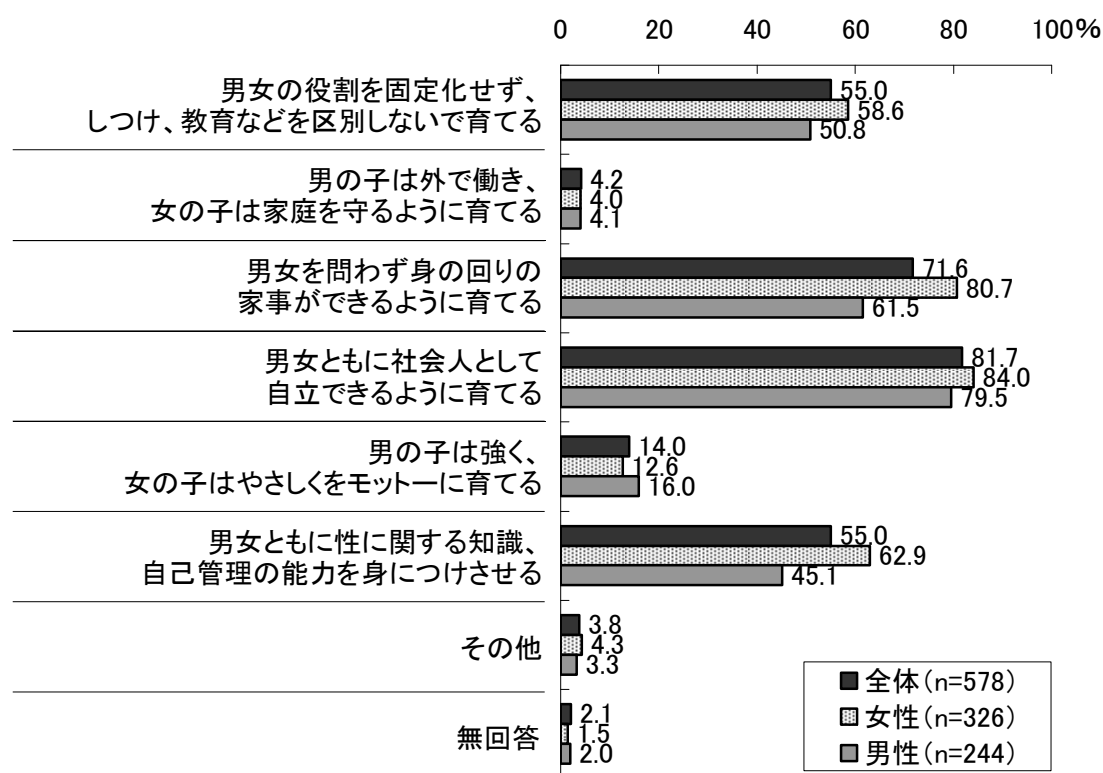


## 2. 子育て・教育について

問4 あなたは、男女が対等に互いに助け合って社会をつくっていくために、これからの子育てをどのようにしたら良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男女が対等に互いに助け合って社会をつくっていくために、これからの子育てをどのようにしたら良いと思うかについてみると、全体では「男女ともに社会人として自立できるように育てる」が81.7%と最も高く、次いで「男女を問わず身の回りの家事ができるように育てる」となっています。

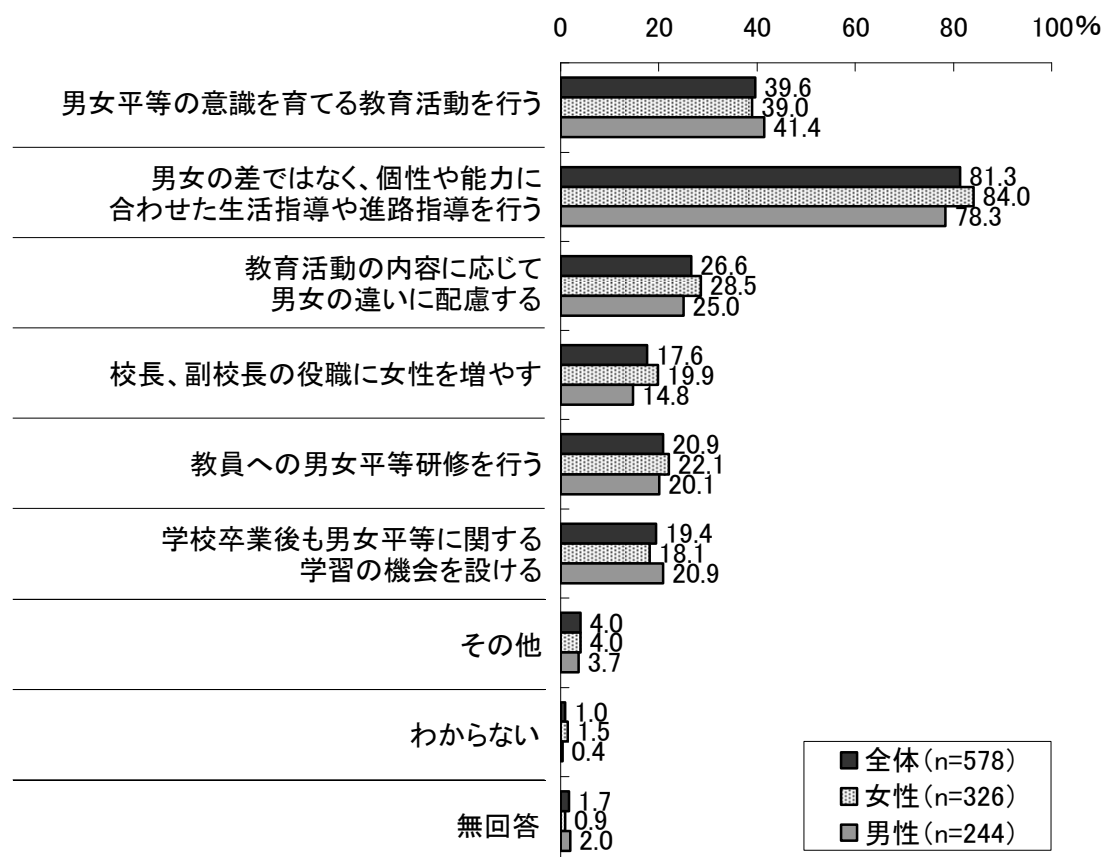
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっているものの、「男女を問わず身の回りの家事ができるように育てる」や「男女ともに性にに関する知識、自己管理の能力を身につけさせる」では、女性が男性よりも15ポイント以上高くなっており、考え方に違いがみられます。



問5 教育の場で男女平等を進めるために、特に重要だと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

教育の場で男女平等を進めるために、特に重要だと思うことについてみると、全体では「男女の差ではなく、個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」が81.3%と最も高く、次いで「男女平等の意識を育てる教育活動を行う」となっています。

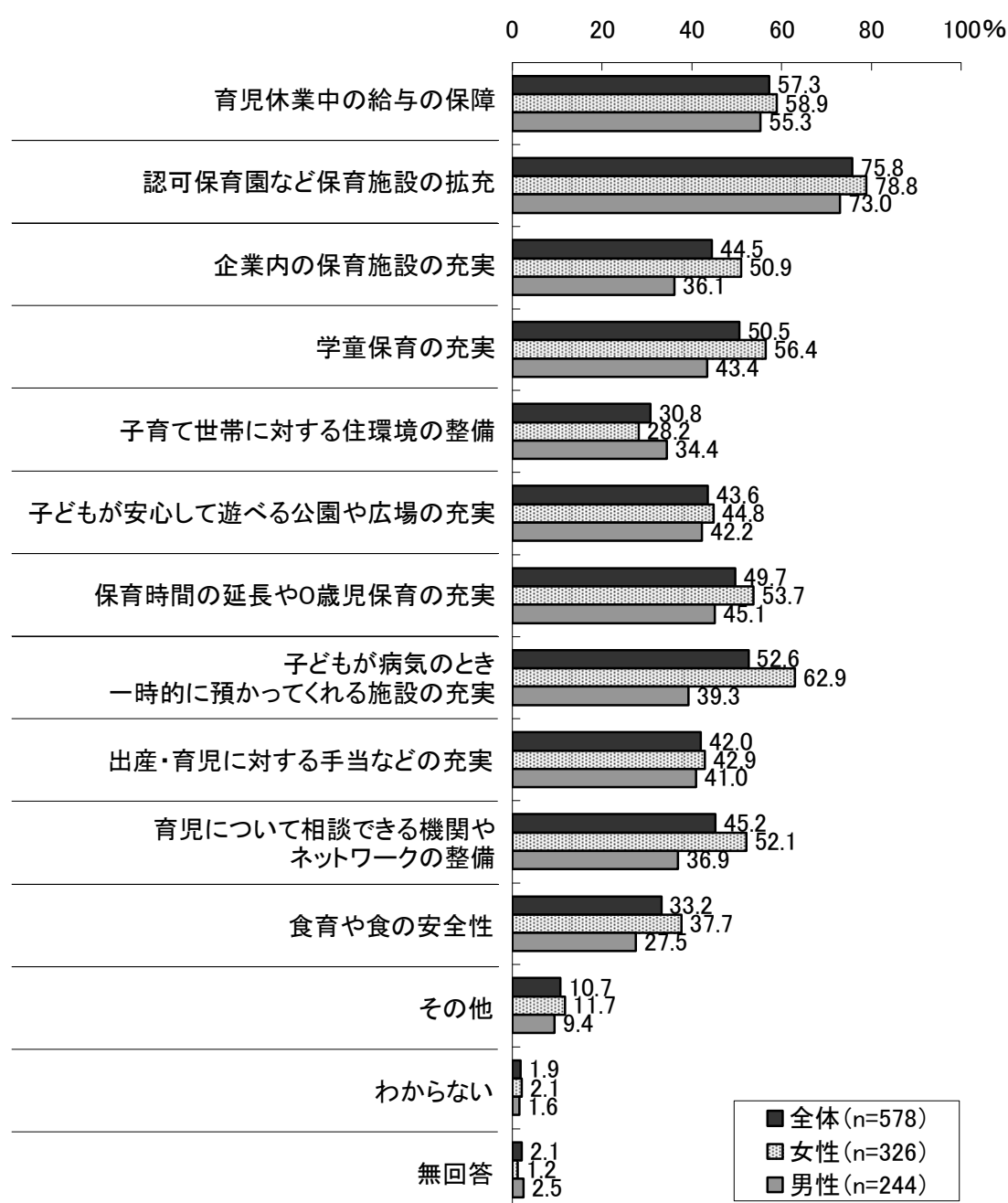
性別にみると、男女とも「男女の差ではなく、個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」が最も高くなっており、全体の傾向とほぼ同様となっています。



問6 子どもを産み育てやすい環境づくりのために、社会は何を充実したら良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

子どもを産み育てやすい環境づくりのために、社会が充実すべきことについてみると、全体では「認可保育園など保育施設の拡充」が75.8%と最も高く、次いで「育児休業中の給与の保障」となっています。

性別にみると、男女とも「認可保育園など保育施設の拡充」が最も高くなっています。また、「子どもが病気のとき一時的に預かってくれる施設の充実」や「育児について相談できる機関やネットワークの整備」では女性が男性よりも15ポイント以上、「企業内の保育施設の充実」や「学童保育の充実」「食育や食の安全性」では女性が男性よりも10ポイント以上高くなっています。

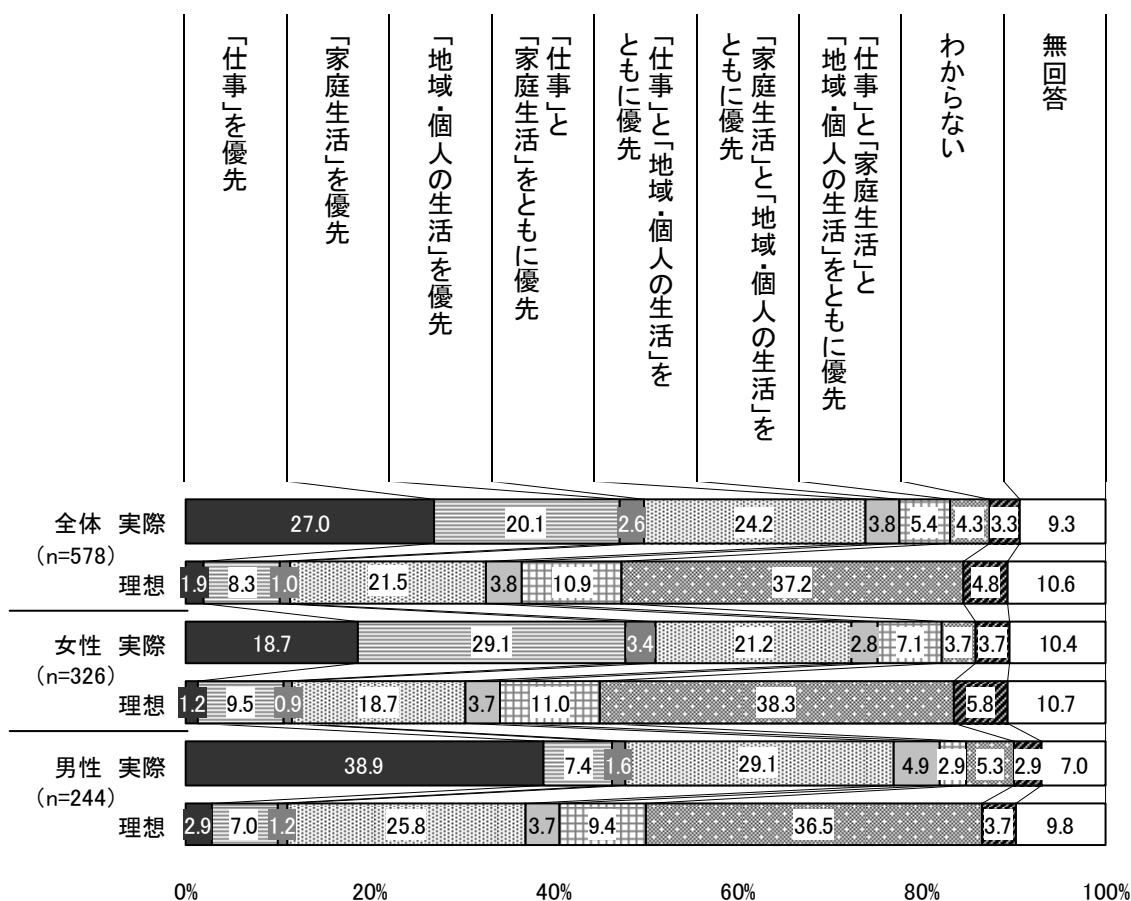


### 3. ワーク・ライフ・バランスについて

問7 生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度についてお答えがいたします。（各項目で○は1つ）

生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活の優先度についてみると、実際の生活において、全体では「『仕事』を優先」が最も高くなっているのに対し、理想の生活においては「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が最も高くなっています。

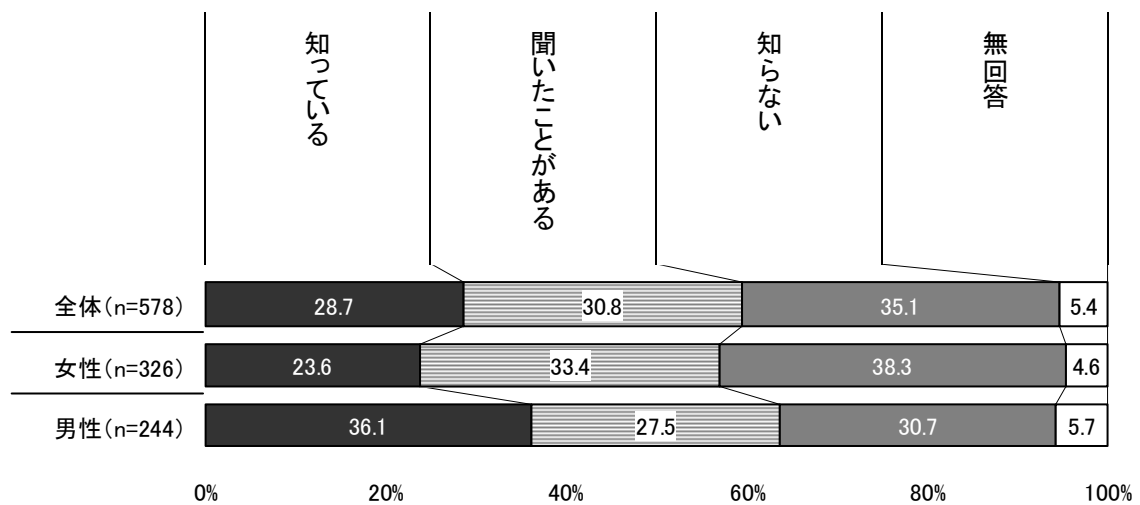
性別にみると、実際の生活において、女性では「『家庭生活』を優先」が29.1%、男性では「『仕事』を優先」が38.9%と最も高くなっています。しかし、理想の生活においては、男女とも「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が3割半ばから4割弱と最も高くなっており、実際の生活と理想の生活の間にはやや隔たりがあることがうかがえます。



問8 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉を見聞きしたことはありますか。（〇は1つ）

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の言葉の認知度についてみると、全体では「知らない」が35.1%と最も高くなっています。「聞いたことがある」と「知らない」を合わせた『内容をよく知らない』割合については、6割半ばを占めています。

性別にみると、女性では「知らない」、男性では「知っている」が最も高くなっています。『内容をよく知らない』割合については、女性が約7割、男性が6割弱と10ポイント以上の違いがみられます。

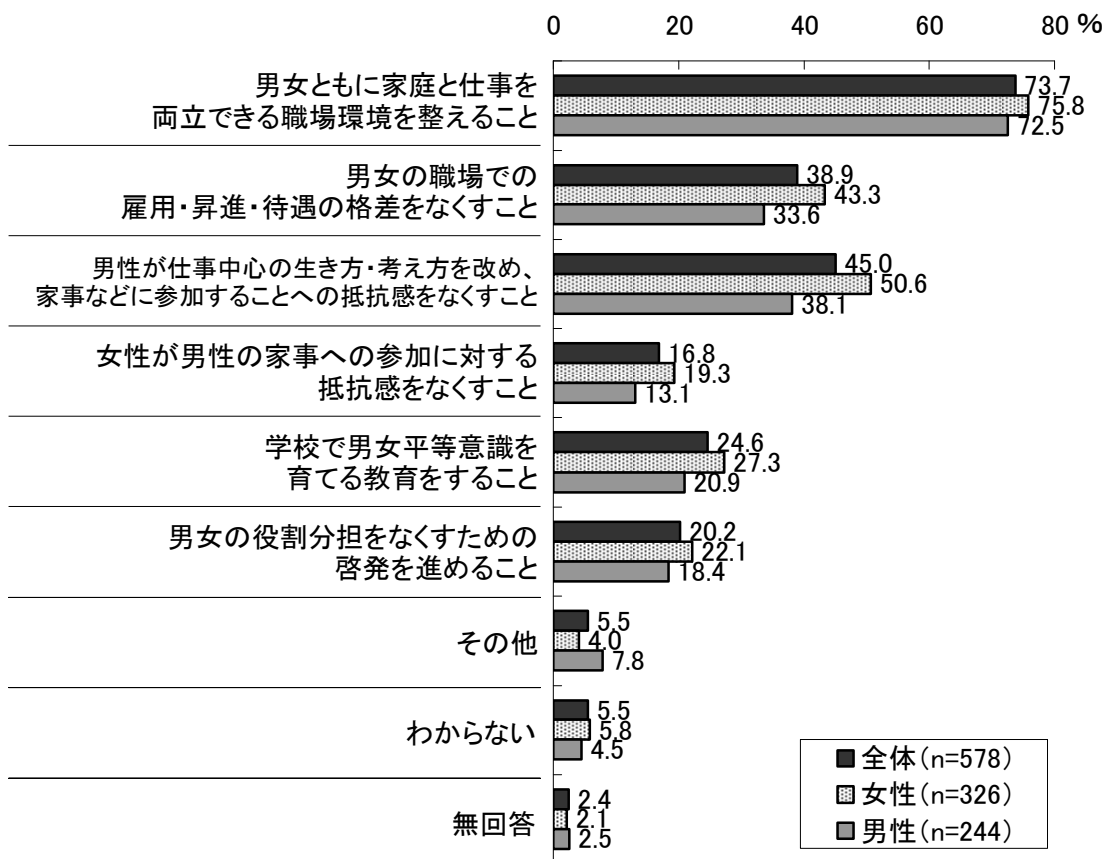




問9 今後、ワーク・ライフ・バランスを実現していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

ワーク・ライフ・バランスを実現していくために必要なことについてみると、全体では「男女ともに家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」が73.7%と最も高く、次いで「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」となっています。

性別にみると、男女とも「男女ともに家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」が最も高くなっています。また、「男女の職場での雇用・昇進・待遇の格差をなくすこと」や「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」では、女性が男性よりも10ポイント前後高くなっています。



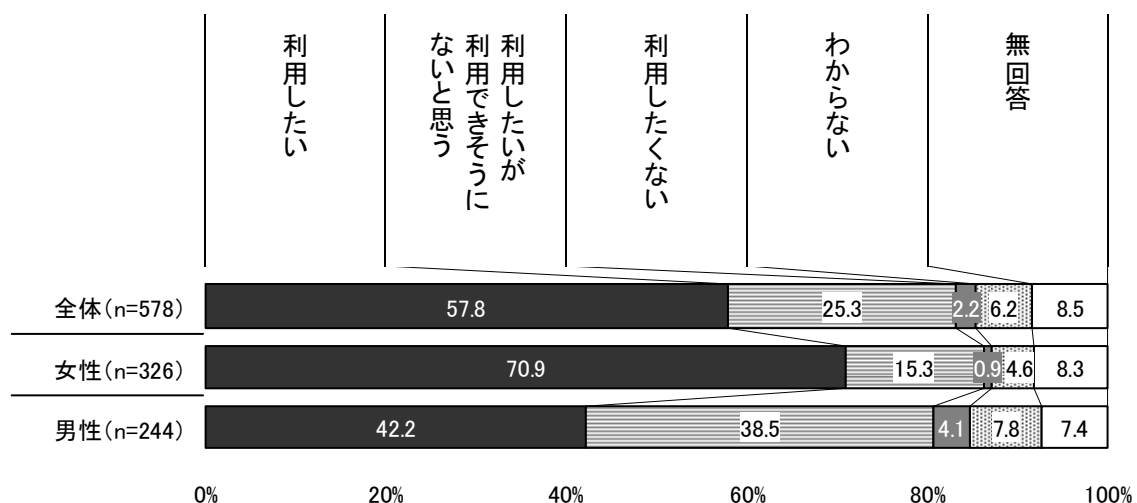
## 4. 仕事について

問 10 育児や家族介護を行うために、法律に基づき男女ともに育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、自分自身が「育児休業制度」や「介護休暇制度」を利用することについてどう思いますか。現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。(各項目で○は1つ)

### ①育児休業制度

育児休業制度の利用意向についてみると、全体では「利用したい」が57.8%と最も高くなっています。また、「利用したい」と「利用したいが利用できそうにないと思う」を合わせた『利用したい』が8割を超えています。

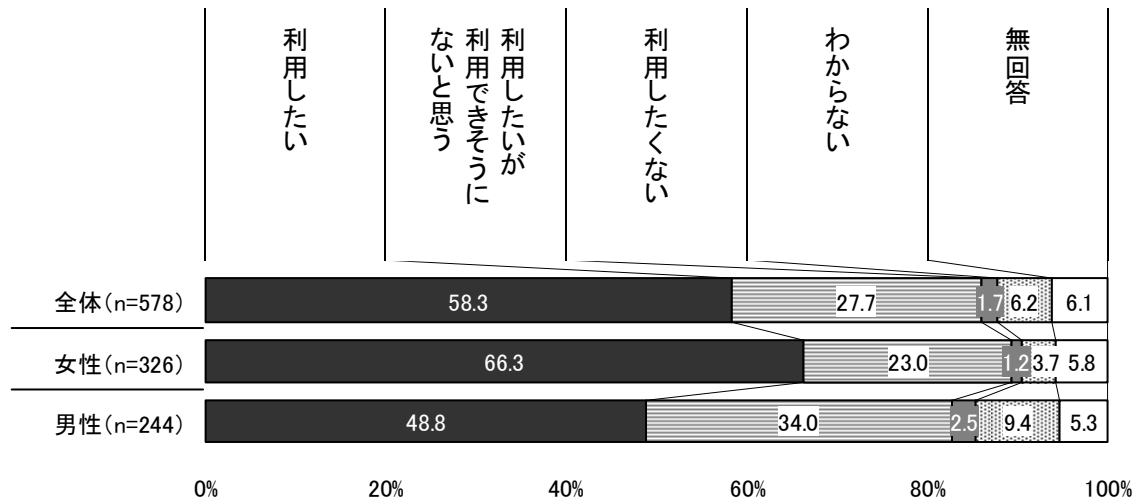
性別にみると、男女とも「利用したい」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも30ポイント弱高くなっています。また、男性では「利用したいが利用できそうにないと思う」が38.5%となっており、女性よりも20ポイント以上高くなっています。



## ②介護休暇制度

介護休暇制度の利用意向についてみると、全体では「利用したい」が58.3%と最も高くなっています。また、「利用したい」と「利用したいが利用できそうにないと思う」を合わせた『利用したい』が8割半ばを占めています。

性別にみると、性別にみると、男女とも「利用したい」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも20ポイント弱高くなっています。また、男性では「利用したいが利用できそうにないと思う」が34.0%となっており、女性よりも11ポイント高くなっています。

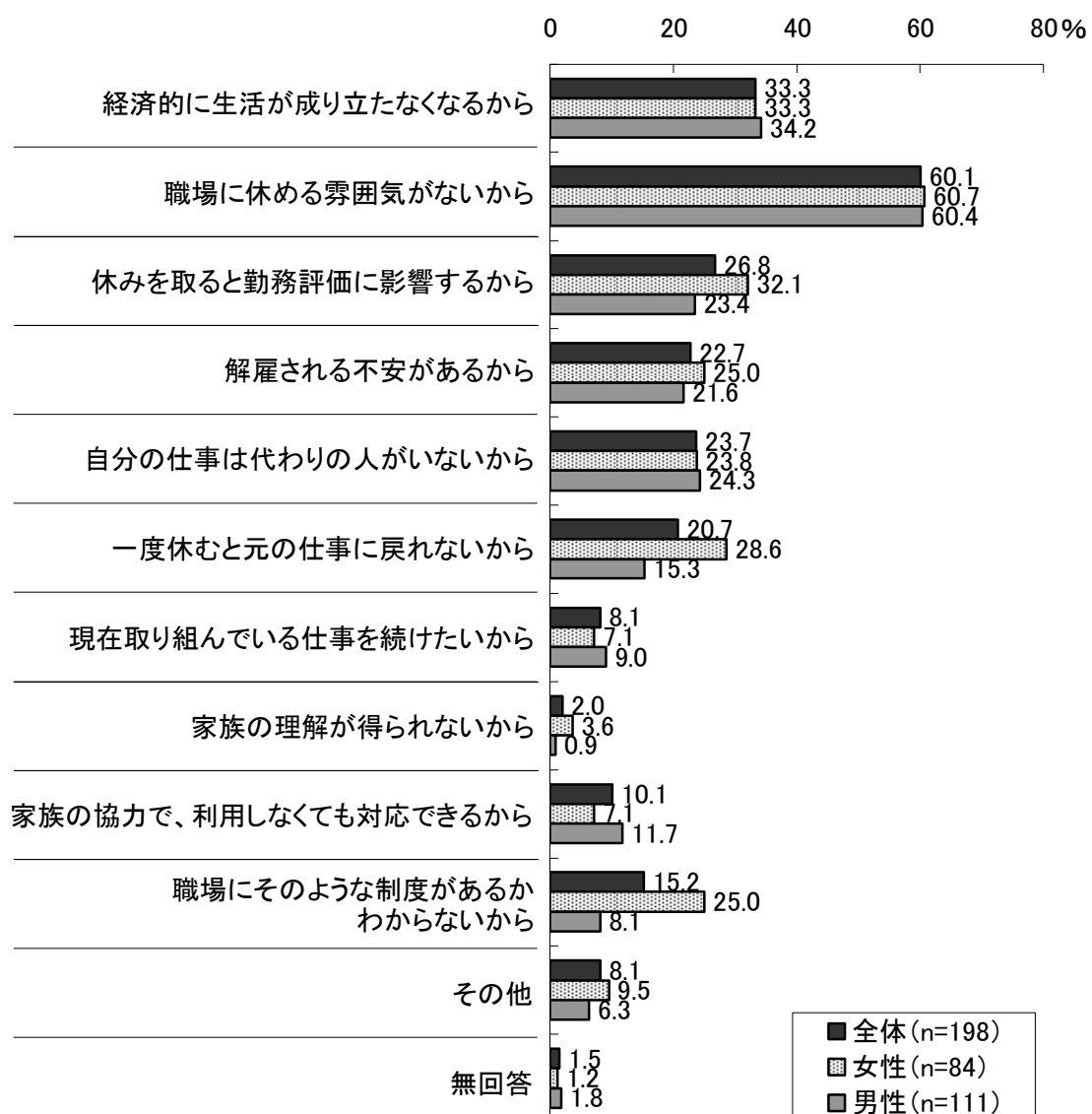


## 問 10 のいずれかで「2」または「3」と回答した方

問 10-1 育児や介護の休業制度を利用できない、またはしない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

育児や介護の休業制度を利用できない、またはしない理由についてみると、全体では「職場に休める雰囲気がないから」が60.1%と最も高く、次いで「経済的に生活が成り立たなくなるから」となっています。

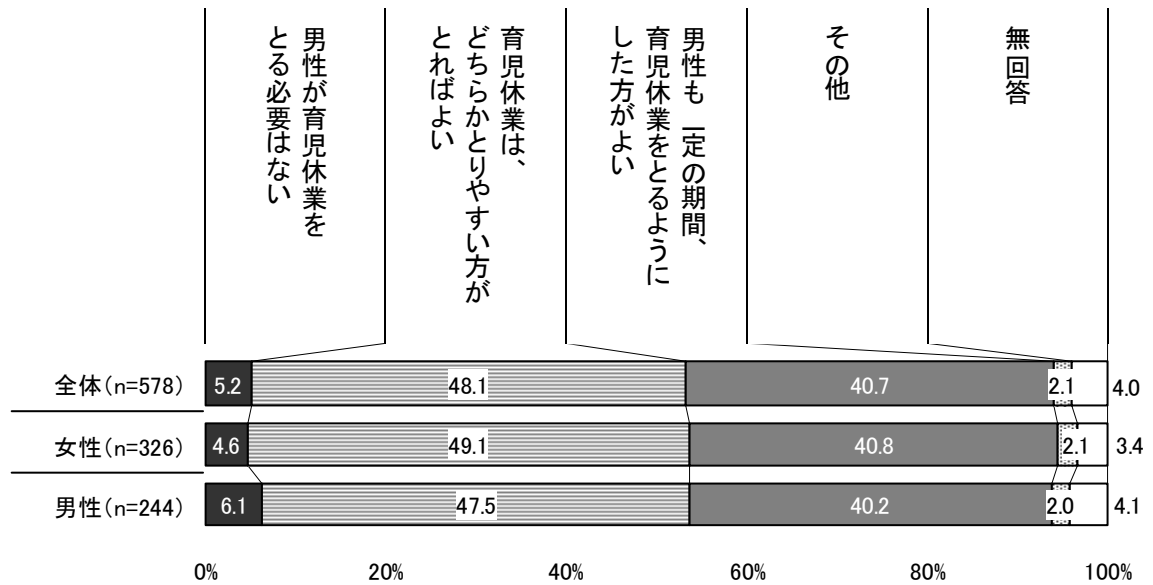
性別にみると、男女とも全体の傾向とほぼ同様となっているものの、「職場にそのような制度があるかわからないから」では女性が男性よりも15ポイント以上、「休みを取ると勤務評価に影響するから」や「一度休むと元の仕事に戻れないから」では女性が男性よりも10ポイント前後高くなっています。



問 11 共働きの男性が育児休業をとることについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

共働きの男性の育児休業取得をどう思うかについてみると、全体では「育児休業は、どちらかとりやすい方がとればよい」が48.1%と最も高くなっています。

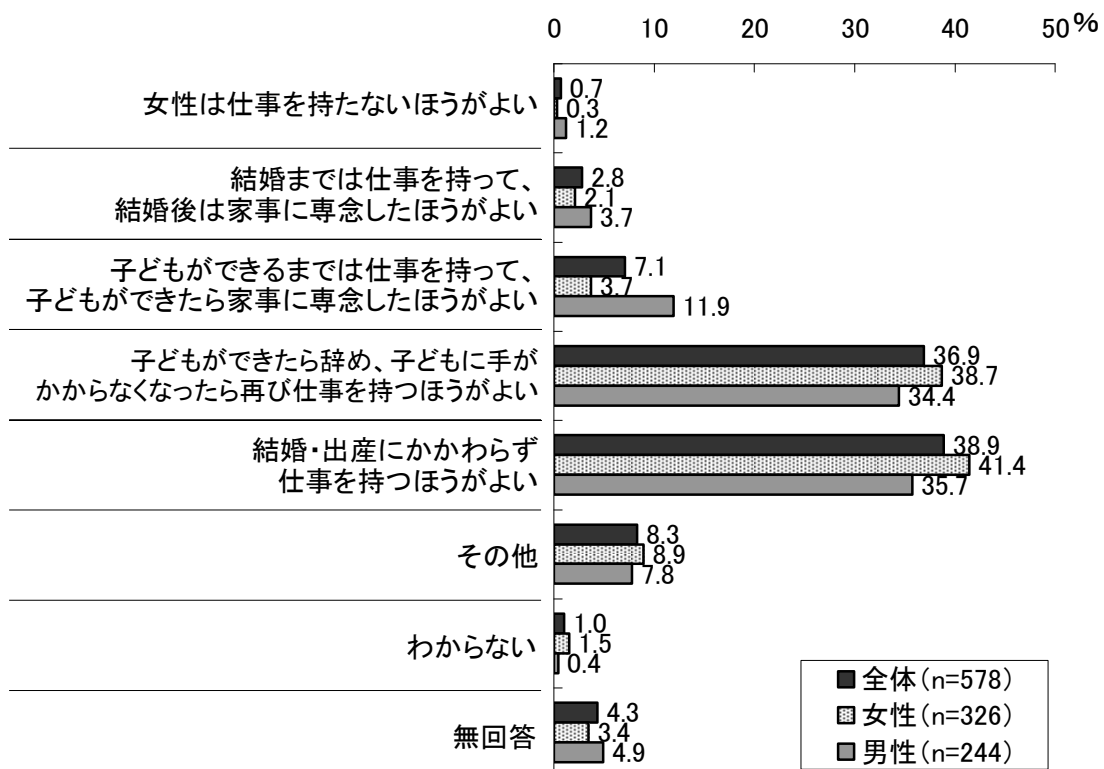
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



問 12 女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。(〇は1つ)

女性が仕事を持つことをどう思うかについてみると、全体では「結婚・出産にかかわらず仕事を持つほうがよい」が38.9%と最も高く、次いで「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事を持つほうがよい」となっています。

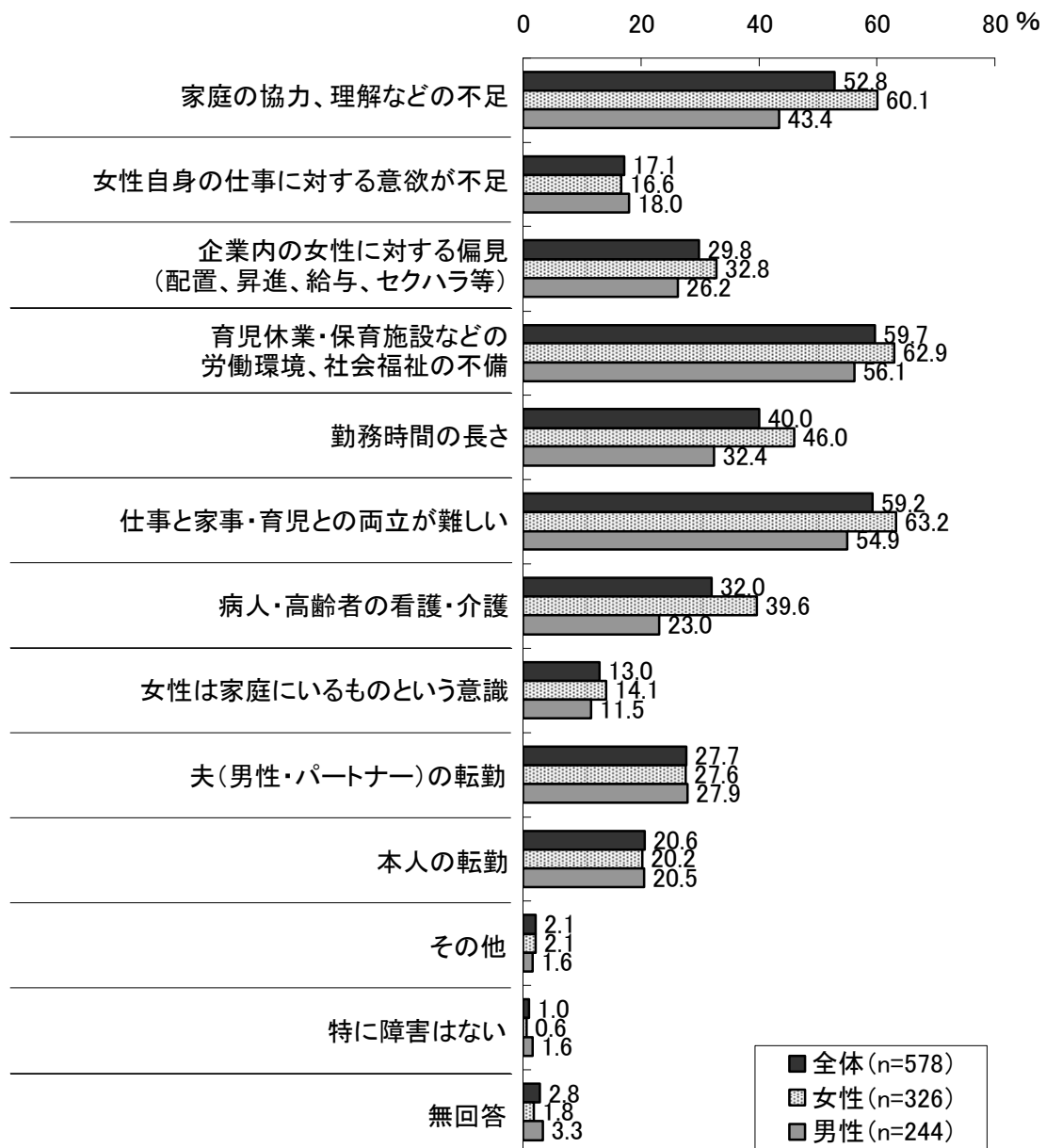
性別にみると、男女とも「結婚・出産にかかわらず仕事を持つほうがよい」が最も高く、次いで「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事を持つほうがよい」となっているものの、いずれも女性が男性よりもやや高くなっています。また、「子どもができるまでは仕事を持って、子どもができたなら家事に専念したほうがよい」では男性が女性よりも10ポイント弱高くなっています。



問 13 女性が仕事をもち続ける上で、障害になるものは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

女性が仕事をもち続ける上で、障害になるものについてみると、全体では「育児休業・保育施設などの労働環境、社会福祉の不備」が59.7%と最も高く、次いで「仕事と家事・育児との両立が難しい」となっています。

性別にみると、女性では「仕事と家事・育児との両立が難しい」、男性では「育児休業・保育施設などの労働環境、社会福祉の不備」が最も高くなっています。また、「家庭の協力、理解などの不足」や「勤務時間の長さ」「病人・高齢者の看護・介護」では、女性が男性よりも15ポイント前後高くなっています。



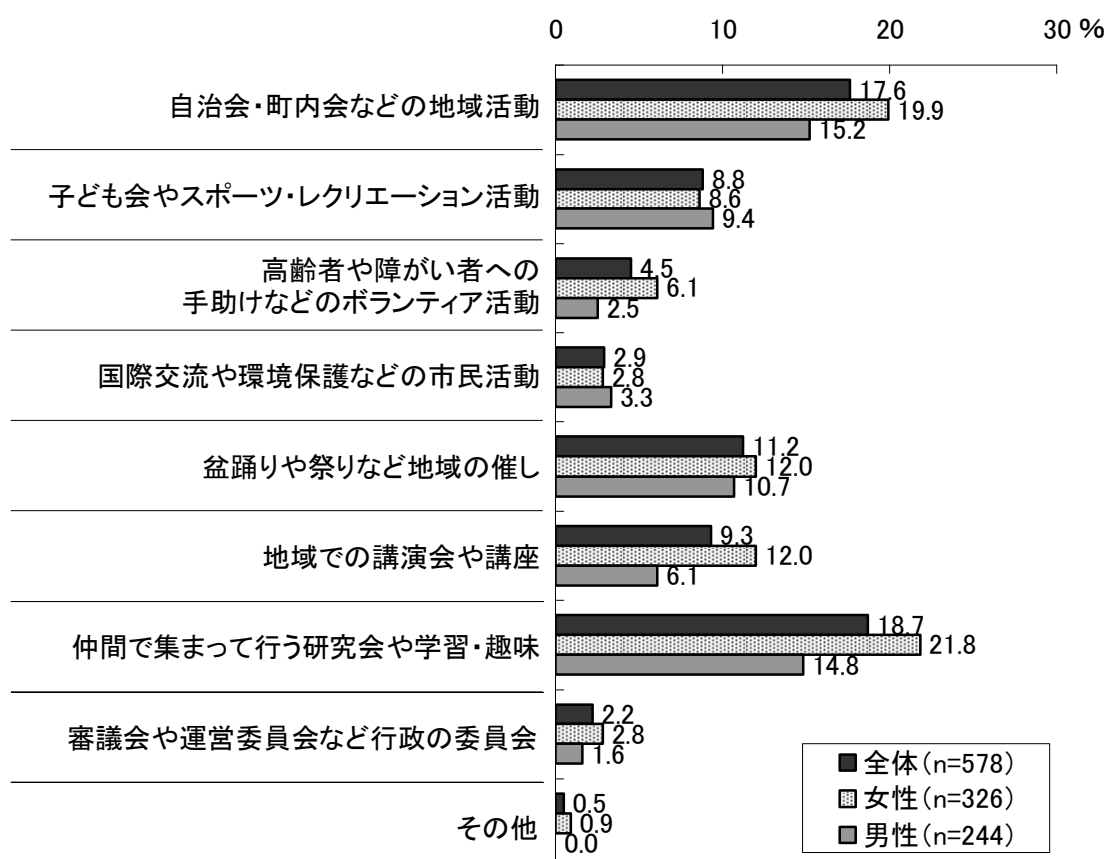
## 5. 社会参加・地域参加について

問 14 あなたは次にあげるような活動に参加していますか。また、今後参加したい（今後も参加したい）と思われるのはどのような活動ですか。（各項目であてはまるものすべてに○）

### ■現在、参加している

活動への参加状況についてみると、全体では「仲間で集まって行う研究会や学習・趣味」が18.7%と最も高く、次いで「自治会・町内会などの地域活動」となっています。

性別にみると、女性では「仲間で集まって行う研究会や学習・趣味」、男性では「自治会・町内会などの地域活動」が最も高くなっているものの、いずれも女性が高くなっています。特に、「地域での講演会や講座」「仲間で集まって行う研究会や学習・趣味」では、女性が男性よりも5ポイント以上高くなっています。

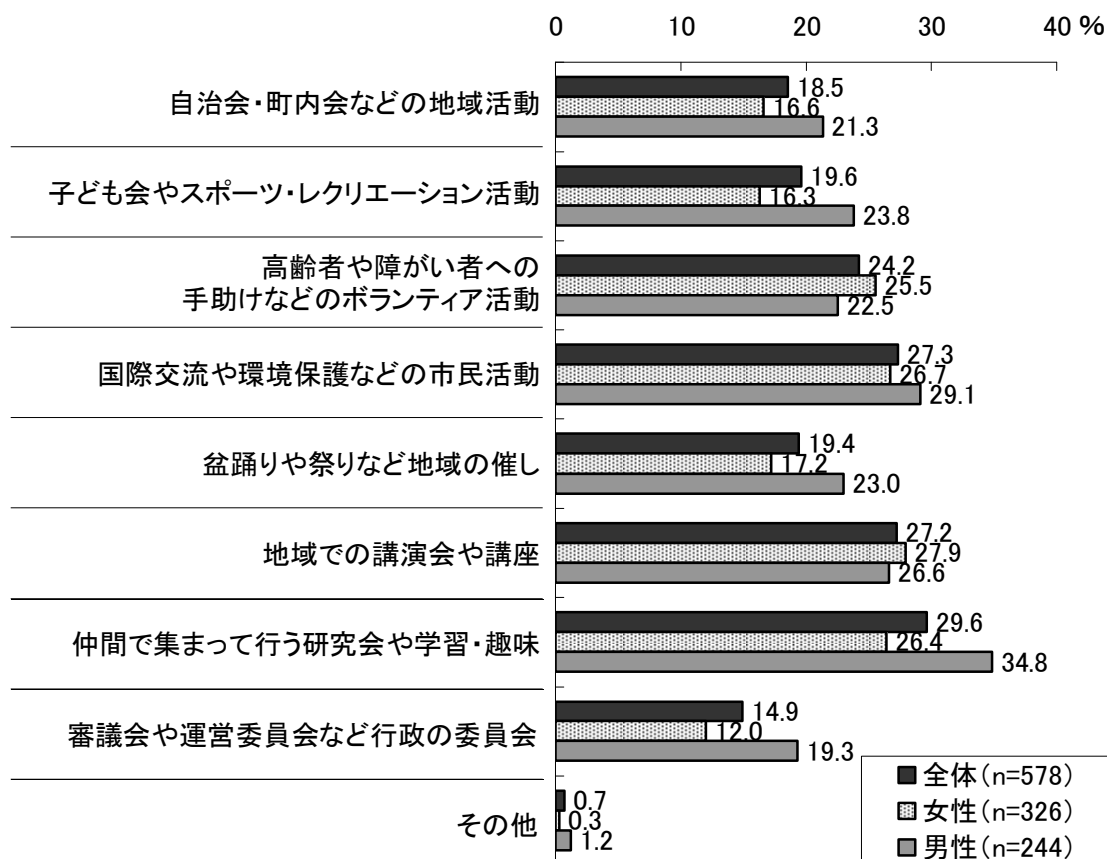




## ■今後、参加したい

活動への参加意向についてみると、全体では「仲間で集まって行う研究会や学習・趣味」が29.6%と最も高く、次いで「国際交流や環境保護などの市民活動」となっています。

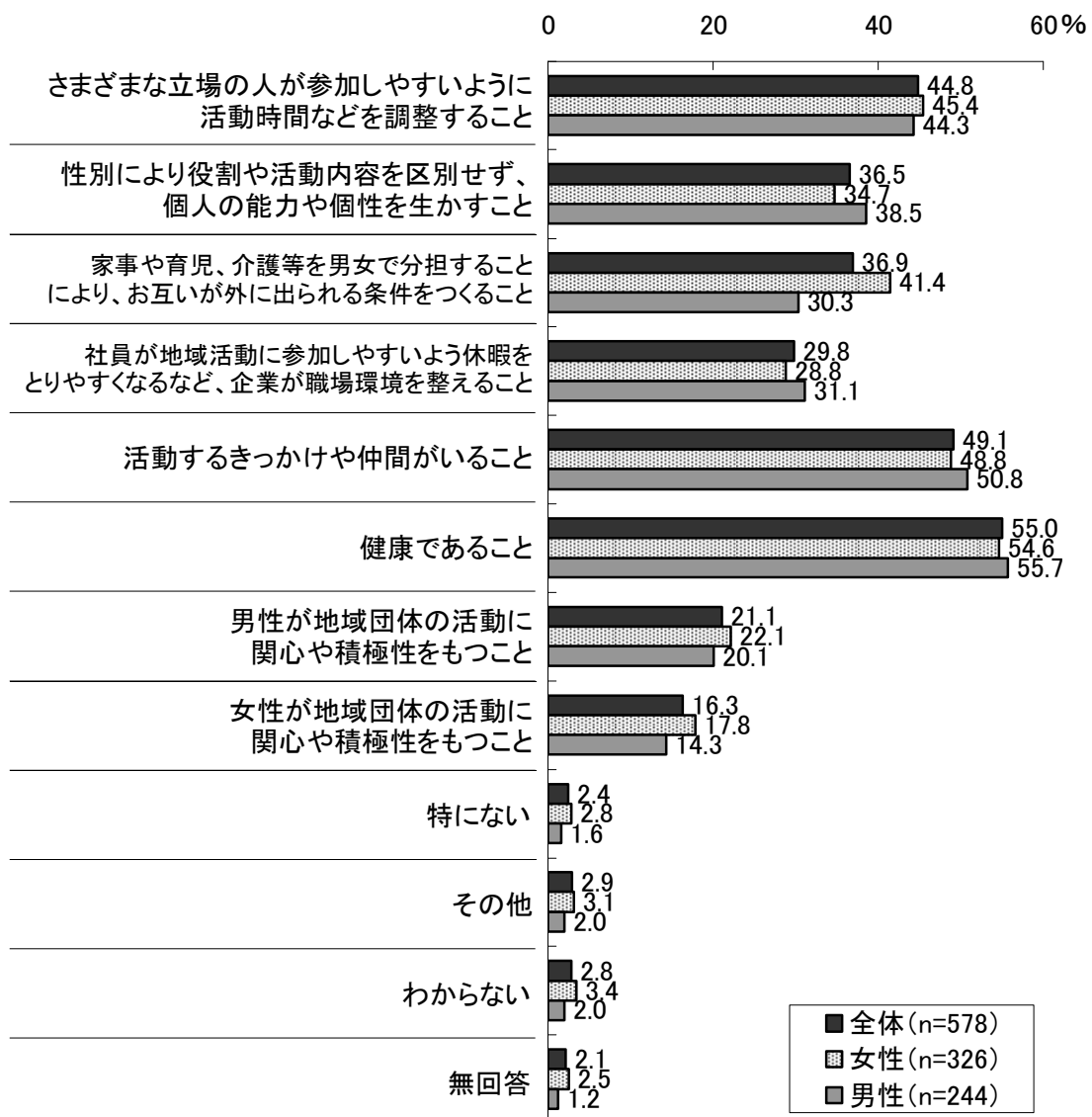
性別にみると、女性では「地域での講演会や講座」、男性では「仲間で集まって行う研究会や学習・趣味」が最も高くなっています。また、「子ども会やスポーツ・レクリエーション活動」や「盆踊りや祭りなど地域の催し」「仲間で集まって行う研究会や学習・趣味」「審議会や運営委員会など行政の委員会」では、男性が女性よりも5ポイント以上高くなっています。



問 15 男女がともに地域活動に参加し、男女共同参画を進めるためにどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男女がともに地域活動に参加し、男女共同参画を進めるために必要なことについてみると、全体では「健康であること」が55.0%と最も高く、次いで「活動するきっかけや仲間がいること」となっています。

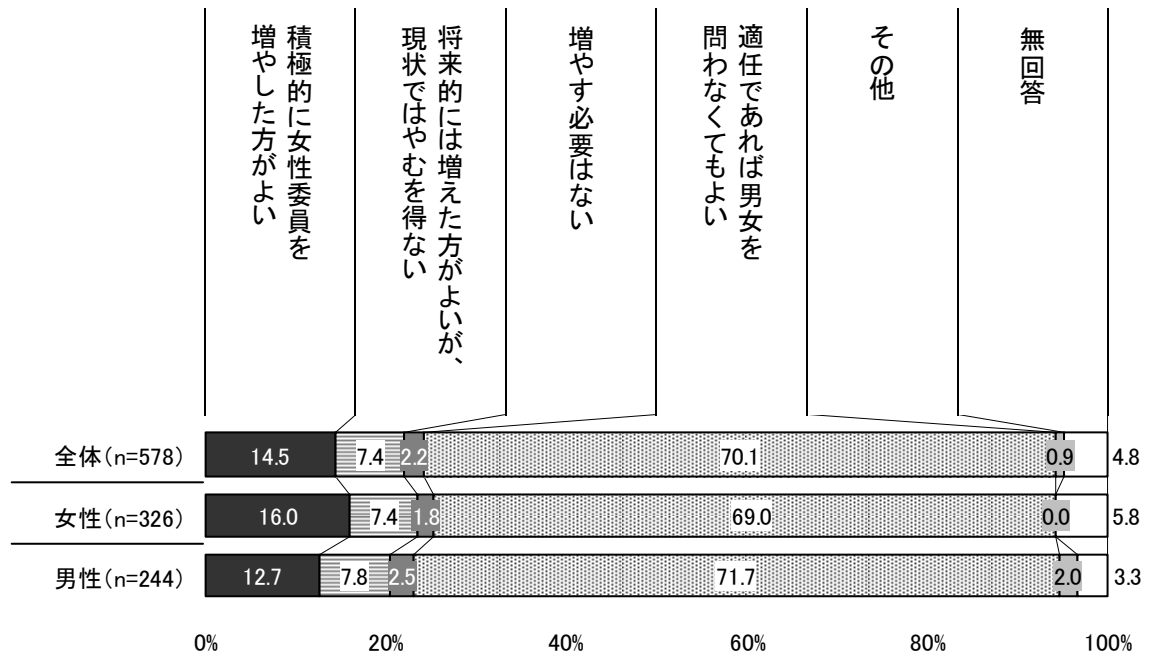
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっているものの、「家事や育児、介護等を男女で分担することにより、お互いが外に出られる条件をつくること」では女性が男性よりも10ポイント以上高くなっています。



問 16 小金井市の設置する審議会や附属機関および行政委員会の委員数全体に占める女性委員の割合は 32.5%（平成 23 年 4 月現在）です。このことについて、あなたはどのように思いますか。（○は 1 つ）

小金井市の女性委員の割合をどう思うかについてみると、全体では「適任であれば男女を問わなくてもよい」が 70.1%と最も高く、次いで「積極的に女性委員を増やした方がよい」となっています。

性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



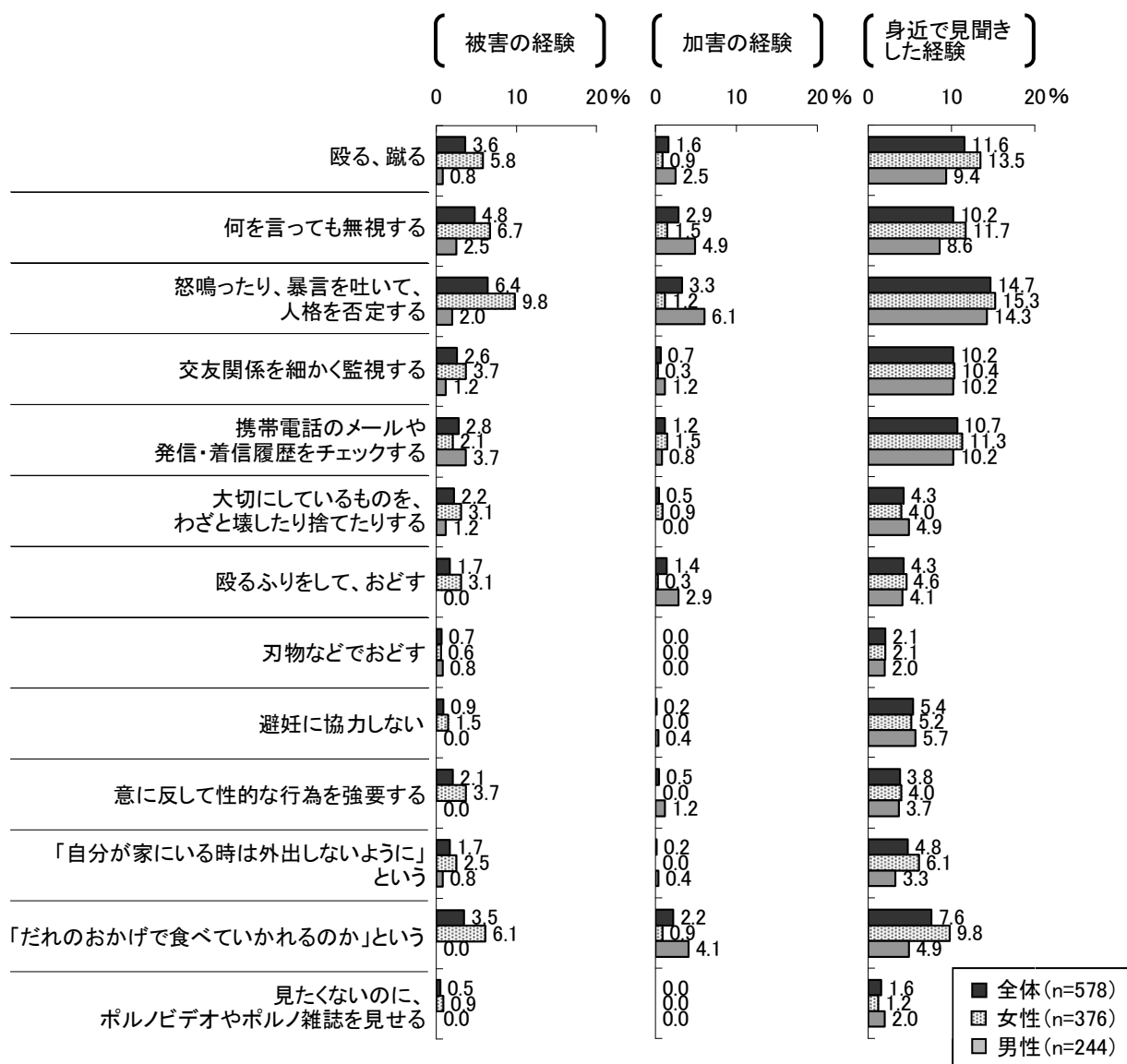
## 6. 人権について

問 17 配偶者等からの暴力について経験したり、見たり聞いたりしたことがありますか。(各項目であてはまるものすべてに○)

### ■被害の経験／加害の経験／身近で見聞きした経験

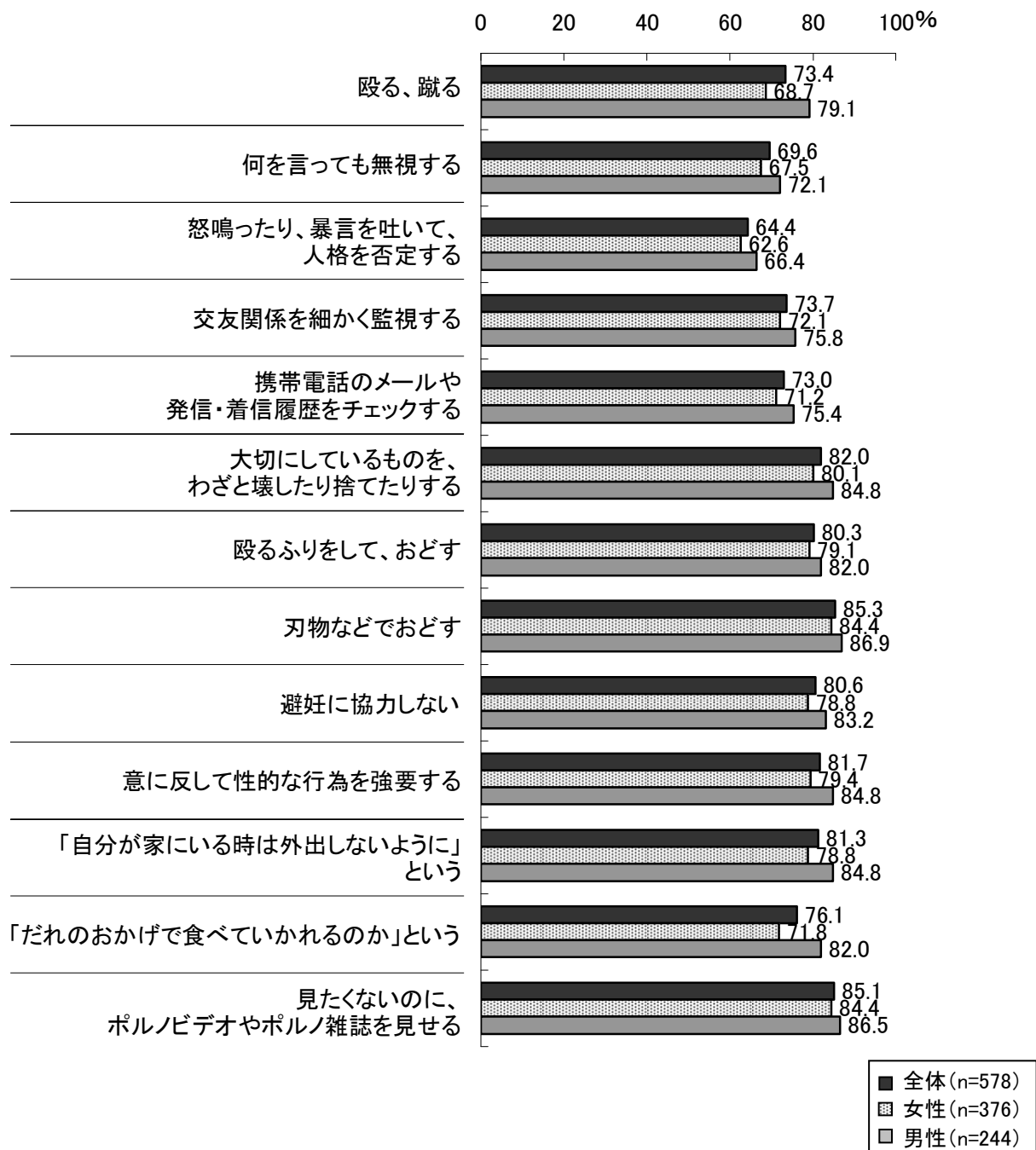
配偶者等からの暴力で経験したり、見たり聞いたりした経験についてみると、被害の経験では、「怒鳴ったり、暴言を吐いて、人格を否定する」が女性で1割弱、加害の経験では「何を言っても無視する」や「怒鳴ったり、暴言を吐いて、人格を否定する」「『だれのおかげで食べていかれるのか』という」が男性でやや高くなっています。また、身近で見聞きした経験では、全体・男女とも「怒鳴ったり、暴言を吐いて、人格を否定する」が最も高くなっているほか、ほぼすべての項目で女性が男性よりも高くなっています。

配偶者等には、恋人、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手・事実婚を解消した相手）も含まれます。



## ■いずれの経験もない

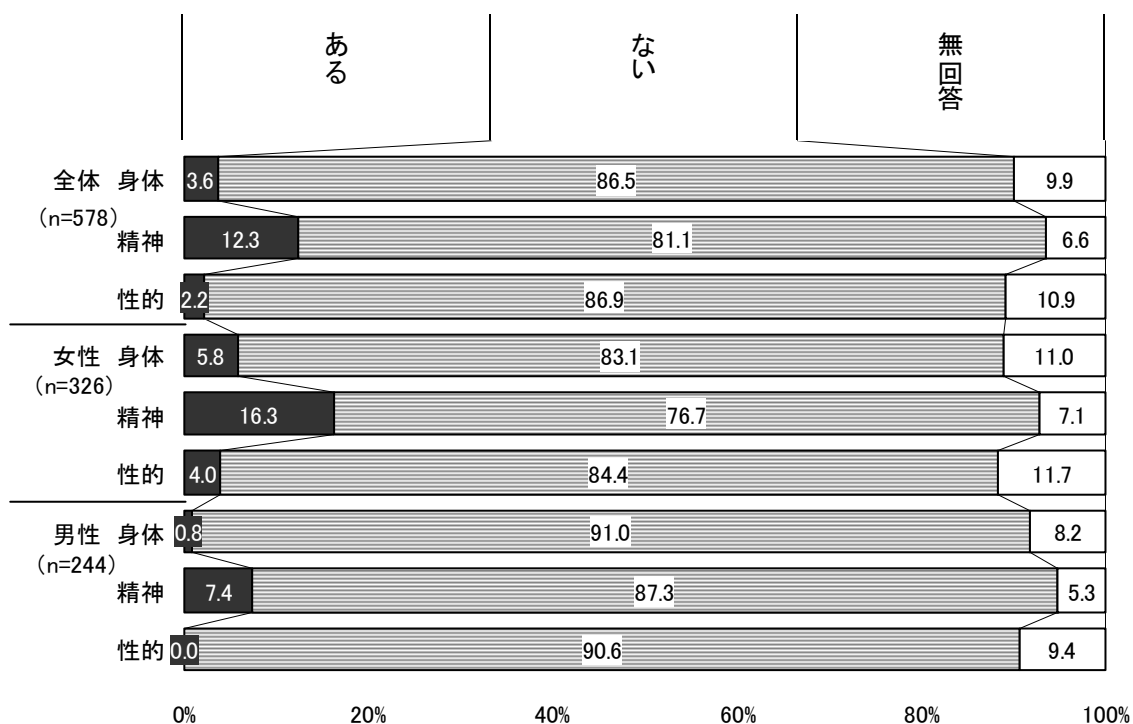
配偶者等からの暴力で経験したり、見たり聞いたりした経験で、いずれの経験もない場合についてみると、全体・男女ともほぼすべての項目で7割から8割を超えているものの、女性では「殴る、蹴る」や「何を言っても無視する」「怒鳴ったり、暴言を吐いて、人格を否定する」、男性では「怒鳴ったり、暴言を吐いて、人格を否定する」が6割台となっており、やや低くなっています。



## ■被害の経験

配偶者等からの暴力で被害の経験についてみると、いずれの暴力被害においても全体では「ない」が8割を超えているものの、精神的暴力被害については1割を超えてやや高くなっています。

性別にみると、男女ともいずれの暴力被害において「ない」が最も高くなっているものの、女性の精神的暴力被害が1割半ばを占めており、男性よりも10ポイント弱高くなっています。

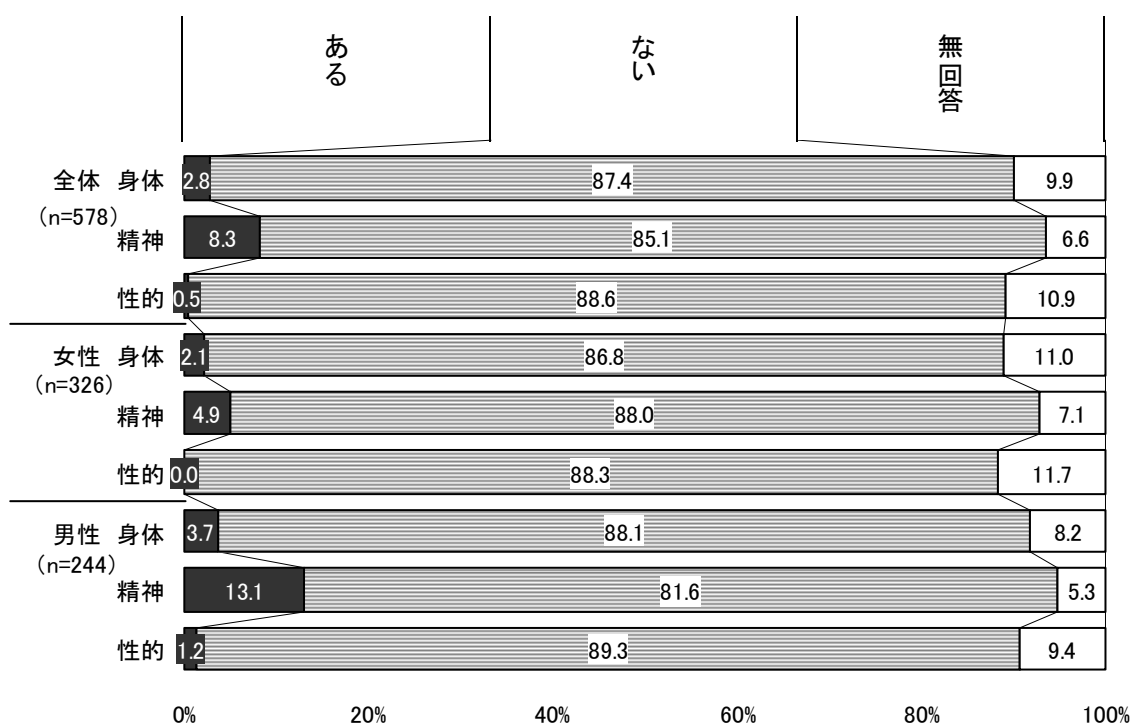


※被害の「ある」は問17のいずれかで「被害の経験がある」と回答した方で、身体的暴力は「殴る、蹴る」、精神的暴力は「何を言っても無視する」「怒鳴ったり、暴言を吐いて、人格を否定する」「交友関係を細かく監視する」「携帯電話のメールや発信・着信履歴をチェックする」「大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする」「殴るふりをして、おどす」「刃物などでおどす」「『自分が家にいる時は外出しないように』という」「『だれのおかげで食べていかれるのか』という」、性的暴力は「避妊に協力しない」「意に反して性的な行為を強要する」「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」として集計しています。

## ■加害の経験

配偶者等からの暴力で加害の経験についてみると、いずれの暴力加害においても全体では「ない」が8割を超えているものの、精神的暴力加害については1割弱とやや高くなっています。

性別にみると、男女ともいずれの暴力加害において「ない」が最も高くなっているものの、男性の精神的暴力加害が1割を超えており、女性よりも10ポイント弱高くなっています。



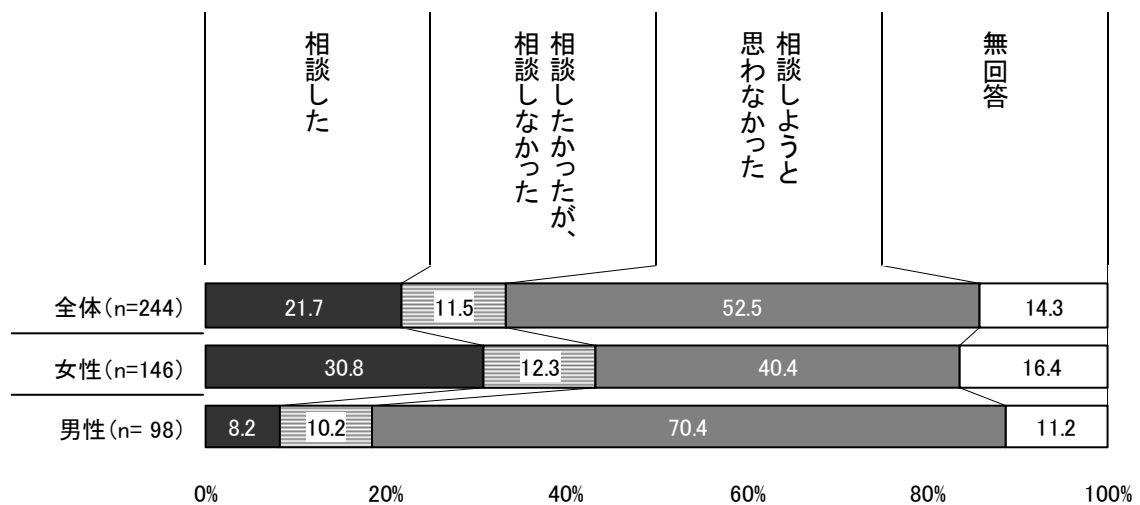
※加害の「ある」は問17のいずれかで「加害の経験がある」と回答した方で、身体的暴力は「殴る、蹴る」、精神的暴力は「何を言っても無視する」「怒鳴ったり、暴言を吐いて、人格を否定する」「交友関係を細かく監視する」「携帯電話のメールや発信・着信履歴をチェックする」「大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする」「殴るふりをして、おどす」「刃物などでおどす」「『自分が家にいる時は外出しないように』という」「『だれのおかげで食べていかれるのか』という」、性的暴力は「避妊に協力しない」「意に反して性的な行為を強要する」「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」として集計しています。

## 問 17 のいずれかで「1」～「3」と回答した方

### 問 17-1 配偶者等からの問 17 のような行為についてだれかに相談しましたか。(○は1つ)

配偶者等からの暴力行為をだれかに相談したかについては、全体では「相談しようと思わなかった」が 52.5%と最も高く、「相談したかったが、相談しなかった」と「相談しようと思わなかった」を合わせた『相談しなかった』が6割半ばを占めています。

性別にみると、男女とも「相談しようと思わなかった」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも 30 ポイント高くなっています。また、「相談した」では女性が男性よりも 20 ポイント以上高く、男女で対応の仕方に違いがみられます。



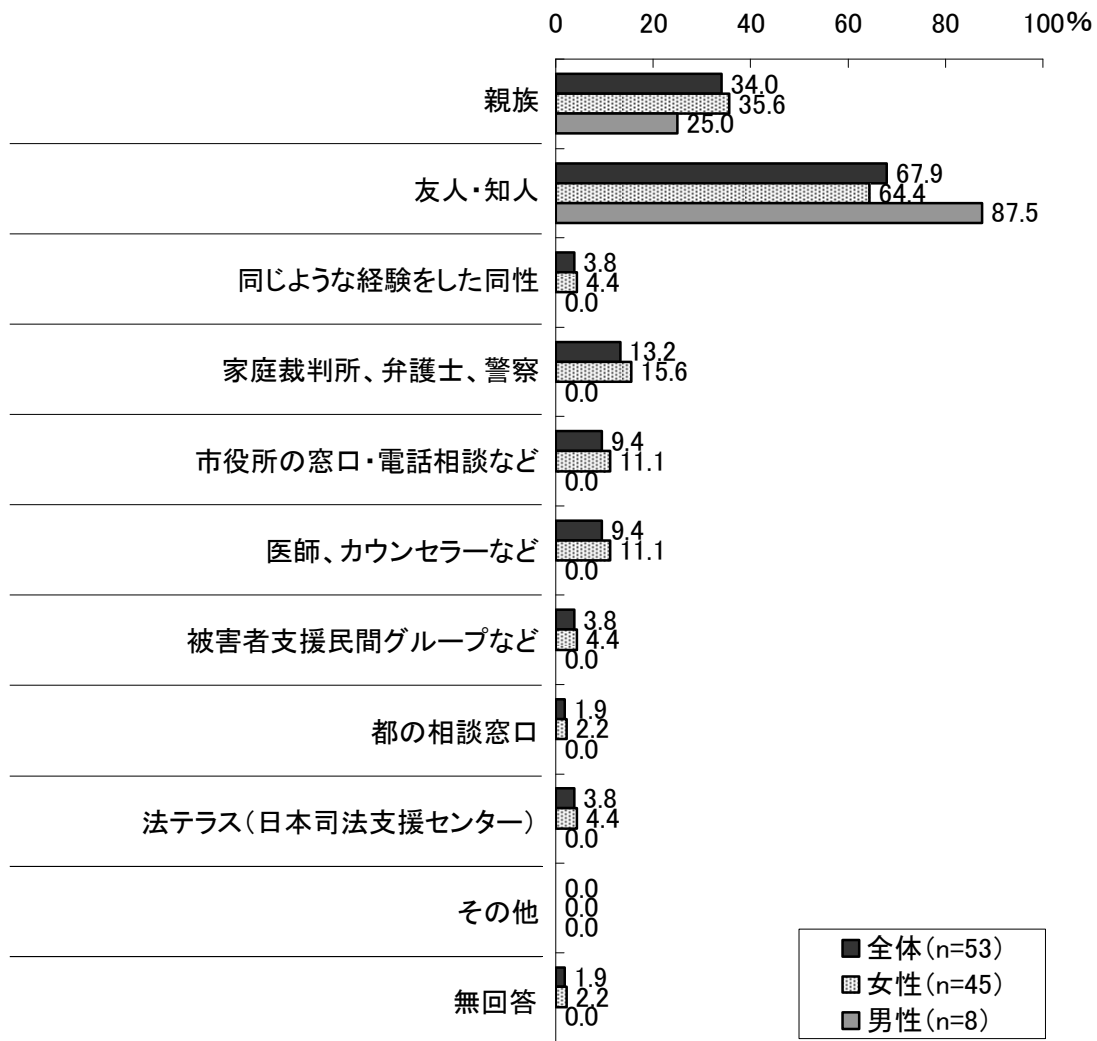


### 問 17-1 で「1」と回答した方

問 17-2 実際に、だれ（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

相談先についてみると、全体では「友人・知人」が 67.9%と最も高く、次いで「親族」となっています。

性別にみると、男女とも「友人・知人」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも 20 ポイント以上高くなっています。また、男性は「親族」と「友人・知人」以外には回答がなく、身近な人間以外への相談がしにくい状況がうかがえます。

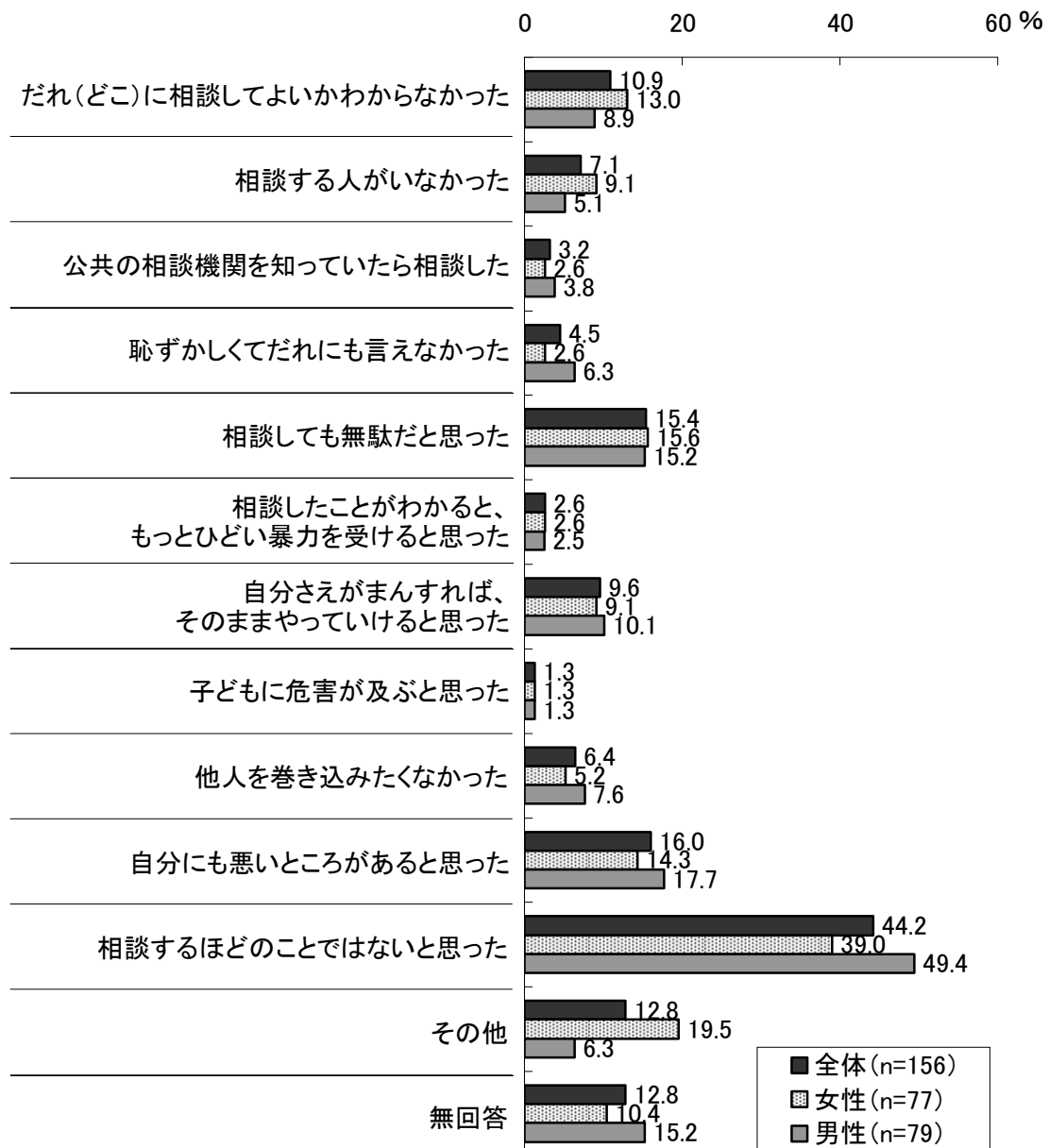


### 問 17-1 で「2」または「3」と回答した方

問 17-3 だれ（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

相談しなかった理由についてみると、全体では「相談するほどのことではないと思った」が44.2%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」となっています。

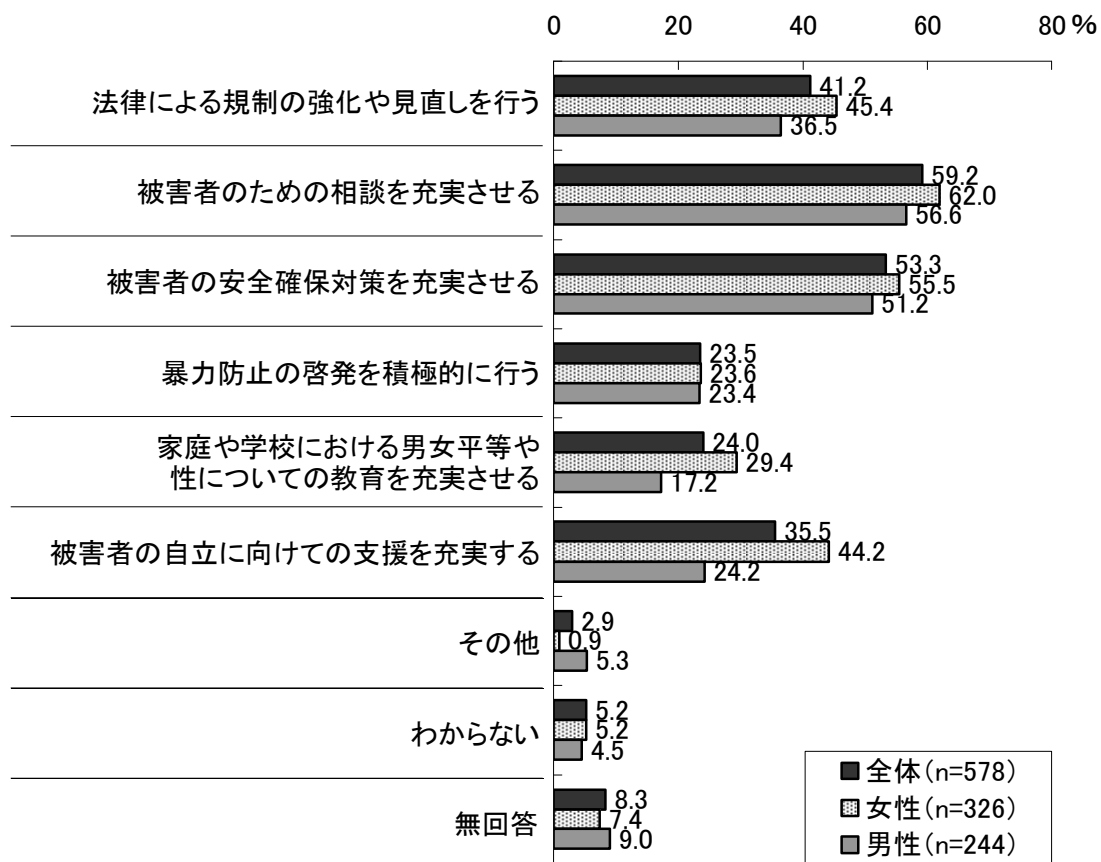
性別にみると、男女とも「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも約10ポイント高くなっています。



問 18 配偶者等からの暴力防止や被害者の支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

配偶者等からの暴力防止や被害者の支援のために必要な対策についてみると、全体では「被害者のための相談を充実させる」が59.2%と最も高く、次いで「被害者の安全確保対策を充実させる」となっています。

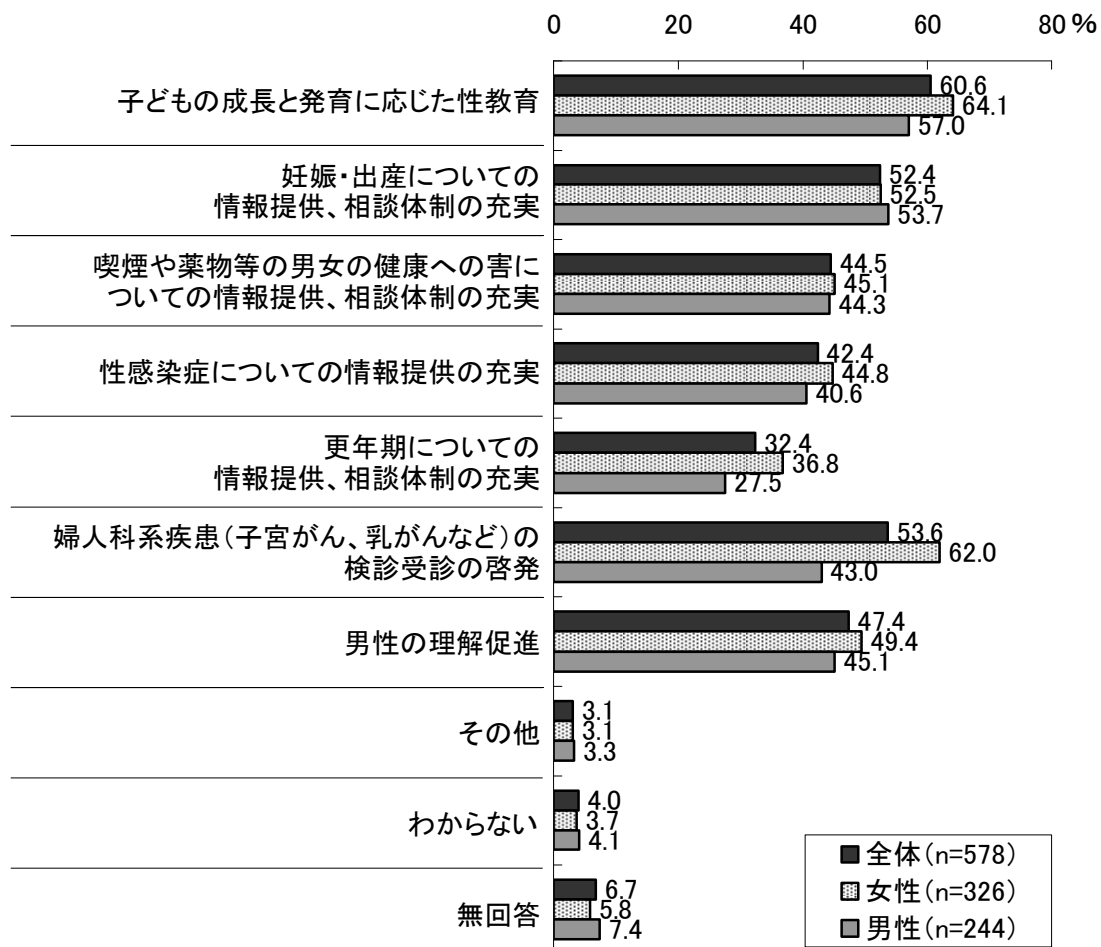
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっているものの、「被害者の自立に向けての支援を充実する」では女性が男性よりも20ポイント、「法律による規制の強化や見直しを行う」や「家庭や学校における男女平等や性についての教育を充実させる」では女性が男性よりも10ポイント前後高くなっています。



問 19 あなたは、女性が性や妊娠・出産に関して自分で決めたり、自分の健康を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

女性が性や妊娠・出産に関して自分で決めたり、自分の健康を守るために必要なことについてみると、全体では「子どもの成長と発育に応じた性教育」が60.6%と最も高く、次いで「婦人科系疾患（子宮がん、乳がんなど）の検診受診の啓発」となっています。

性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっているものの、「婦人科系疾患（子宮がん、乳がんなど）の検診受診の啓発」では女性が男性よりも19ポイント高くなっています。



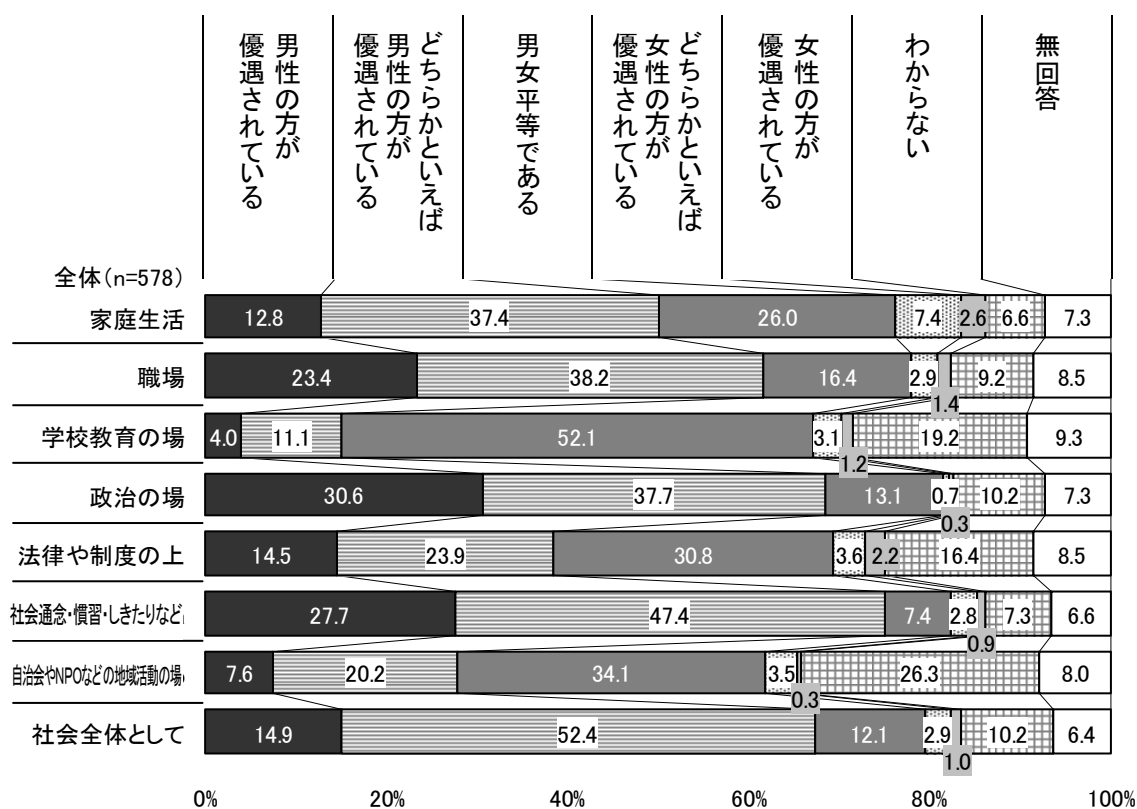
## 7. 男女共同参画の推進について

問 20 あなたは、次のような場で男女が平等になっていると思いますか。(各項目で○は1つ)

各分野における男女の地位についてみると、全体で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』では、社会通念・慣習・しきたりなどの分野が75.1%と最も高く、次いで政治の場となっています。

一方、「男女平等である」では、学校教育の場が52.1%と最も高く、次いで自治会やNPOなどの地域活動の場となっています。

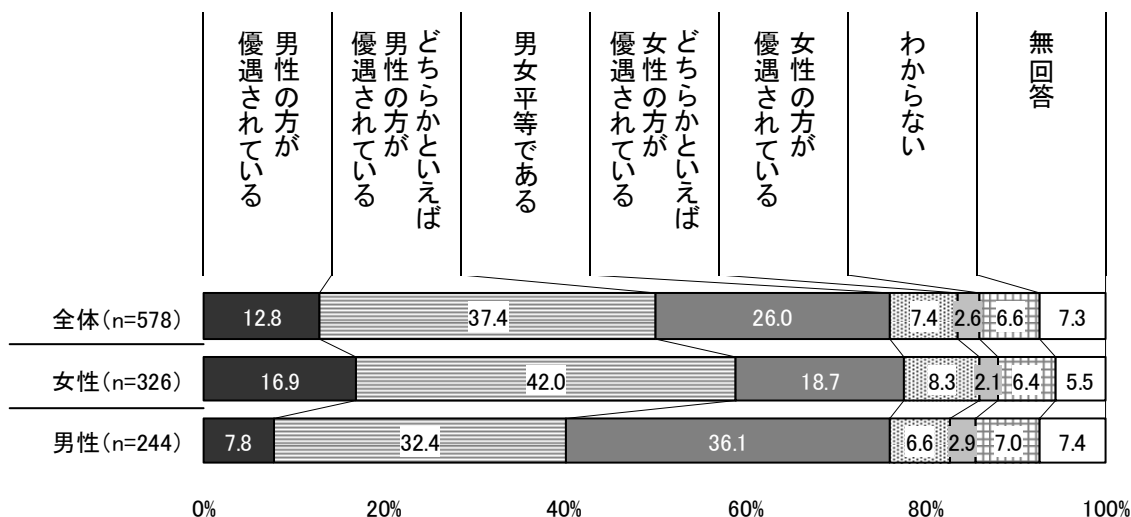
また、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』は、家庭生活で10.0%となっているほかは、いずれも1割に満たない状況です。



## ア) 家庭生活

家庭生活における男女の地位についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.4%と最も高く、『男性優遇』が半数を占めています。

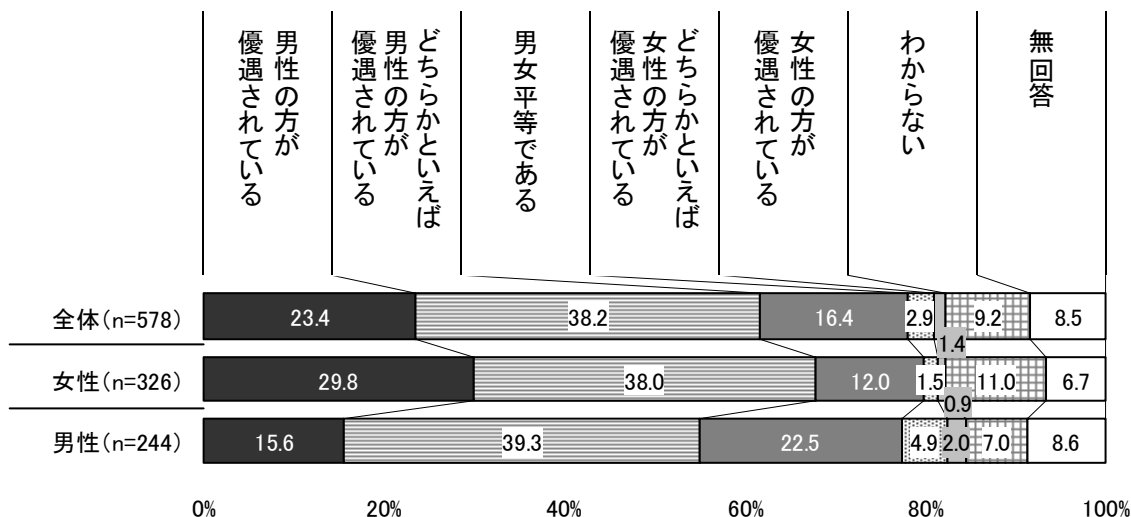
性別にみると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、男性では「男女平等である」が最も高くなっています。また、「男女平等である」で男性が女性よりも20ポイント弱高くなっており、男女で感じ方に違いがみられます。



## イ) 職場

職場における男女の地位についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が38.2%と最も高く、『男性優遇』が6割を超えています。

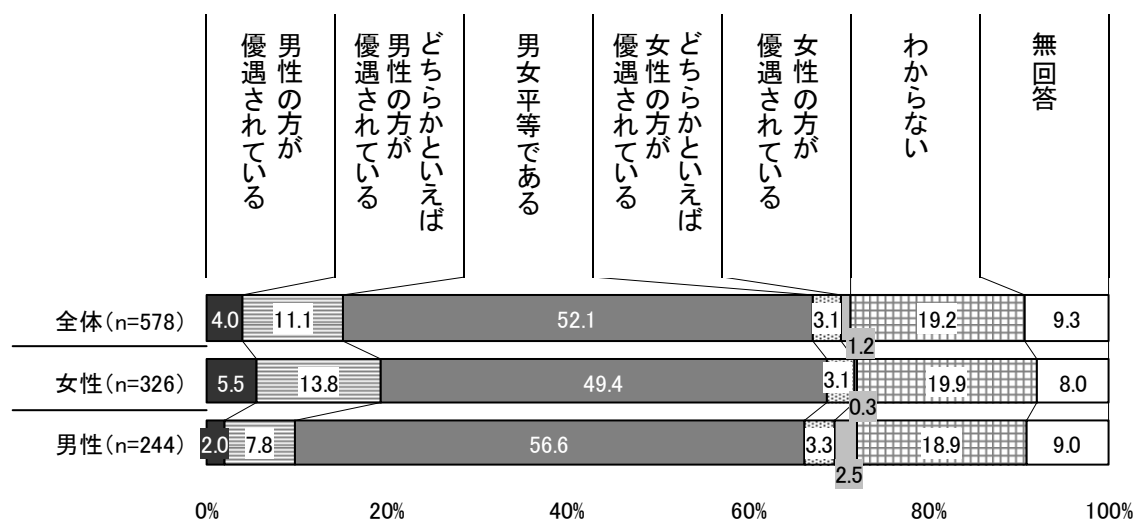
性別にみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、「男性の方が優遇されている」で女性が男性よりも15ポイント弱、「男女平等である」で男性が女性よりも約10ポイント高くなっており、男女で感じ方に違いがみられます。



## ウ) 学校教育の場

学校教育の場における男女の地位についてみると、全体では「男女平等である」が52.1%と最も高く、半数以上を占めています。

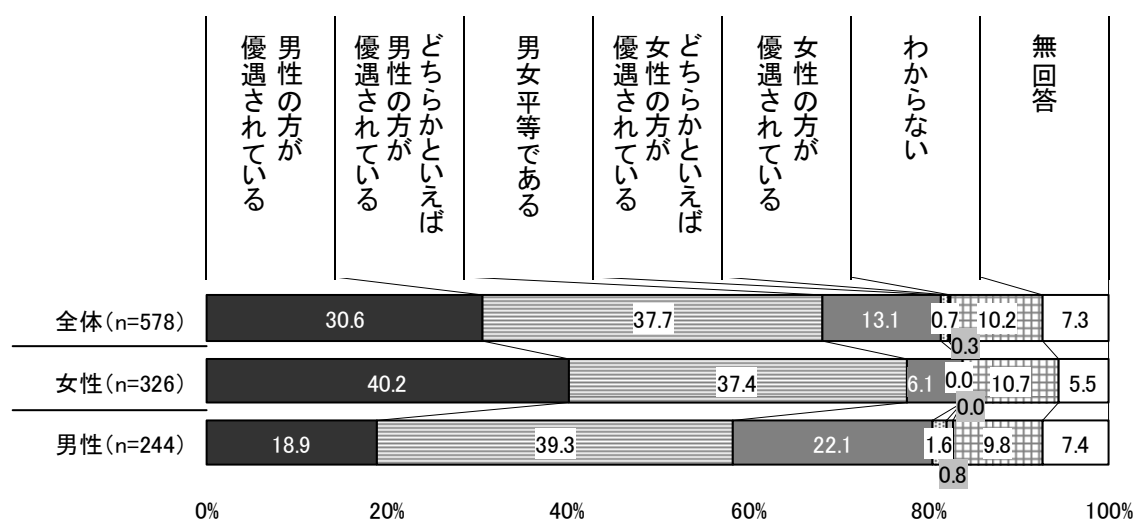
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも5ポイント以上高くなっています。また、『男性優遇』で女性が男性よりも約10ポイント高くなっています。



## エ) 政治の場

政治の場における男女の地位についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.7%と最も高く、『男性優遇』が7割弱を占めています。

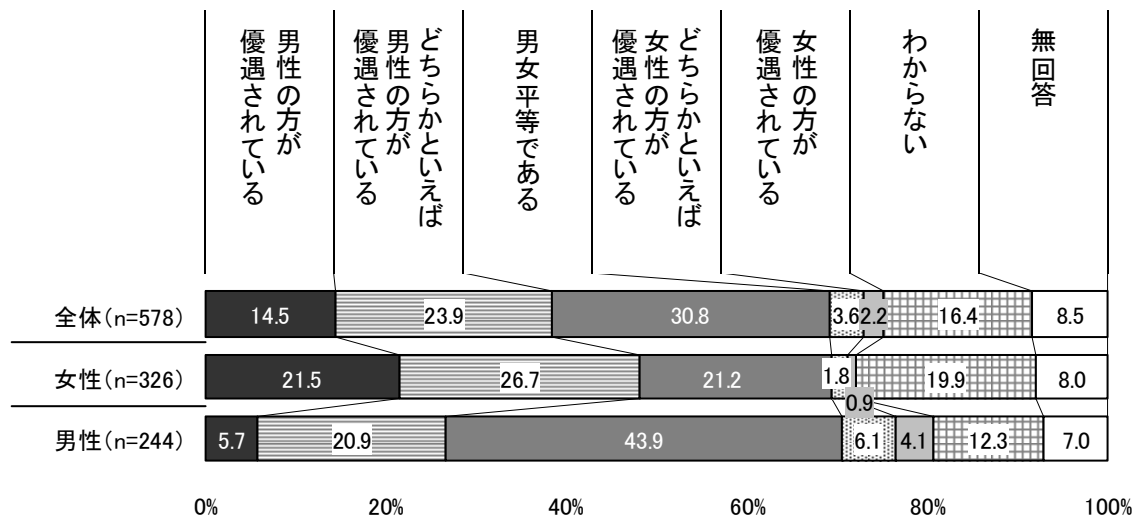
性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、『男性優遇』で女性が男性よりも約20ポイント高くなっており、女性の『男性優遇』感が強いことがうかがえます。



## オ) 法律や制度の上

法律や制度の上の男女の地位についてみると、全体では「男女平等である」が30.8%と最も高くなっています。

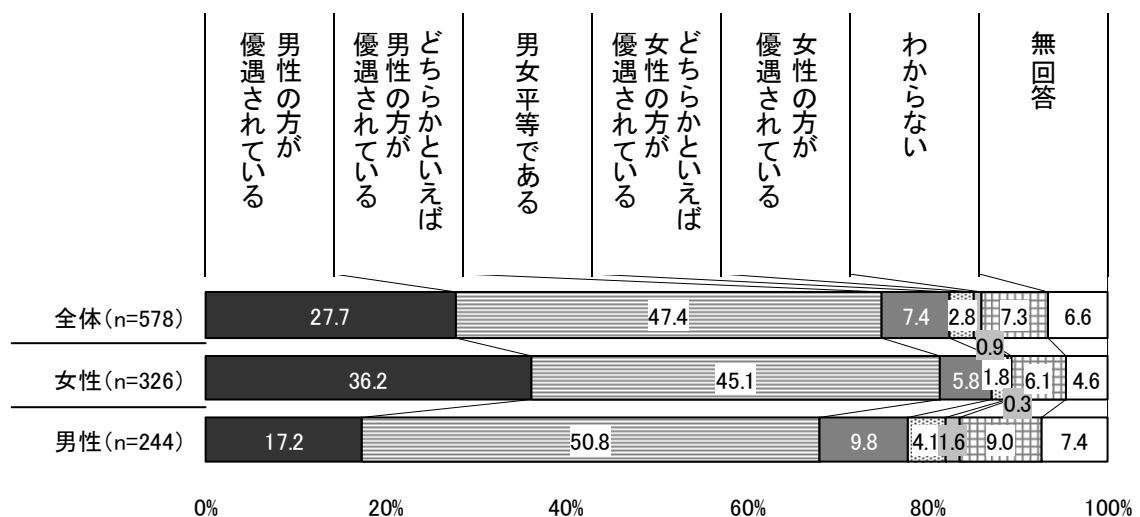
性別にみると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、男性では「男女平等である」が最も高くなっています。また、「男女平等である」で男性が女性よりも20ポイント以上高くなっており、男女で感じ方に違いがみられます。



## カ) 社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が47.4%と最も高く、『男性優遇』が7割半ばを占めています。

性別にみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、「男性の方が優遇されている」で女性が男性よりも約20ポイント高くなっています。

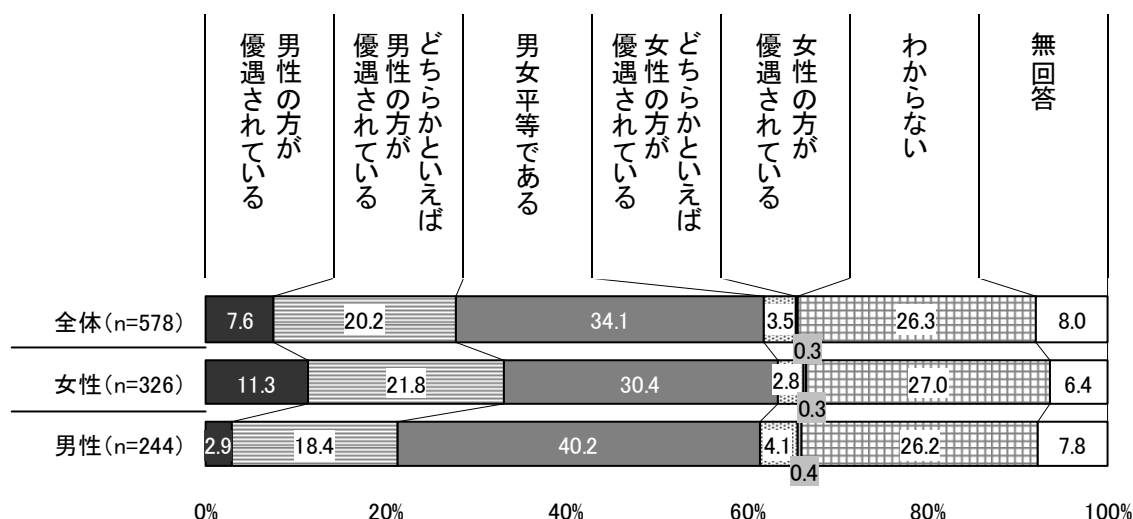




### キ) 自治会やNPOなどの地域活動の場

自治会やNPOなどの地域活動の場における男女の地位についてみると、全体では「男女平等である」が34.1%と最も高く、次いで「わからない」が26.3%となっています。

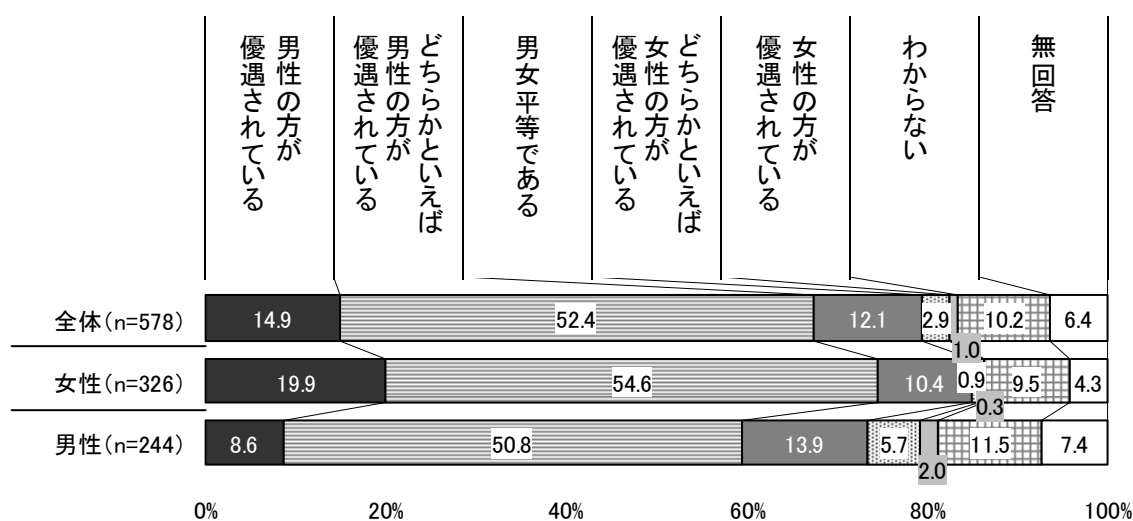
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも約10ポイント高くなっています。また、『男性優遇』で女性が男性よりも約10ポイント高くなっています。



### ク) 社会全体として

社会全体としての男女の地位についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が52.4%と最も高く、『男性優遇』が7割弱を占めています。

性別にみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、『男性優遇』で女性が男性よりも約15ポイント高くなっており、女性の『男性優遇』感が強いことがうかがえます。

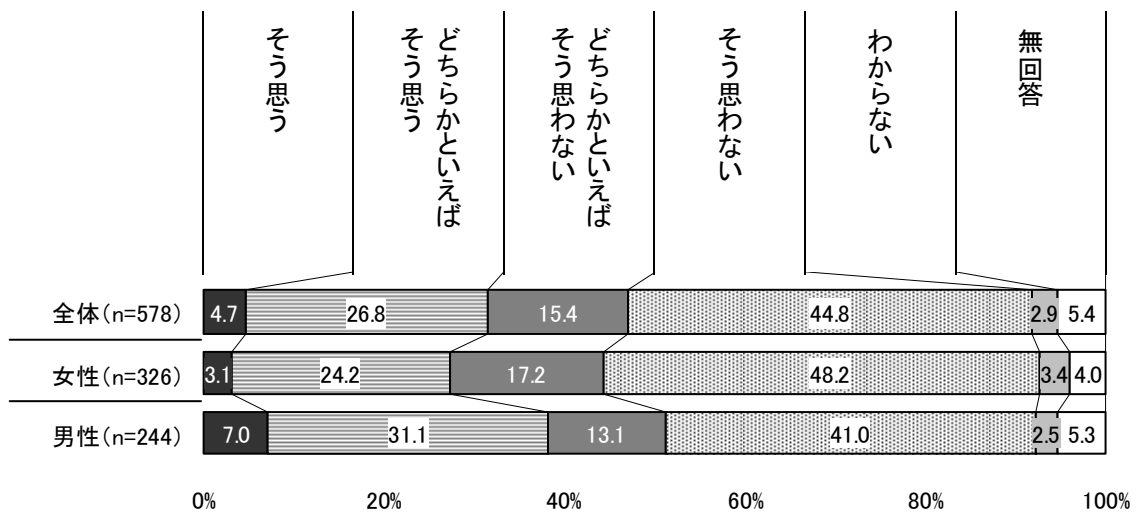


問 21 あなたは次の意見についてどう思いますか。(各項目で○は1つ)

ア) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ

【男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ】という意見についてみると、全体では「そう思わない」が 44.8%と最も高く、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『思わない』が約6割を占めています。

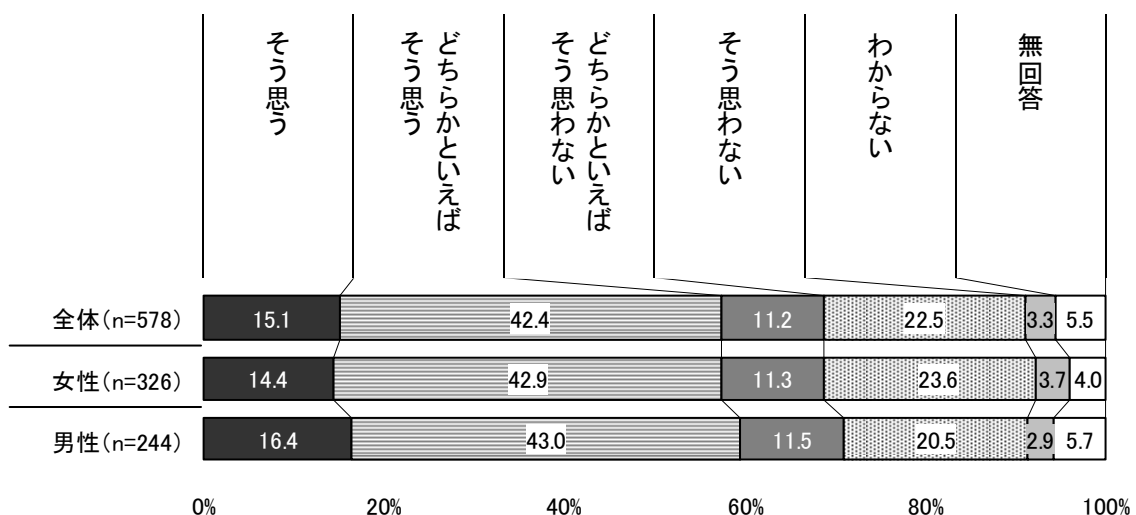
性別にみると、男女とも「そう思わない」が最も高くなっているものの、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』で、男性が女性よりも約10ポイント高くなっています。



イ) 女性は働いていても、家事・育児のほうを大切にすべきだ

【女性は働いていても、家事・育児のほうを大切にすべきだ】という意見についてみると、全体では「どちらかといえばそう思う」が 42.4%と最も高く、『思う』が6割弱を占めています。

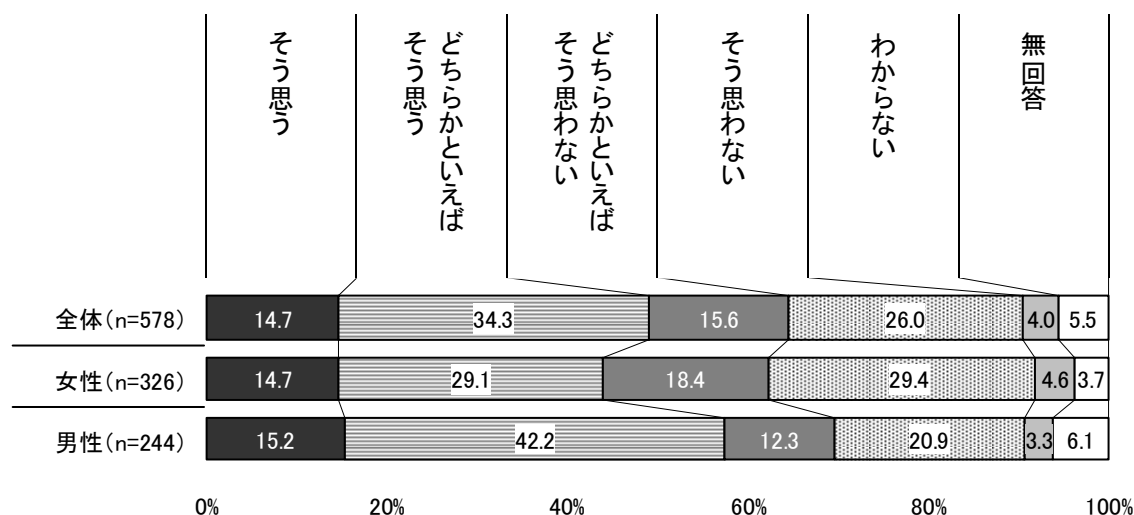
性別にみると、男女とも「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。



### ウ) 男性は女性をリードするべきだ

【男性は女性をリードするべきだ】という意見についてみると、全体では「どちらかといえばそう思う」が34.3%と最も高く、『思う』が約半数を占めています。

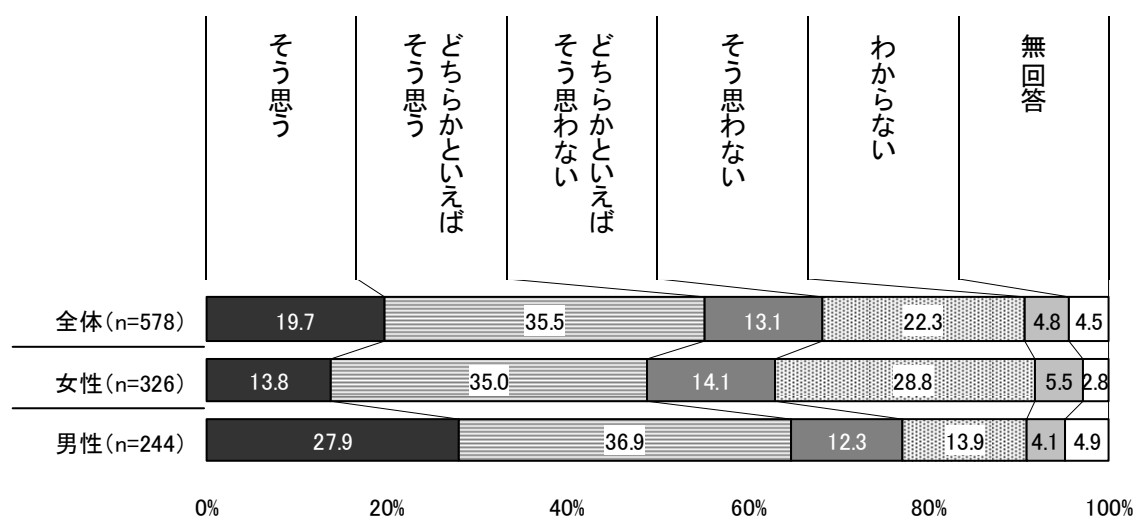
性別にみると、女性では「そう思わない」、男性では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。また、『思う』で男性が女性よりも10ポイント以上高くなっており、男女で考え方に違いがみられます。



### エ) 男の子は男らしく、女の子は女らしくあるべきだ

【男の子は男らしく、女の子は女らしくあるべきだ】という意見についてみると、全体では「どちらかといえばそう思う」が35.5%と最も高く、『思う』が半数以上を占めています。

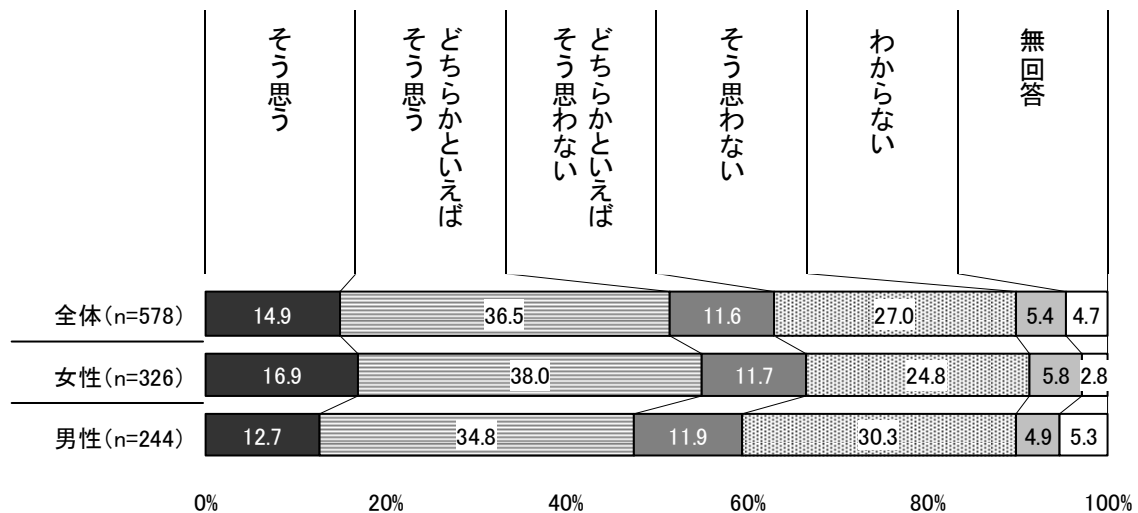
性別にみると、男女とも「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。また、『思う』で男性が女性よりも16ポイント、『思わない』で女性が男性よりも15ポイント以上高くなっており、男女で考え方に違いがみられます。



オ) 家庭のこまごまとした管理は、女性のほうが向いている

【家庭のこまごまとした管理は、女性のほうが向いている】という意見についてみると、全体では「どちらかといえばそう思う」が 36.5%と最も高く、『思う』が約半数を占めています。

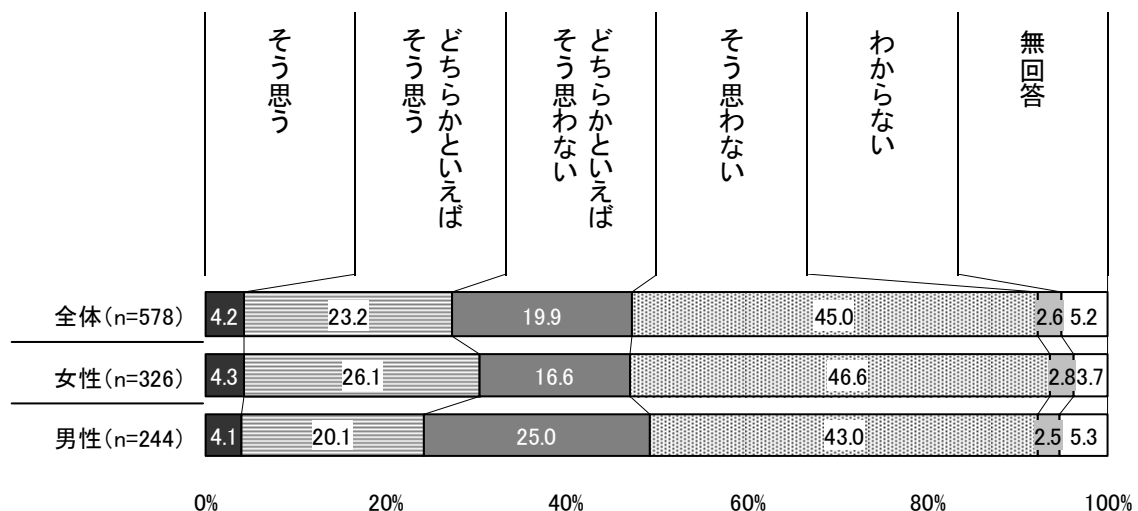
性別にみると、男女とも「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。また、『思う』で女性が男性よりも5ポイント以上高くなっています。



カ) 体力において男性が勝る以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのはやむを得ない

【体力において男性が勝る以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのはやむを得ない】という意見についてみると、全体では「そう思わない」が 45.0%と最も高く、『思わない』が6割半ばを占めています。

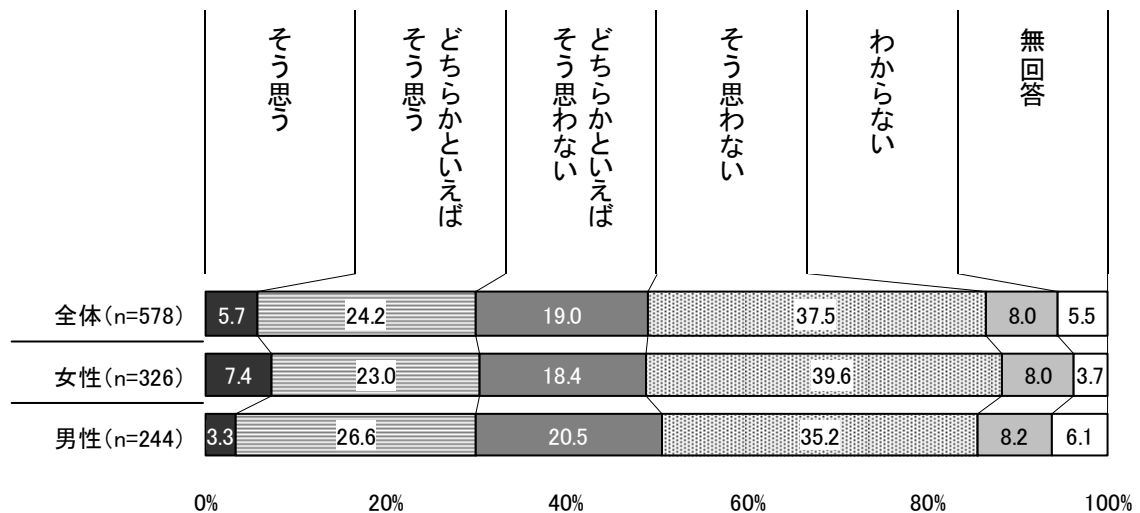
性別にみると、男女とも「そう思わない」が最も高くなっています。



キ) 最終的に頼りになるのは、やはり男性である

【最終的に頼りになるのは、やはり男性である】という意見についてみると、全体では「そう思わない」が37.5%と最も高く、『思わない』が5割半ばを占めています。

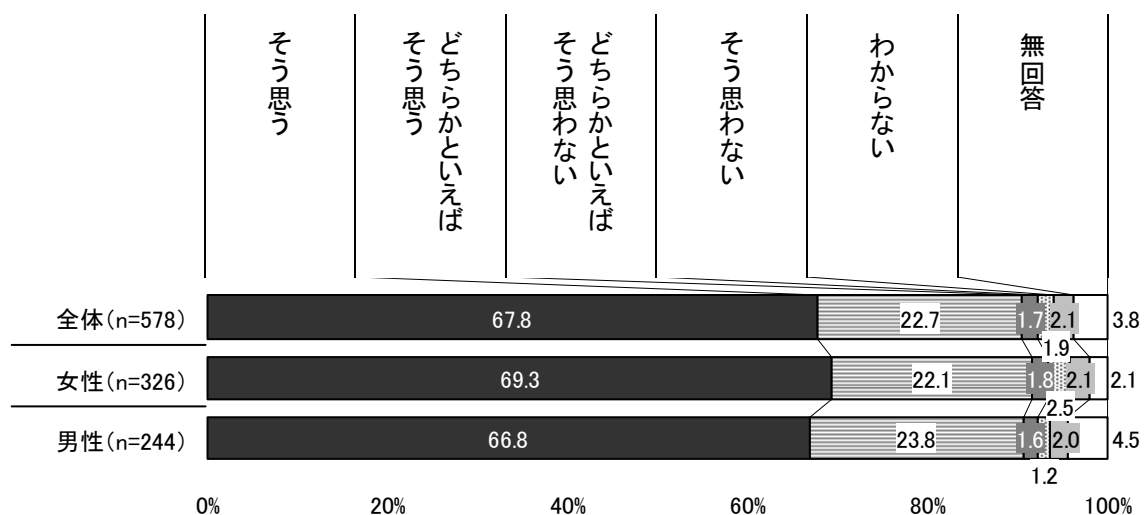
性別にみると、男女とも「そう思わない」が最も高くなっています。



ク) 人には向き不向きがあるのだから、男性か女性かによって生き方を決めつけてしまわない方がよい

【人には向き不向きがあるのだから、男性か女性かによって生き方を決めつけてしまわない方がよい】という意見についてみると、全体では「そう思う」が67.8%と最も高く、『思う』が約9割を占めています。

性別にみると、男女とも「そう思う」が最も高くなっています。

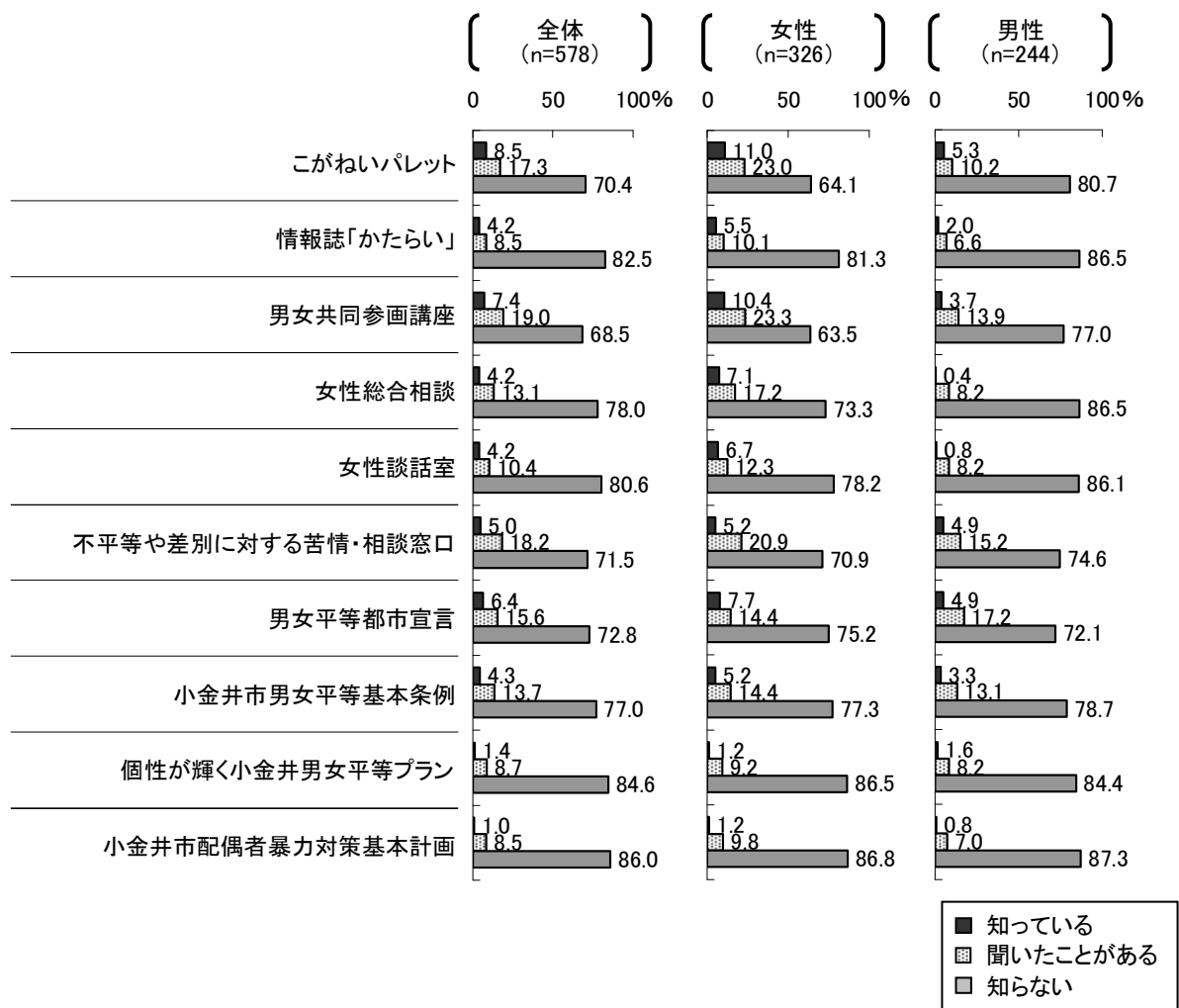


問 22 あなたは、次の「ことがら」や「ことば」を知っていますか。(各項目で○は1つ)

■小金井市のこれまでの施策・取り組み

小金井市のこれまでの施策・取り組みに関わることがらやことばの認知度についてみると、全体で“知っている”は「こがねいパレット」が最も高くなっているものの、すべての項目で1割未満となっています。“知らない”は「情報誌『かたらい』」や「女性談話室」「個性が輝く小金井男女平等プラン」「小金井市配偶者暴力対策基本計画」が8割を超えています。

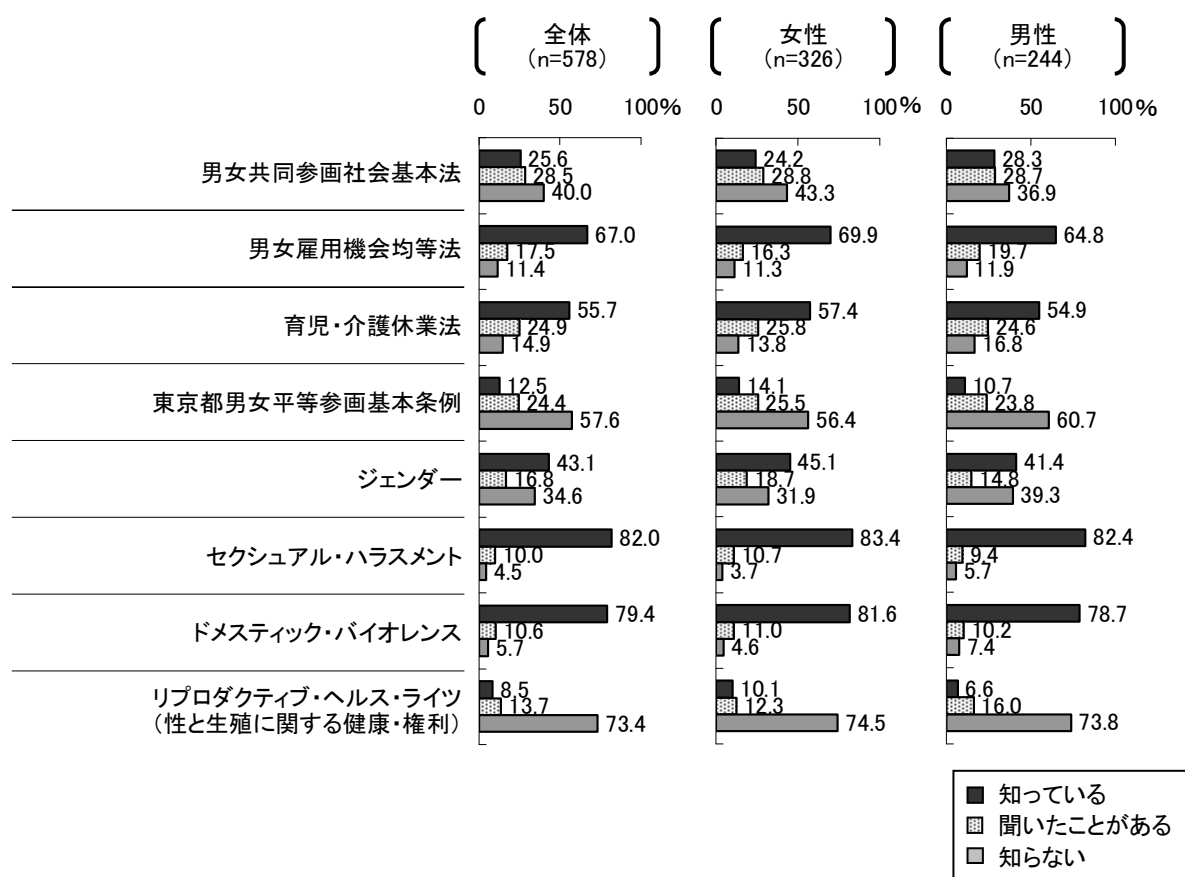
性別にみると、男女とも“知っている”は「こがねいパレット」が最も高くなっているものの、男性ではすべての項目で1割未満となっています。また、“知らない”は「男女平等都市宣言」と「個性が輝く小金井男女平等プラン」を除くすべての項目で、男性が女性よりも高くなっています。



## ■男女共同参画に関わることば

男女共同参画に関わることがらやことばの認知度についてみると、全体で“知っている”は「セクシュアル・ハラスメント」が82.0%と最も高く、次いで「ドメスティック・バイオレンス」となっています。“知らない”は「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康・権利）」が73.4%と最も高く、次いで「東京都男女平等参画基本条例」となっています。

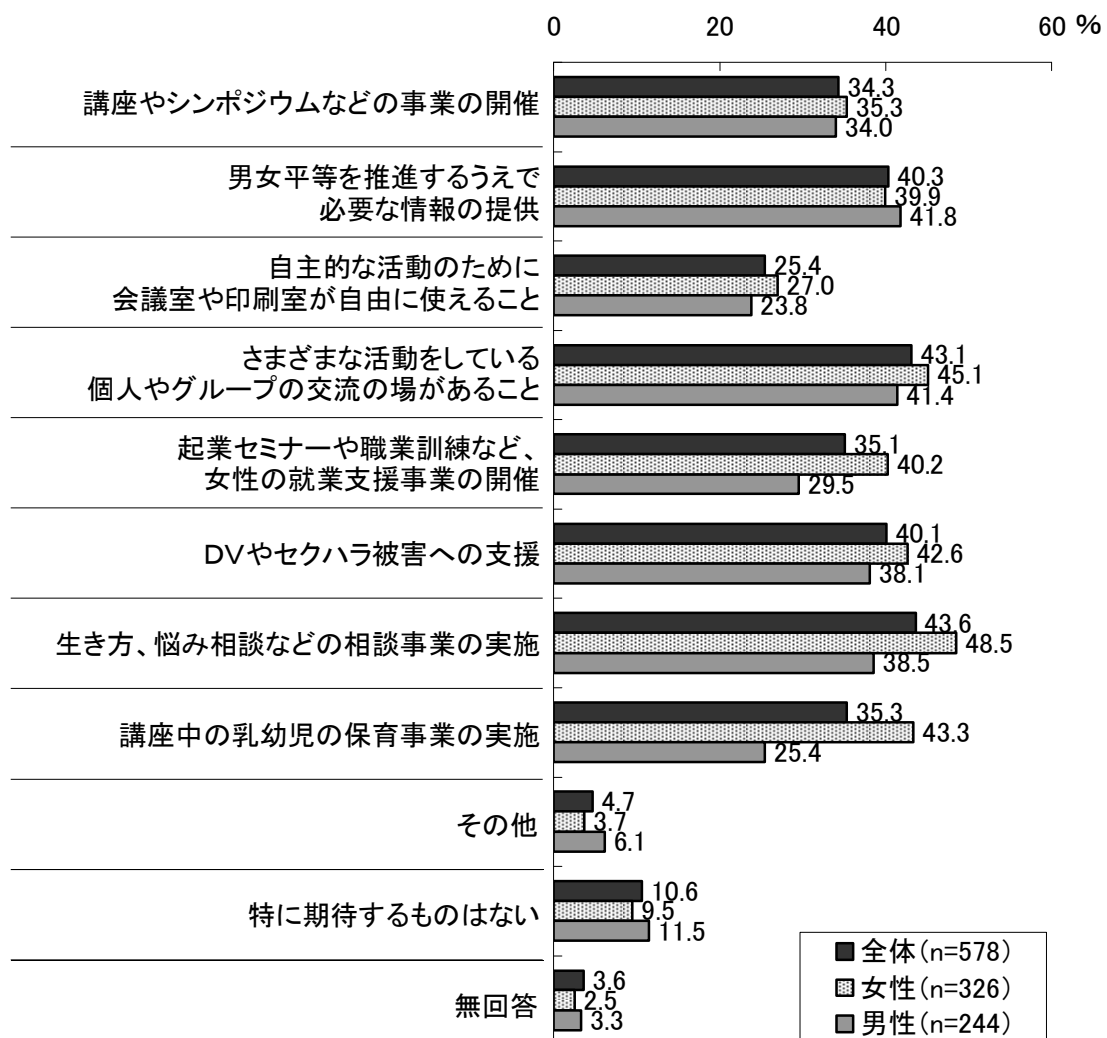
性別にみると、男女とも“知っている”は「セクシュアル・ハラスメント」や「ドメスティック・バイオレンス」が高くなっており、全体の傾向とほぼ同様となっています。



問 23 将来、男女平等推進センター（仮称）を建設するとしたら、あなたは、どのようなものがあると良いと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

男女平等推進センター（仮称）にあると良いと思うものについてみると、全体では「生き方、悩み相談などの相談事業の実施」が43.6%と最も高く、次いで「さまざまな活動をしている個人やグループの交流の場があること」となっています。

性別にみると、女性では「生き方、悩み相談などの相談事業の実施」、男性では「男女平等を推進するうえで必要な情報の提供」が最も高くなっています。また、「講座中の乳幼児の保育事業の実施」では女性が男性よりも15ポイント以上、「起業セミナーや職業訓練など、女性の就業支援事業の開催」や「生き方、悩み相談などの相談事業の実施」では女性が男性よりも約10ポイント高くなっています。

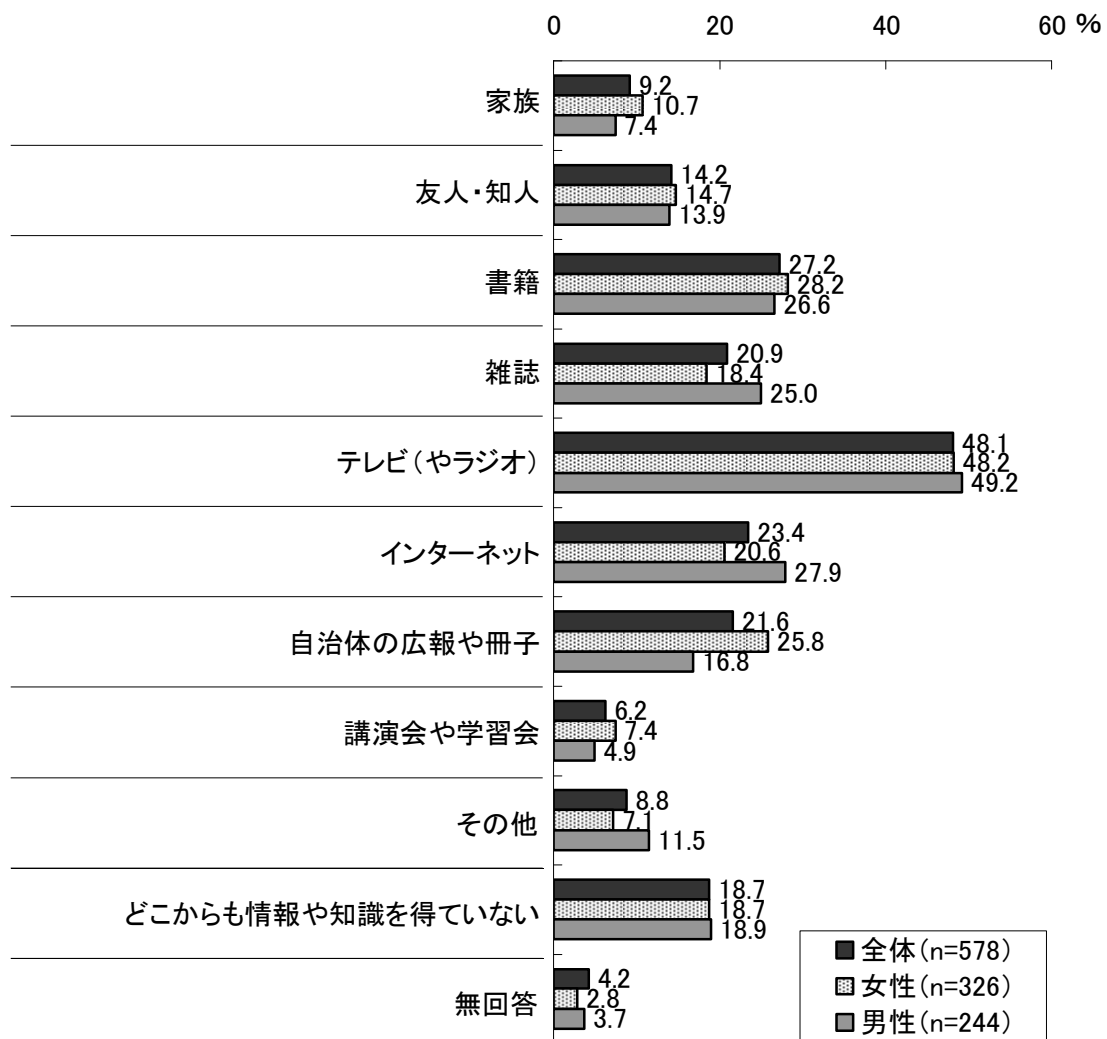




問 24 あなたは、男女平等や男女共同参画、ジェンダーに関わることがらについて、どこから情報や知識を得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

男女平等や男女共同参画、ジェンダーに関わることがらの情報源についてみると、全体では「テレビ(やラジオ)」が48.1%と最も高く、次いで「書籍」となっています。また、「どこからも情報や知識を得ていない」が2割弱みられています。

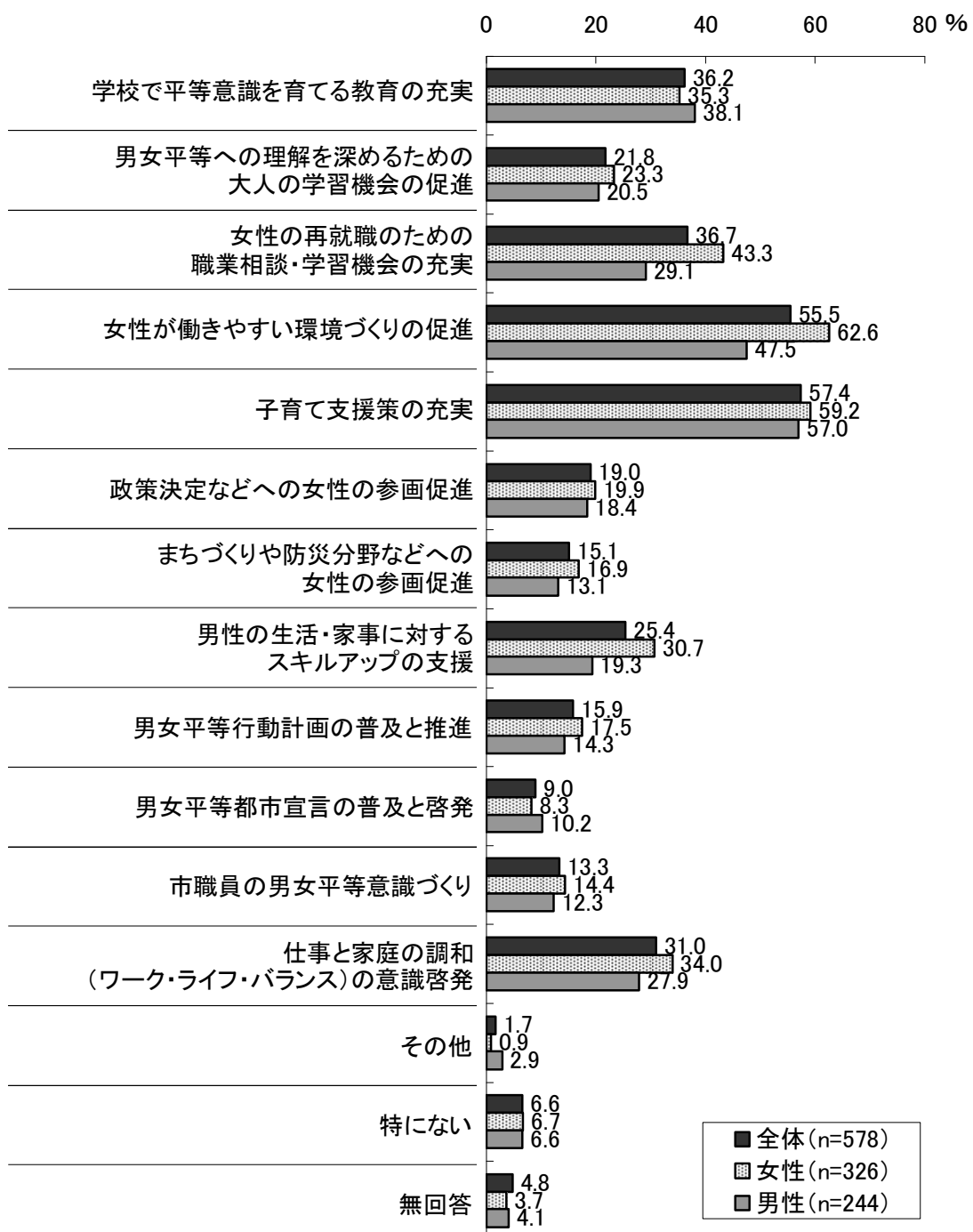
性別にみると、男女とも「テレビ(やラジオ)」が最も高くなっています。また、「インターネット」では男性が女性よりも5ポイント以上、「自治体の広報や冊子」では女性が男性よりも10ポイント弱高くなっています。



問 25 あなたは、男女平等社会を実現するための市の施策として、今後、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男女平等社会を実現するための市の施策として重要だと思うことについてみると、全体では「子育て支援策の充実」が57.4%と最も高く、次いで「女性が働きやすい環境づくりの促進」となっています。

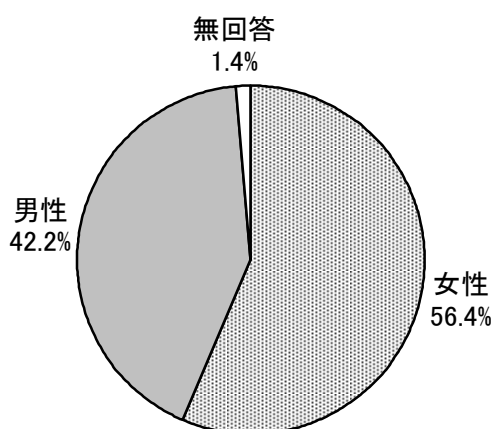
性別にみると、女性では「女性が働きやすい環境づくりの促進」、男性では「子育て支援策の充実」が最も高くなっています。また、「女性の再就職のための職業相談・学習機会の充実」や「女性が働きやすい環境づくりの促進」では女性が男性よりも約15ポイント、「男性の生活・家事に対するスキルアップの支援」では女性が男性よりも10ポイント以上高くなっています。



## 8. あなたご自身のことについて

### F 1 あなたの性別を、お聞かせください。(〇は1つ)

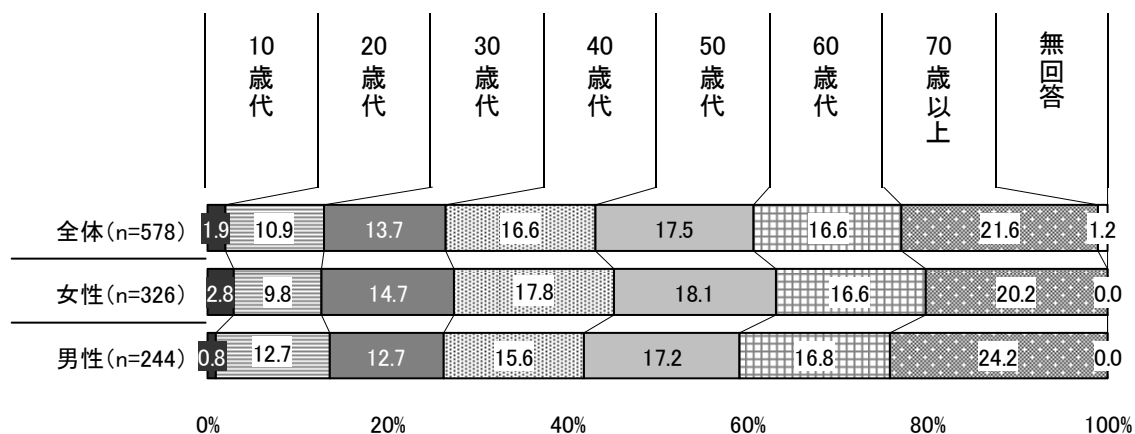
性別についてみると、「女性」が56.4%、「男性」が42.2%となっており、「女性」が「男性」よりもやや多くなっています。



### F 2 あなたの年齢は、おいくつですか。(〇は1つ)

年齢についてみると、全体では「70歳以上」が21.6%と最も高く、次いで「50歳代」となっています。また、50歳以上が半数以上を占めています。

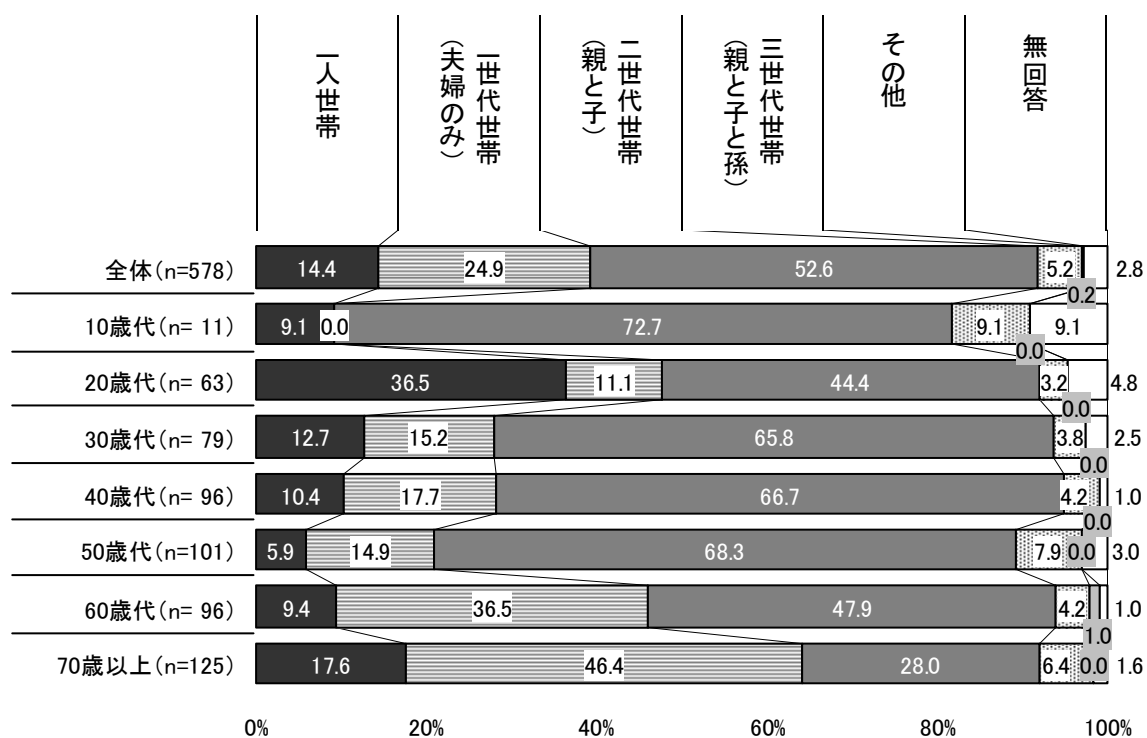
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



### F 3 あなたの現在の家族構成は、どれですか。(〇は1つ)

家族構成についてみると、全体では「二世世代世帯（親と子）」が 52.6%と最も高く、次いで「一世世代世帯（夫婦のみ）」となっています。

年齢別にみると、60歳代までは「二世世代世帯（親と子）」、70歳以上では「一世世代世帯（夫婦のみ）」が最も高くなっています。また、20歳代では「一人世帯」が3割半ばと他の年代よりも高くなっているほか、50歳代以降では「一人世帯」や「一世世代世帯（夫婦のみ）」が年代があがるほど高くなっています。

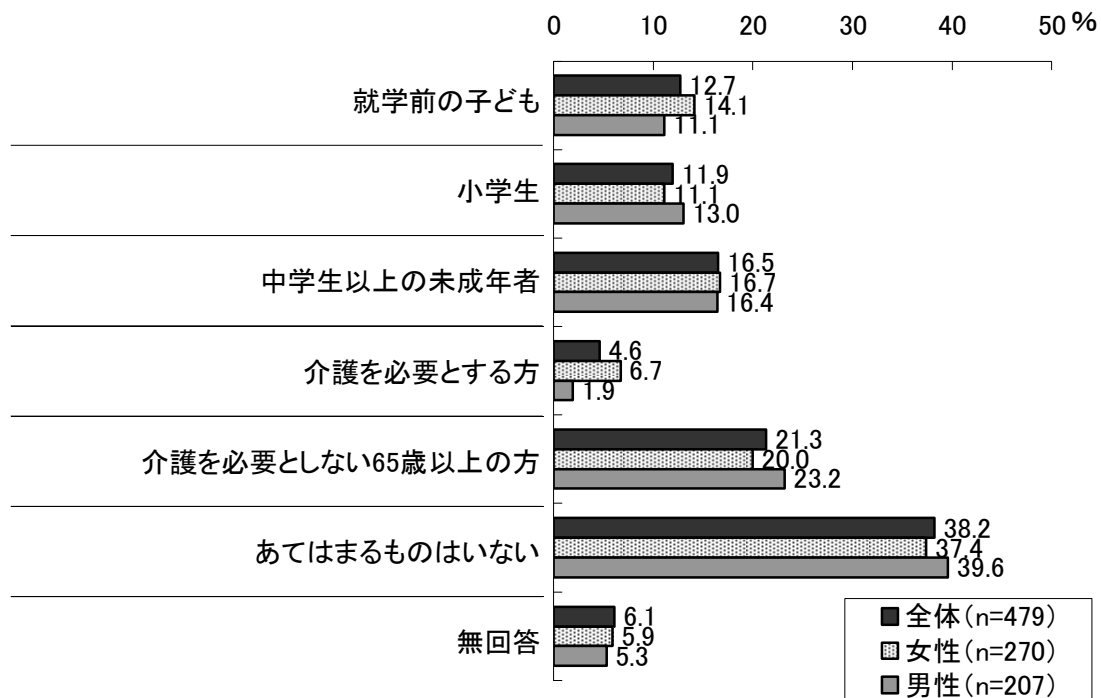


### F3で「2」～「5」と回答した方

#### F3-1 あなたは、次の方と同居していますか。(あてはまるものすべてに○)

同居者についてみると、全体では「あてはまるものはいない」が38.2%と最も高く、次いで「介護を必要としない65歳以上の方」となっています。

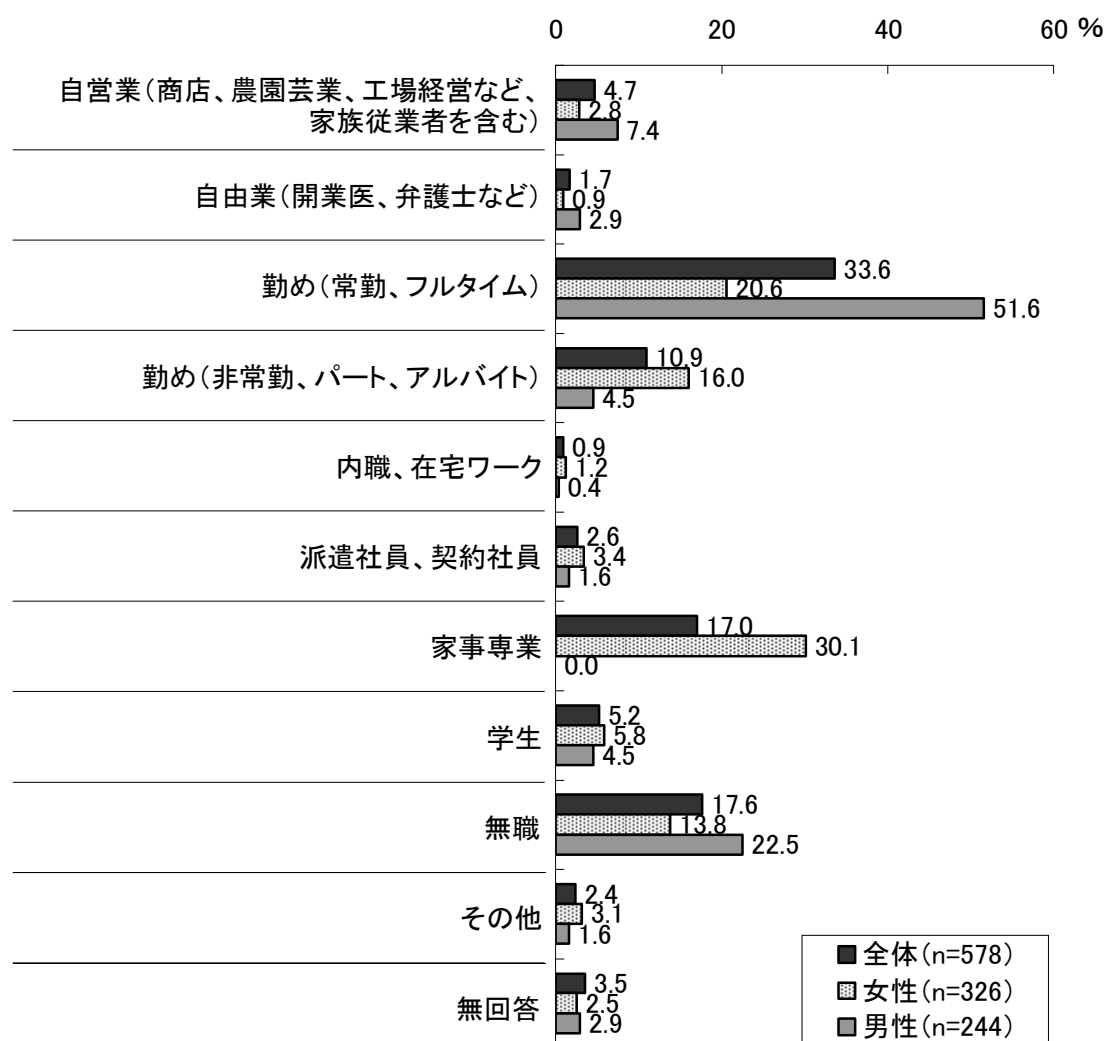
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



#### F 4 あなたの主なご職業はなんですか。(〇は1つ)

職業についてみると、全体では「勤め（常勤、フルタイム）」が 33.6%と最も高く、次いで「無職」となっています。

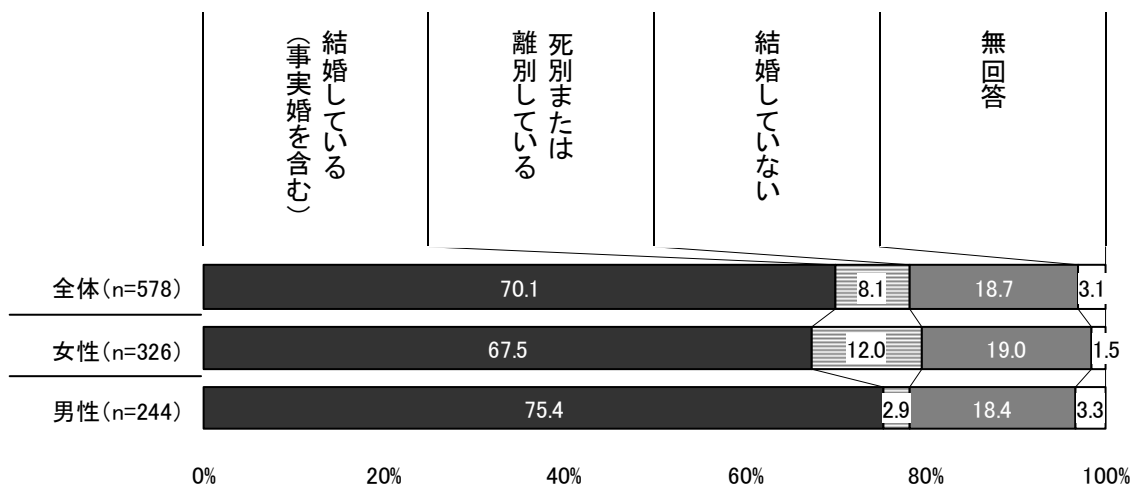
性別にみると、女性では「家事専業」、男性では「勤め（常勤、フルタイム）」が最も高くなっているものの、「家事専業」は女性が男性よりも約 30 ポイント、「勤め（常勤、フルタイム）」は男性が女性よりも約 30 ポイント高くなっています。また、「勤め（非常勤、パート、アルバイト）」は女性が男性よりも 10 ポイント以上、「無職」は男性が女性よりも 10 ポイント弱高くなっています。



## F 5 あなたは結婚していますか。(〇は1つ)

婚姻の状況についてみると、全体では「結婚している（事実婚を含む）」が70.1%と最も高く、次いで「結婚していない」となっています。

性別にみると、男女とも「結婚している（事実婚を含む）」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも約10ポイント高くなっており、「死別または離別している」では女性が男性よりも約10ポイント高くなっています。

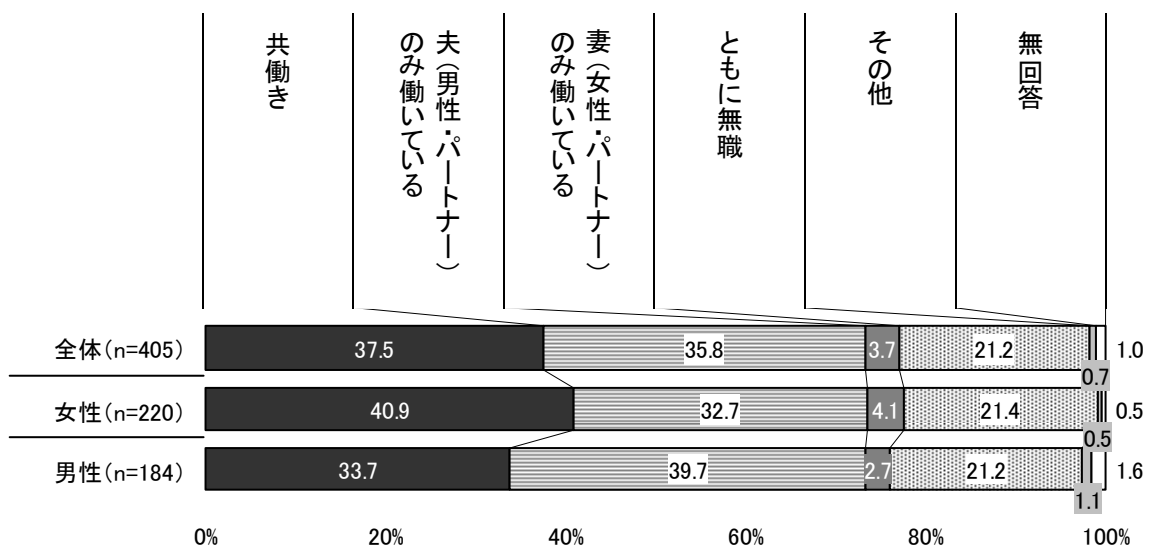


## F 5で「1」と回答した方

### F 5-1 あなたのご家庭の現在の勤労形態はどれですか。(〇は1つ)

家庭の勤労形態についてみると、全体では「共働き」が37.5%と最も高く、次いで「夫（男性・パートナー）のみ働いている」となっています。

性別にみると、女性では「共働き」、男性では「夫（男性・パートナー）のみ働いている」が最も高くなっています。



## ■市民意識調査・自由意見（回答 121 人）

### <10 歳代>

内容	性別
まずはしっかり、ごみ処理問題を解決してほしい。	女性
男女平等というのが、そもそも間違っている。女性の方が社会的に弱い立場にあるが、男女平等にするという考えではなく、歴史的な男女の差異を認めた上で、両性にとって住みよい社会を構築するという考え方をすべきである。	男性

### <20 歳代>

内容	性別
私の家庭では、ずっと母が育児、父が勤労という、完全に男女分業制の下、私自身が成長してきました。父は「誰のおかげで生活できているんだ」という言葉を昔から母や私たちに言ってきました。私は父のような考え方をもっている人にどうしても賛同できません。近隣からの目や体裁を考えると、こういうことがあっても、なかなか相談できない人というのは多くいらっしゃるのではないのでしょうか。敷居が高くなく、個人も特定されないような語らいの場の設定が理想だと思います。	女性
平等に、平等にというあまり、逆に不平等になることはあると思う。男性と女性では、そもそも違うのだから区別は当然で、それは差別ではない。好きなことや得意なことをそれぞれが縛られずに、ただお互いを思いやる気持ちをもっていけばよいと思う。	女性
・施策や取り組みを頑張っても、認知度が低ければ意味がないので、広報にも力を入れた方がよいと思います。 ・人に相談するというのは最終手段だと思うので、ネットなどの匿名性のあるものの情報を充実させるのがよいのではないのでしょうか。これをするに当たり、まずは自分の目でネット上の相談掲示板等を見るのがよいと思います。	男性
子どもにかかる教育費を低減すれば、もっと安心して子どもをもつことができると思います。男女平等については男女に関係なく、やりたいことができる社会をつくるのが大事だと思います。男女平等を防いでいる要因で一番大きいことは、社会におけるトップの人たち（政治家・社長等）に男女平等の意識があまりないことだと思います。	男性
子育て後の社会復帰が当たり前と男の人たちが思ってくれる世の中になれば、よいなと思います。	女性
私は家庭にこもりたくないの、産休後も職場に戻り働きたいです。働くことで社会と交流し、いきいきとできるからです。でも現実問題として、保育園に入れず収入もない。働きたくても働けない現状が近づいています。心配です。保育環境の充実を切に願います。	女性
現在では男女平等の意識は育ってきていると思うが、それを実現する環境が不十分であると思う。女性が働ける社会を実現するためにも、子育てに対する不安を取り除けるような支援が充実していけば、もっといきいきと暮らせる社会になっていくのではないかな？	女性
“人と人のつながりを強くすることで、支え合い・助け合い・孤独な人をつくらない！” そんな社会にしていってほしいと思います。	女性



内容	性別
<p>現状、就職や昇進等で女性が不利な立場になることが多いと思いますが、男女差別をなくすためには、女性への優遇もなくす社会にすべきだと思います。女性の部下には怒りにくい、セクハラに過敏になりすぎる。女性だから許される、女性だからマスコミに取り上げられ注目されるといったことも多々あるように思います。男女平等を促進する上で、過度の女性への配慮に注意していただきたいと思います。</p>	男性
<p>性別に捉われず、ひとりの人間としての意識が必要と思う。男尊女卑から男女平等へ、それは大変結構なことと思うが、そのためには男も、女もかつて男尊女卑によって得ていた利得を手離さなければならないことを自覚し、実行することが不可欠だと思う。男も家庭に深く関わらねばならないし、女性にそれを強要するのを諦めなければならない。女性も、男性の思いやりを強要することはできないし、家庭の収入に関して無責任に夫を責めることはできないと、私は考えている。</p>	男性
<p>昨今、メディアやその他、伝達機関を通し、“男女平等”が騒がれ、確かにそれが必要であると思いましたが。しかし本当に、このまま完全に平等になることが男と女にとって、よいことなのかは口を大にして“正”ということではできません。もう一度、そこらへんのことを見直し、とりあえず“平等”と叫ぶのではなく、互いによい方向に向かい最終的に男女が納得する形にまとまるのが理想だと思います。</p>	男性
<p>男女共同参画に関わることは学校で少し学んだが、社会人になると、まったく覚えていないので、そういったわかりやすく説明のある書類を引っ越しの際にいただいたりすると、困ったときに助かります。後は日常生活において、相談できる機関をどこにできるか明白に表示されるとよい。小金井市は市民の意見を取り入れるアンケートがあり、素敵だと思う。引っ越してきた際にも市役所の人が優しくかった。</p>	女性
<p>男女平等だけでなく、人間としての平等を目指してほしい。子どもを持たない人間（今現在から将来にわたって持つ予定のない人間）にとって、子育て支援ばかり声高に叫ばれるのは苦痛です。子どもを持たない人間は支援する価値もないのでしょうか。子育ては大変だと友人の話を聞いて知っています。だから子育て支援をなくせというつもりではありません。子どもを持たない、配偶者を持たない選択をした人間にもう少し優しくあってほしいといっているのです。どのような選択をしても、生きていて良かったと思える社会になりますように。</p>	女性
<p>男女平等をいっている割には学校では、ただ言葉を聞いたくらいで現状はあまり聞いていない。女性も社会に進出してよいはずなのに、社会には「女は仕事より家事」のような考えをもっている人が多いと思う。言っていることと実際がまだまだ違う。私もそうであるが、広告で男女平等に関する講座のお知らせがくるとして、行きたいと思っても、なかなか行けない・行きづらいつと感じる人は多いと思う。もっと社会も、学校も巻き込んで、そういう取り組みをしてほしい。</p>	女性
<p>日本の古くからの慣習である。「男尊女卑」は広く普及しており、なかなか、その考えを消せないのが事実。女性一人ではメシは食っていけない。（ましてや、シングルマザーなどは、かなり厳しい）やはり男性の支えがなければいけないのも事実だと思う。</p>	男性

<30 歳代>

内容	性別
必ずしも社会における平等＝男女ともに幸せというわけではなく、豊かな国・市あってこそ、ゆとりある生活が得られると思います。会社での男女の平等の結果が、今の独身女性が増え、子どもが減っている一つの要因になっていると思う。ただ家事・育児の協力は大切だと思います。	男性
認可保育園の入園に関して、生まれた月（早生まれ）により、有利・不利がある。秋の募集も含めて改善策を考えてほしい。	男性
何か問題があれば個々に解決すべきであり、「男女平等」「男女共同参画」で問題が一律に解決するものではないと考えます。申し訳ありませんが、「男女平等」「男女共同参画」に関する取り組みが、その努力に見合った建設的な成果が得られるものとは思えません。	男性
学童が保育所より早く閉所（18:00）するにもかかわらず、子どもをひとりで帰宅させておかないようにと言われても難しい。子どもが小学生にあがった方が保育所の頃より、仕事を早く切り上げなければならない。小金井市の沿線は民間学童もほとんどないので大変厳しい状況です。	女性
大人の男性に対する啓発を強くしてほしい。（子どもには必要なし）一番の問題は父親の意識のなさにあると思います。例えば、料理のできる男はすばらしいとかいう風潮が一人ひとりに芽生えればよいのですが。	女性
男性と女性の役員の比率を男女平等だから同じにしようなどという「誤った男女平等」がはびこっているように思う。能力や対象に対する相性さえ合っているなら、逆に女性8に対して、男性2などの状態でもかまわない。男性が仕事、女性が家庭という考え方は基本的には正しいと思っている。よって女性にとって、過度の優遇策を取るのとは正しくなく、むしろ家庭で育児し、教育すべき年齢になっても、役割を果たさない女性が増えるだけで弊害こそ大きい。	男性
子育て中の方、専業主婦の方、高齢の方、役に立ちたい、外に出たいと思っている人はたくさんいると思う。そういう人たちを孤独にしない地域づくり制度や前例に縛られることのない市の対応。市民のための活動とお金の使い方だと、もっとわかっていくはず。考えて、調べて、実行していくこと。市が中心に動くことで、よくなると思う。	女性
毎年、3万人を超える自殺者は歪んだ社会の結果であることは明白な事実である。先進国等の心のケアを早急にしないと、日本にある素晴らしいものが、かすんでしまう。	男性
性差に問わず、お互いに尊重し合う意識を高めることが大切かと思います。今回のアンケートを通じて感じたことは、質問および選択肢欄の内容からでは、偏った回答が集計されると思いました。	女性
育児休業制度があっても、取りにくいと意味がないので、そこを改善する策があればよいと思う。また女性が働いたり、とにかく何かするには託児施設の拡充がない限り、無理だと友人などの話を聞いていて思う。	女性
子育て支援策の中で保育園の数が少ないのと、保育園入所で自営業の方が預けることが困難な点を知り、もう少し改善する点はあるような気がします。	女性
長時間勤務・通勤で働く世代が皆、疲れているので、それを低減することが必要。DVなどで相談しやすい環境・相談員のスキルをアップする。たらい回しにしない制度をつくる。完全な平等ではなく、男性らしさ、女性らしさを生かすことが重要。	女性

内容	性別
自分自身の体感として、教育現場での平等意識を育てる教育は成熟していると思う。大人の社会の方が問題である。制度があっても、実生活で実現不可能なことが多い。例えば、女性管理職を増やそうとしても、夕方から会議を始める会社、遅くまで子どもを預かってくれる場所がない等の理由で実現が難しい。意識の成熟やペーパー上の制度はある程度できあがっていても、実際の形・サービスにすることが現在できていないと思う。この面が充実すればよいと思う。	女性
公的機関が「平等」問題を扱う場合には、女性が男性に比べ損をしているという「不平等」を前提とした切り口にしないように注意しないと、安易なフェミニズムへの迎合で終わりがねない。男女がまったく平等であることは、そもそもないことなのだから、互いの欠如を補い合う関係をつくる手助け役としてのポジションからブレナイよう気をつけていただきたい。	男性
男性と女性はそもそも持っているものが違う。その違いをお互い認め合ってこそ、よい社会ができるのではないかと思う。	女性
そもそも男女平等を謳っている時点で、どうかと思うのですが…。	男性
行政側が何か行動すると、ろくなことにならないので民間が何かはじめたら、それを支援するというだけでよいと思います。こんなことをするよりも、もっと他のやるべきことが多数あると思います。公務員数の削減など、プライマリーバランスを是正できてからやることではないのでしょうか。	男性
生まれてくるのは男性と女性の2種類しかなく、各々が同じ個性を持っているわけではないので、違って当然のことである。それをまずは理解し、足りないものはお互いに協力すべきであると考えます。働ける環境さえあれば、男女ともに平等であるわけではなく、各々のよいところを発展させることが最も大切であると思う。各々が協力し、各々が努力し、お互いを理解することで男女平等になると思う。平等を嫌い者ほど、能力がない者が多い。	女性
性別に問わず、能力に応じたことができる社会になれば、平等になると思います。「男女平等」という言葉自体が、すでに差別です。	男性
女性は「子どもを産む」。男性はまったく同じように仕事とのバランスが取れるわけではないと思う。自分=仕事=家庭、このバランスは個々に考えていくしかない問題だと思うので、社会の仕組みをいくら唱えたところで意味はないと思う。	女性
男女は「平等」になることは難しい。「男」と「女」の役割を生かしつつ、女性が社会に出られる制度（ワークシェア）や助成金が必要。（助成金は周辺の市に比べると、よくない状態です）「センター」なんていない。	女性
個人の“感情”の問題だと思うので、市や学校など、大きな単位で何かをやるのは難しい。何十年先を見据えてやるならまだしも、この10年とかだと法律を変え、浸透するまで時間がかかるので無理。	女性
男性は友人が作りやすい場の促進。仕事以外に楽しむことができる場所があればよいと思います。女性は何より、子育て支援。特に病気の子どもの預かってくれる場所や気軽に子どもと遊べる場所がもっと多くあると助かります。いろいろな相談窓口も大事ですが、一番は小金井市民全体のコミュニティを広げていくことが男女の相互理解につながるように感じます。	女性
男女平等推進センターよりも、図書館が遠いので近くにほしい。	女性

内容	性別
<p>社会が崩壊しかけている時代に男女の平等社会の実現を目指すことばかりに目を奪われて、本当に大切なことを見失っている。男女とも平等（もちろん法の下）であるべきだが、権利や義務、役割も必然的に決まっているものがあるのではないか。「平等」の推進に走るあまり、少子化・家庭の崩壊・離婚・不満など、社会的な亀裂が広がっている。これ以上、女性を仕事に駆り立てることはしないでほしい。日本のよりよい世代は、よりよい母親からもたらされると思う。</p>	女性
<p>本当に男女平等を目指すなら、男性に対してもっと支援を行うべきです。社会から何も支援されたことのない人が、何か社会に貢献したいと思うはずがありません。女性にしても、何か困るたびに、すぐ支援を求めるばかりでは自己の成長につながりません。また「社会に出て働く」ことを軽く教える風潮には危機感を覚えます。この社会は皆の努力によって支えるべきもので、社会がきちんと機能するかどうかは、男女全員の働き次第なのです。もっと義務感をもって働いてもらいたいです。逆に家事というのは、もし社会が破綻したとしても不要にならない。生きるために必須のスキルです。男性にこのスキルを持たない人が多いのは明確に社会の責任です。最低でも中学までには十分な家事修得の機会を得る権利がすべての人にあると思います。</p>	男性
<p>共働きの家庭でも、やはり男性が協力的なところと、そうでないところとで女性の負担が随分違います。男性側でも意識改革が必要だと思いますので、そのための小さい頃からの教育が大切なのではないかと思います。</p>	女性
<p>女性だから、男性だからという以前に人間として、相手を大切にする。性別・国籍・年齢・容姿・考え方・病気・障害の有無など、自分と違うからといって拒絶したり、差別したり、自分の思いを押し付けたりする社会では、いつまでたっても何も解決しないと思っています。誰一人例外なく、人は皆大切に、必要な存在なのだということに、すべての人が気づける、そんな施策があったら素晴らしいと思います。人間はみんな違って当たり前、その中でいかに調和していくか、それがすべての解決につながっていくのではないのでしょうか。</p>	女性
<p>現在、在宅ワークをできる範囲で受けているが、忙しくても保育所の一時預かりはいつも、いっぱい急な預かりなどはまったく無理。保育ママは一時保育に比べ、金額的に高くなる。結局、仕事を減らさざるを得ない。一時預かりの枠を、もう少し増やすことで「共働き」か「専業主婦」かの二極化を避けられるのではないかと思います。</p>	女性
<p>質問が男女差別があるとの上でされているものがあり、回答しづらかった。日本の文化の中で女性の奥ゆかしさ、男性の頼もしさは存在する。この文化は決して、悪いものではない。ここを理解した上で制度上の男女差別はなくすべき。常識の範囲を理解できない人は確かに増えているように感じる。そのような方が「男女平等」と声を上げると、より混乱する。男らしさ、女らしさの文化を理解してる方ほど、男女平等をきちんと理解し、行動できるのではないのでしょうか。そういう社会を望みます。</p>	女性
<p>女性が働きたいと思ったときに時間の融通が利いたり、子どもの病気をサポートしてくれる保育園が身近にたくさんあれば、もっとみんな働けるのではと思います。</p>	女性

<40 歳代>

内容	性別
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井市役所も男性優位な職場という印象をもっています。</li> <li>・男女共同参画についての小金井市のビジョン・課題・取り組みを積極的にアピールした方がよいと思います。</li> <li>・中間期の事業計画の作成が必要であると思います。</li> </ul>	男性
<p>性差というよりも、個人の能力差が生かされる社会が理想だと考えますが、女性の妊娠・出産について、バックアップがあれば、安心して働く（雇用の形態に関わらず）ことができるのではないかと考えます。意識調査をしてくださり、ありがとうございます。</p>	女性
<p>これって男女の問題というよりも、働きたいのに働けない人間をいかに減らすかということの方が問題では？能力重視社会になりすぎて、デキル人には寝る間もないほど仕事が集中する一方で、デキない人にはまったく仕事がまわっていない。本当は現在なら、70歳でも十分現役で働けるほどの能力があるのに、社会がそれをまったく活用していない。要は働いている人数と働いていない人数のバランスの悪さがすべての問題の根本。都会で働けない人々を政策として、地方移転させるような荒治療が必要。</p>	男性
<p>やはり男性の家事、家内のメンテナンス能力そのものと意識・意欲が低いと思っています。ゲームをやっていればよかった実家時代から、結婚して独立したはずでも最低限の家事はやったとしても、自分が気にしなければ済む掃除等は手をつけずにゲームをしてしまう。料理も基本がなく、味つけはレトルトパック。男の子の育て方も間違えてきたのではないかとすることがあります。家庭人として、成人するまでに最低限の家事と自立して働ける能力を男女とも両方が必要だと思います。結局はそうでないと、いき方も選べないかと。</p>	女性
<p>家事・育児よりも賃金を得て働くことの方が価値が高いという風潮がある。育児は大仕事であるし、社会の中でも大切な役割を担っているのだが、その地位があまりにも低く見られているのではないだろうか。学齢期の子どもをもつ母親が最近、急激に働き始め、危惧している。生活困窮以外にも理由がありそうだが、誰もいない家庭に帰るのが、さみしくてウロついている子どもたちを見ると、やるせない思いがする。</p>	女性
<p>DVを受けたとき、どこに相談したらよいのか、とても困りました。私は新宿の法テラスに行きましたが、知らない人も多いと思います。できれば市内に女性向の相談窓口と、男性を注意・監視するところがあるとよいと思います。DVの話は身のまわりでも本当によく聞きますので、早急に対応していただきたいです。（ごみ問題の方が先ですが）</p>	女性
<p>男女の社会における役割分担が「仕事」と「育児・家事」であるか、それともそれぞれが仕事や育児・家事を均等に負担するかは、各家庭の選択の問題であり、均等（平等）でなければならないという決めつけは、かえっておかしなことになる。従って、この問題は選択肢があるかということである。</p>	男性
<p>子どもが病気のときは必ずといってよいほど、母が看病していると思います。病児保育室の開設を早くやってほしいです。働く母親にとっては重大な問題です。小金井市には病児保育室がないので、武蔵野市まで行っています。時間的にも、金銭的にも大きな損失をしています。</p>	女性
<p>本当の意味での平等は訪れるのでしょうか？教育がすべてだと思います。</p>	女性

内容	性別
<p>現社会において、全体的に職場における労働時間が長すぎる。以前よりは週休や有休など、いくらかは取りやすくなっていると思うが、それでもまだまだ1日は職場にいる時間で占められている。ワークシェア等を引用するなどして、個人的な時間の余裕が少しでも増えれば、家庭にも、社会にも目を向ける余裕が生まれるのではないかと思う。そうでないと、地域に参加している人は暇な専業主婦と定年後のシルバーの集まりだけという目で、はなから自分としても見てしまっている。地域貢献も大事なひとつだという意識があまりになさすぎて、まわりとのつながりがなく、これでよいのかとも確かに思う。</p>	女性
<p>この用紙の質問自体、大変偏向しており、極めて不愉快である。男女がまったく平等なんて、あり得ない。ともに生き生き暮らすには、お互いの性を理解し、違いを認め、思いやりを持って笑顔で生きることです。男女平等より感謝の気持ちや人としての温かさが、心の男女平等につながると思います。九州の女性のように、男性を立てながら上手くやるのです。</p>	女性
<p>ワークライフバランスがライフワークバランスとなればよいと思います。仕事を中心ではなく、生きがいがあるの仕事になったらよいです。</p>	女性
<p>働いている女性は子どもを保育園に預けるので、他人に育児を任せられますが、働いていない女性はかえって、子どもを遊ばせたりする場所や遊んでくれるお兄さんやお姉さんなどと触れ合う機会・場所が少ないと思います。孤独だったり、虐待をする女性は無職の人が多いのでは？働いている女性は大変だとは思いますが、自分の好きなことをやっているんだし、子どもだって育ててもらうのだから、税金も使っているし、優遇されることも多いと思います。男性は、それについて理解をするべきだ。</p>	女性
<p>男女平等社会は大切なことです。ただ昨今、平等・平等と肩を凝らせる女性も多く、これは逆平等の予兆のような気がします。男と女がお互い労わり合い、互いの得意な分野で仕事を分担していければ、ギクシャクしない、ストレスの溜まらない生活ができると思います。そのための教育・家庭での話し合いは、ある程度必要ですが。</p>	女性
<p>市内に困っている人が助けてもらえる人や施設など、たくさんの助けができる、わかりやすい課があればよいと思います。</p>	女性
<p>日本の機構を大きく転換させる時期に来ていると思います。男女を問わず、社会に参画して、各個人ができることを実施していくことが必要であるし、社会がそれを評価する仕組みを考える必要があると思います。</p>	男性
<p>男女は平等ではあるべきだが、同等ではない。その原点を突き違えて、観念論的に議論しても、実効性はないと思っている。現実をよく見て、現実の中に改善すべきものがあれば、実施していくべきだと思っている。</p>	男性
<p>小学校の夏休み・春休み・冬休み等の長期休暇に子どもの行き場・預け場所がない。3年生までは学童保育があるが、4年生以上は毎日家で留守番をさせることになり、心配である。</p>	女性
<p>深刻な悩みを、そのまま最悪な結果にしてしまう人は悩みにはまりすぎて視野が狭くなり、孤立してしまうもので、誰かに相談したり、国の相談機関の存在まで意識が行き届かなくなるものです。そこで役場以外で人が集まりやすい場所で各相談機関の説明ブースを月に1、2回設ける等をして、アピールしていただきたいです。例えば、ヨーカードや駅等は有効だと思います。</p>	男性

内容	性別
<p>以前、仕事で台湾に行ったとき、女性の社会進出がかなり進んでいる（日本と比べ）と感じた。少なくとも、職場では男女の差はまったく感じられず、ジェンダーフリーな感じがした。資源も少なく、ハイテク産業を国策としているところもあると思うが、とにかく女性が働くことに対する男性側の抵抗感はまったくないようだった。台湾の事例を参考にしてみるのもよいのではないかと思う。</p>	男性
<p>男女平等の意識を育てる教育をしても、やはり根本には家庭での親の教育・しつけ等が根強く存在しているのが事実です。子どもや若い人たちだけでなく、50代・60代・70代世代の方々にも社会で男女がよりよく暮らせる方法・知識・今までの常識がそうではないということを勉強する必要があると思います。そのためには社会から常識を変えなければならないでしょう。市自らが、まずそれを行なわなければ、誰もやらないし、ついてこないでしょう。意見を集めるだけでなく、行動を起こさなければいけません。</p>	女性
<p>平等を社会が強いるのではなく、個人を尊重し、正しく評価する環境を形成することが必要。この問題の核心は平等な社会をつくることではなく、核心部分が改善されたときに副産物として平等な社会になるのだと思う。その核心が個人の能力を認め、正しく評価することではないかと思う。このような意見を少数だからとか、他と変わっているからと軽視するのではなく、変わった意見にこそ目を向けて、しっかり理解し、考える機会をもってもらいたい。</p>	男性
<p>私は男女共同参画室がどのような活動をしているのか、まったく存じません。小金井市がこのような活動に力を入れていることも心外です。「男女平等」を本当の平等にしてしまうのは、女性にとって不利になることが多いと思いませんか？「男女平等」を唱えるのは、ひと昔前のことでナンセンスです。むしろ『老若男女、一生を楽しく豊かに過ごせる小金井』を目指してください。図書館には本がなく、学習室もありません。子どもたちは他市の図書館を利用しているのも、ご存知ですか？本当の教育にも力をまったく入れていないですね。（小中にパソコンもない）目先のことでなく、もっと未来にも目を向けてください。まずは駅前の市民交流センターに学習室や図書室、その他に必要な講義、またはイベントを行ったら、いかがでしょうか。</p>	女性
<p>男女に関係なく、個人の能力・適性にあった生き方を見だし、人間関係を円満に個々が努力すべき。あまり男女不平等を感じたことがないため、このアンケートの意見がよくわかりません。</p>	男性
<p>4人の子ども、実母の介護、たくさんの問題を抱え、フルタイムの仕事をして、向上心をもって働いても、職場は男優先。仕事への欲も、向上心も失われつつあります。男だから、女だからと区別せず、人間の質をもっと見直した方がよい。政治が年寄りのお金に欲かいている男ばかりだから、世の中は何も変わらない。なんとかしないと、もっとダメな日本になってしまうように思います。</p>	女性
<p>男性の意識改革が必要だと思うが、本人の意志がなければ変わらないので、どうしようもないのかと思う。</p>	女性
<p>無駄に建てた小金井の公会堂を、このアンケートにある内容をセミナーとして、毎月イベント化し、市民へいろいろとアピールしてほしい。もっと取り組みを知らせないと、何もやっていないように思う。</p>	男性

内容	性別
平等とは、どこまでをいうのか？男性と女性では、もともと持っているものが違う。すべてを平等にするのは無理で、お互いの長所を伸ばした結果、現在の形となり、男女がともに教育を受け問題となった。女性も家事だけでなく仕事もしたいし、自分の時間もほしい。それが叶うときが平等だと、多くの人を感じることはできないかと思う。日本は法律を作って解決したつもりになっているが、実際の社会の中では役に立たず、環境はよくなっていない。男性は育児や地域に無関心なのではなく、関わる心と体のゆとりが持てない社会で暮らしているのだと思う、その改善が必要なのではないかと思います。	女性
日本社会全体が変わること。男性・女性一人ひとりが変えようと思うこと。特に東京の女性は意識格差が大きいと思う。	女性
男女平等社会とは？男女それぞれが同じ条件で仕事をしたり、権利をもつことでしょうか？性別が違う限り、まったく同じにすることはできないと思います。それよりも、それぞれができることをやりやすい環境にしていき、互いを尊重し、協力できる社会であり、家庭であり、地域にしていくべきだと思います。権利ばかり主張していてもよい世の中にはならないと思います。このアンケートにも、そんな権利主張するような内容ばかりに感じました。今このときに大切なものは何かを考えた方がよいのではないのでしょうか。	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性側にも甘えがあると思う。</li> <li>・年齢差別もなくしてほしい。</li> <li>・だったら残業するのは男女等に時間とエネルギーの無駄。</li> </ul>	女性

### <50 歳代>

内容	性別
すでに社会が十分に成熟しているので、ほとんどは個々の問題になると思う。果たして、自治体が今以上に取り組む必要があるかは疑問。	女性
男女ともに若者の雇用と職業のスキルアップを継続的に続けないと、次世代に歪みとなって現れる。現在は高齢者の年金で若者を支えているので、まだ表だって大きく崩れていないが、すぐに消費社会を支える人がいなくなってしまう。(10年後)→子どもを育てる環境がなくなる。また無縁社会(ひとり暮らし)をなくす行政の大きなお世話政策が必要と切に思った。	女性
「男女平等」と言っていること自体が男女という差を認識している。「人間」としての個性として捉えることで、社会を形成していくことが重要である。その中で弱者に対する支援方法を検討し、実施する。第三者機関を設置し、受け身ではなく、発生事象の発見に注意する。	男性
女性の社会進出と地位保持には「育児」の負担軽減が最も重要と考えます。それを家庭で解決させるのではなく、まず公的サービスの充実、次いで職場の環境づくりにおいて解決すべきと考えます。専門知識を要す職場で働いているため、仕事上の男女区別はあまりありませんが、一般の職場では男性が女性より優遇されやすいと思います。その平等化に向けては男女平等の意識を高める教育(生涯教育的な)が大切と考えます。	男性
日本では職場での長時間労働がワークライフバランス実現の大きな障害になっていると思われる。職場での、そのような問題の解決も重要だと思う。	男性



内容	性別
地域での交流があることを知らないの、いろいろな家族との交流をしたくてもできない現状です。情報を市民に知らせる方法をもっと考えてほしい。小金井市の取り組みも知らなかったので残念。協力できたらしたいのですが。	女性
子育て、介護など、地域で互いに支えあえるようなシステム作り、仕事（年齢に関係なく）を通して、生きがいを持てるような就労支援など、地域のネットワークの充実を目指す取り組みが必要ではないかと思います。	女性
性ではなく、個人の能力を生かす教育を推進するとよいと思います。	男性
男女平等推進センター（仮称）の建設に反対します。財源不足です。	男性
育児・介護施設（必ずしも市がつくる必要なし、民間の力も利用）・制度の拡充。	男性
このようなアンケートもよいけど、ごみ問題を何とか早く解決するべきだ。	男性
質問の内容も男女を意識しすぎたものが散見されます。もう少し、専門家にチェックしてもらって、よかったのではないのでしょうか。また子育て＝女性ということ許している社会全体の風潮を変えていくには時間がかかります。小金井市として、市長が変わるたびに仕組みが変わるといことがないような、住民が考えるジェンダーを話し合ってから、よりよいものにしていくことがよいのではないかと思います。頑張ってください。	男性
難しい課題だと思いますが、市でもいろいろ考えているようなので、市民のひとりとして期待しております。	女性
世代によって、男女平等意識が違うように感じるがありますが、若い世代の人たちの意識の方が高いように思います。頭が柔らかい子どもたちへの教育がとても大切だと思います。	女性
結局は教育だと思います。子ども手当ではなく、出産しやすい医療施設等の充実、医師や看護師の充実、その後の保育園や幼児教育施設の充実、子育て世帯に対する住環境の整備の方が急務である。	女性
職場環境の改善が重要。いくら講習・情報提供が充実しても、働く男女ともに企業の理解がなければ実現できないのが実情。自治体でできること、国でないとできないことを使い分けることが必要。法規制の強化を国へ働きかけ、企業の環境を改善していき、その受け皿として、家庭環境の改善を自治体が進めていくことにより、はじめて男女平等の充実した生活が実現できるのではないかと思う。	男性
男女ともにケースバイケース。働きたい人、家事をしたい人、その他や介護の必要な人など…。各々が自分に適した生活をする手段を探せる環境が必要だと思います。ただ男女平等推進センター以前に、小金井市にはゴミという大問題や地震対策など、市民が不安になっていることの啓蒙活動が最優先だと思いますし、願うばかりです。	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性、男性それぞれの特性を生かし、各個人の個性を生かし、家庭にあっても、地域職場にあっても、互いを尊重して活動（生活）できる環境を整えていくことが必要。</li> <li>・自分らしく生きがいのある社会を築いていくために男女が協力し、助け合う社会にしていくことが必要だと思う。</li> <li>・制度を整えることも必要だが、人間としてどう生きるかの意識啓発を行うべき。</li> </ul>	女性

内容	性別
男性も普段から育児・家事に積極的に関わるべきであるという意識改革が必要。男性も平日は仕事を中心に考えてもかまわないが、休日には掃除・洗濯・料理・育児に積極的に関与すれば、育児休業は取る必要はないのではないかと思います。	男性
育児休業・育児時間ともに男性・女性が半々にとることを義務づけることが大切だと思う。(男女共働きの場合) どちらかということになると、世の中の意識も女性側がとるべきという意識である。そのままでは変わらない。女性が多い職場に負担がかかることになると、採用時にやはり男女の差別は残ってくると思う。	女性
駅前の境にある武蔵野プレイスのような市民交流センターがあれば！小金井の図書館の蔵書は古く、勉強するスペースもない。生涯学習の場として、市民がもっと交流できる場をつくってほしい。公的施設(調理室等)に置いてある食器やオープン等が古い。他の市のように、もう少しお金をかけてほしい。(有料でもOK!)	女性

### <60 歳代>

内容	性別
身分相応とは言わないが、能力相応に振舞うべきで、そうしない人間が増えすぎている。男女差ではなく、能力差で人材を育てないと、国力は低下するばかりで地域についても同様である。	女性
本調査の設問文章にも驚かされる。また、そんな状況があるのだと知って、改めて認識した次第。でも女性だけじゃない、男性も、老人も、子どもも、みんな社会の不均衡に泣いている。部分的でなく、社会全体でバランスの取れた成熟が望まれる。	女性
経済の安定、就業の安定、平和な(危険や不安にさらされない)社会をまず目指すことを通し、人への思いやり、関わりあう喜びが生まれてくるのではないのでしょうか。まず“人”として、社会は大切にしているかを考えていきたい。	女性
生活するすべてに安心が得られれば、喧嘩もなく、穏やかになれる。そうすれば家庭も、社会もみんな笑顔で暮らせる。お金持ちが立派ということではなく、努力が実り、それぞれ分相応と思えるような社会になればよいのと思う。市の職員の意識も、もっと世の中に知ればよいでしょう。人として何かもうひとつ、窓口にくる市民に対して思いやりが欠けているように見える。庁舎の中で出会ったら、会釈くらいしたら心がホッと温まる。こんなことが生活にゆとりが生まれると思います。	女性
女性も、男性も個人個人、前向きに近隣と常にコミュニケーションをつくる努力をすること。	女性
平等、平等と権利ばかり出張せず、男でも家事・育児が好きな人は妻より多く分担すればよいのではないか。仕事に向いている女性、能力のある女性は大いに社会で実力を発揮するべきです。しかし、子どもは女にしか産めないのだから、当然バックアップが必要です。環境づくりが国全体でなされるような、産後の女の仕事復帰が自然に叶うようなことが望まれます。	女性
男性の逞しさ、女性の優しさを堅持しつつの男女平等社会にしたいですね。	男性
男性には男性の役割があり、それぞれの役割を果たすことが男女平等であり、まったく同じことをするのが平等ではないことを理解してほしい。	男性
世代を問わず、働く意欲のある人には提供できる場があることが望ましい将来像です。	女性

内容	性別
地域の会館などの講座を充実させて、気軽に参加できるようになるのが理想。ボランティアなど参加したいが、仕方がわからない。	女性
世の中が開放的になることが大事でしょう。あれこれと決まりが多くて、楽しくないのです。世の中の人がうるさすぎます。生き物に優しくない（野良猫や哀れな犬等）、汚いとすぐ言うが汚いものに対する優しさ（ホームレスの人たちにも）、小さなことばかり気にして、大らかさがなく、人を許したり、気持ちよく笑顔で挨拶もしません。みんな自分のことばかりよければなんて雰囲気はなくしたいですね。少し馬鹿になれる社会はどうしたらよいのか、考えています。	女性
男女平等など言葉ばかり並べていないで、住民全員で未来を担ってくれる子どもをたくさん生んで、元気に育てることを考えていれば、何が足りないか、必要か、自ずとでてくる。生むのは女性にしかできないが、それ以外はすべての人で協力する。	女性
今や、女性が強すぎる時代。特に若い世代では男性が縮こまっている。男女平等推進センターを建設することは不要。税金の無駄遣いをしてはならない。	男性
60歳を超えて言えるのは、健康・食事・教育の大切さです。明治生まれの親から学んだことは、男女の役割がはっきりしていたこと。それは歴史からも学べるように、戦争の時代と現代とでは、価値観・ジェネレーション・ギャップで考え方が変わるのは当然のことなのでしょう。先人が築き上げたものを生かすか、埋もれさすかではないでしょうか。NHKで日本のよさを見直す番組があります。優先順位を考え、よりよい日本にしたいものです。	女性
男女平等は女性の問題ではなく、個人としての社会平等で、本来もっている男性と女性の違い、各家庭での各々の必要性および必要とされる意識、子どもにとっての親のあり方・役割、家族・地域を大切に思う意識、社会全体を大切に思う意識を大事にしてほしい。人と人とのつながりは仕事やボランティア、公共の場に参加することでなく、まずは“隣の人”との会話からはじまるものだと思います。人によって話が苦手とか…あると思う中、子どものときにいろんな人とのふれあい、近所の友だち、近所のおじさん・おばさん、教育現場での友だちづくり、協調性、人の命…大事にしてほしい。人間として何が大切か、生きるということの意義。	女性
とても大事で高度な施策だと思います。よりよい行動計画ができるよう願ってやみません。	女性
女性は出産・子育てがあるので、それも仕事とみなしてほしい。能力ある人は外に働きに出てほしいが、出産・子育てのときはやはり子どもと接してあげてほしい。最近は専業主婦が少ないけれど、家庭の仕事、子育ても大切なことだと思う。家庭のあり方をもっと考えてほしい。男女平等というけれど、女性が社会に出るのだけが平等なのではないでしょうか。年寄りも考えてしまいます。	女性
男女平等は自分の会社では少なくとも確立されている。（但し、従業員が1700/20しか男性はいない）地域では人と接する機会が少ないので、状況がわからない。また人と触れ合う機会をつくらないと難しい。	男性
ゴミの問題を片付けてからでなければ、一步も進めない。	男性
元気なうちは、どんな形でも社会の中で、いろんな人々とのつながりを持っていくように暮らせたらいと思っています。	女性

内容	性別
<p>私自身は大学卒業後、少し会社勤めをし、寿退社。その後、子育て15年後にパートとしてしか社会復帰できず、パートでも仕事をするという、お金では得られない喜びを身に染みしました。娘たち二人には結婚後も総合職として、仕事を続けることを希望していますが、平日は夫の夕飯も作れない状況で、二人とも子どもが授かった後はどうしようかと悩んでいます。子育てと仕事は娘たちにとっても切実であり、表向き、時短等とっている一部上場企業でも、現実には難しいようです。もちろん本人たちの体力もありますが、時間の制約も厳しいものがあり、社会全体で何とかしてあげなくてはいけない問題と痛切に感じています。</p>	女性

### <70歳以上>

内容	性別
<p>自由・平等・人権等というものは、人に与えられて身につくものではなく、自ら戦いとる努力が必要だ。男女平等社会は「人間の平等社会」の中でしか、実現しないと思います。</p>	男性
<p>自分の国がすばらしいとって公職を追放されるなど、とんでもない。1日も早く自虐史観など捨て、自分の国に誇りを持ち、独立国なのだから自分の国は自分で護る。(いつまでも、アメリカが護ってくれると思っているのなら、それは大間違い) という気概をもって、いきいきと暮らせる社会になってほしいですね。サンフランシスコ平和条約で日本は独立国として、国際社会に復帰したのです。この条約が施行された時点で国際法上でも太平洋戦争(第二次大戦)のわが国の責任は全部なくなったのです。</p>	男性
<p>社会も、家庭も人と人との和が大切。相手に対し、思いやりの心、ワガママばかりいう人は和を乱すもと。自分に、できる楽しみを見つけ、健康に注意し、明るく無理をしなく生活を心がけるよう努力したいと思います。読書・新聞に目を向け、政治経済、歴史等、ボケ防止に努めています。</p>	女性
<p>70歳以上でひとり身の者に、こんなアンケートは無意味だと思います。とても答えに難しいです。</p>	女性
<p>現在、私は71歳年金暮らしです。このアンケートの内容に当たることが余りありません。参考ということでお願いします。尚、まだ日本は男女平等はほど遠いように思います。市役所職員のご活躍、お祈り申し上げます。</p>	男性
<p>確実に充実した歩でよい社会をつくってゆきたい。</p>	女性
<p>現在、80歳以上の高齢者は仕方がない(男女平等)が若い人は生涯助け合って、平等で楽しく老後を送るよう長生きしてほしい。</p>	女性
<p>「婦人会館」という名称について、男女共同や男女平等を推進している「市」としたならば、この「婦人…」という会館名はおかしいし、男性(消極的な人や恥ずかしがり屋等の人)は入ることに抵抗を感じるのでは。また、地域の人からも聞いたことがある。「・・・公民館」や「・・・会館」に変更されれば、男女を問わずに参加しやすいのでは。その他の事柄ですが、「小金井市市民交流センター」の名称は他市の人は催し物等に参加しづらいのでは。「小金井文化会館」等の方が適切と思う。また、あの文字も目立たないと、他の人々も言っている。</p>	女性
<p>すべての面で格差の少ない社会を構築することが第一と考える。</p>	男性
<p>男性も女性もともに平等にリタイヤしても、生活していければ家事も平等にしてほしい。(男性)</p>	女性

内容	性別
相手の人格を尊重する、人の幸せに力を尽くす、自分の意思をきちんと伝えることができる、地域発展に微力でもつくせる等々、基本的な人間尊重の意識をもつ人を増やす政策を取っていただきたいし、市民一人ひとりが自らを改革していきたいものです。	女性
現在、社会は女性も教育程度が高く、年齢を重ねるほど強くなる。社会では男女ともに差別はなく、暮らしや物事に積極的に努力することが大切である。	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 武蔵小金井駅の南口・北口の空地利用について、どんな計画が進行中なのか、わかりませんが、賑わいや活気が出るような（野外カフェや老人の休み処、子どものための遊具の設置など）場所づくりの提供。</li> <li>・ 高齢者のひとり世帯の安否確認の充実。</li> <li>・ 災害弱者の把握と支援体制の強化。</li> </ul>	女性
誰でも（老若男女を問わず）、いきいきと暮らせることが必要で、あえて「男性も、女性も」と表現しなくてはならない要因がどこにあるかを考えることが必要と感じます。男女の平等・共同は当然必要ですが、その前に個人・個性が尊重される社会でありたいものです。これは、きれいごとですね。	男性
地球も刻々と変化し、時代も変わってきている中、肉体的・精神的にも健全な心で自分に自信をもって、楽しく社会に参加し、貢献していくこと。	女性
男性は子どもを産み、授乳することは逆立ちしてもできないのだから、まったくの男女平等はあり得ない。自ずと分担すべきものがあるのではないか。そのことを認識した上での平等を考えるべきだと思う。それには男性が女性を理解し、女性も自身を認識する必要がある。男性にはできない仕事があるわけだし、女性には無理な仕事があると思う。要するに、それぞれが幸せになればよいことではないか。	男性
男女の性別や偏見に対して、一人ひとりが自分の考えをもつこと。そのためには、これまで努力をされてきた先人の足跡など学習し、自分自身を鍛えていくことに努力したいと思います。	女性
互いに甘えすぎないように、自身を確立させた精神を持続させて、公的機関の力を借りたり、貸したりしたら、規則を振りまわさない。心のある手の貸し方で一人ひとりを大切にする社会を望む。	女性
平等とっていますが、今更取り上げることですか？このアンケートの主旨は何ですか？	女性
健康であること。人生の生活に目標がもてる社会があること。	男性
年配者も若い人も未知へ躍るものが見えず、不安だらけの社会から殻に閉じこもり、孤立しがちになるように思う。お互い誘い合い、呼びかけの暮らしをするようにしたら、いきいき社会があると思う。	女性
設問の文章・形式が難解で答える前に嫌気がしてきます。理解できたときには回答を誘導されており、自然な気持ちでの回答とするに苦労しました。誘導型といわれるアンケートに似ており、フェア性に疑問が残りました。	男性
市は男女平等企画は大変よいと思います。このアンケートを機会に実現に前進してほしいと思う。企画政策課のスタッフの皆さん、ご苦労様です。今後も続けて頑張ってください。	男性

内容	性別
<p>男女平等といっても、女性が育児と家事から解放されてない現状では、まず男性の意識改革が最必要。私は主人の仕事でUKで6年生活した結果、主人も日本男性と比べて、家庭内に目が向き、夜も一緒に晩酌しており、炊事もやってくれます。男女平等の平和で豊かな社会をつくるには長い年月を要するでしょう。</p>	女性

### Ⅲ 職員対象調査の結果

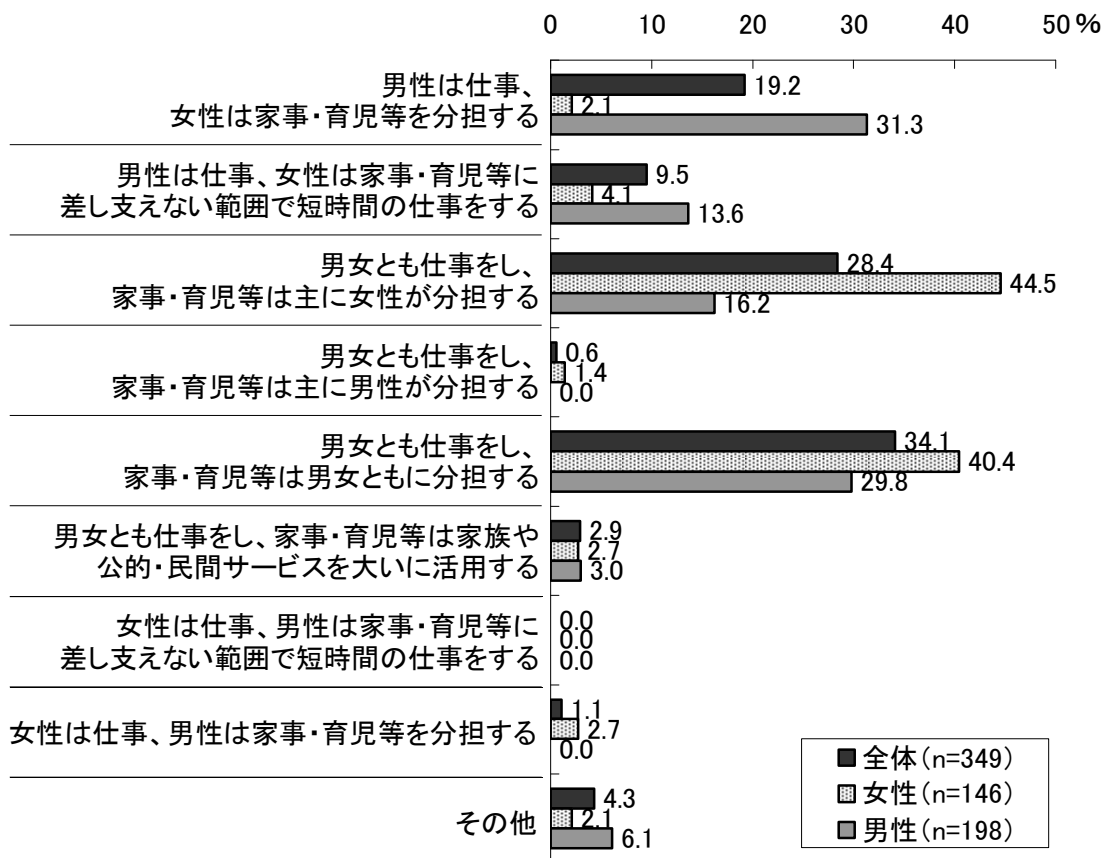
#### 1. 一般的な男女のあり方について

問1 あなたのご家庭では、仕事（生計を得るための仕事）と家事・育児等の家庭内の仕事を、どのように男女で分担していますか。また、理想はどうあるべきだと思いますか。  
 （最も近いもの1つずつ選択。現在、該当しない方は理想のみお答えください。）

##### ■現状

家庭における仕事と家事・育児等の分担の現状についてみると、全体では「男女とも仕事をし、家事・育児等は男女ともに分担する」が34.1%と最も高く、次いで「男女とも仕事をし、家事・育児等は主に女性が分担する」となっています。

性別にみると、女性では「男女とも仕事をし、家事・育児等は主に女性が分担する」、男性では「男性は仕事、女性は家事・育児等を分担する」が最も高くなっています。また、「男性は仕事、女性は家事・育児等を分担する」では男性が女性よりも約30ポイント、「男女とも仕事をし、家事・育児等は主に女性が分担する」では女性が男性よりも30ポイント弱高くなっています。

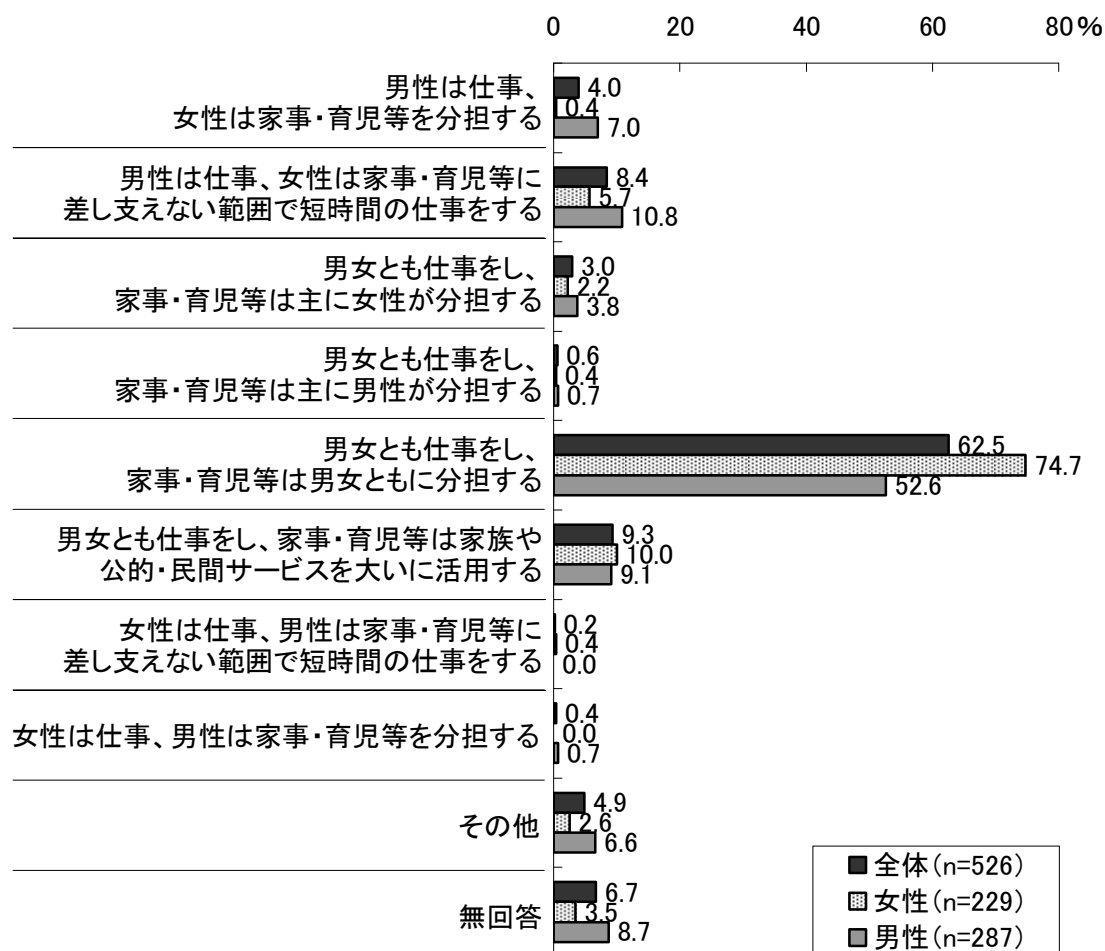


※該当者のみを集計しているため、無回答者数を除いた数値となっています。

## ■理想

家庭における仕事と家事・育児等の分担の理想についてみると、全体では「男女とも仕事をし、家事・育児等は男女ともに分担する」が62.5%と最も高く、次いで「男女とも仕事をし、家事・育児等は家族や公的・民間サービスを大いに活用する」となっています。

性別にみると、男女とも「男女とも仕事をし、家事・育児等は男女ともに分担する」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも20ポイント以上高くなっています。



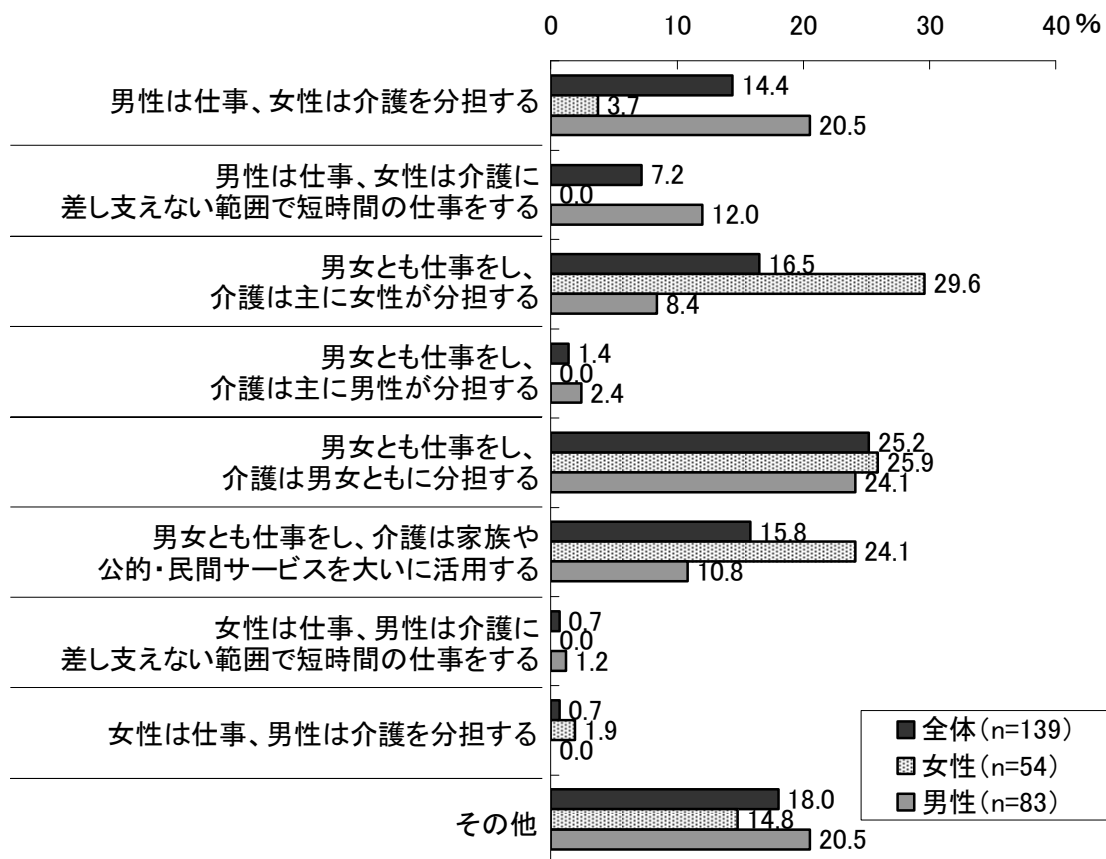


問2 あなたのご家庭では、仕事と介護をどのように男女で分担していますか。また、理想はどうあるべきだと思いますか。(最も近いもの1つずつ選択。現在、該当しない方は理想のみお答えください。)

■現状

家庭における仕事と介護の分担の現状についてみると、全体では「男女とも仕事をし、介護は男女ともに分担する」が25.2%と最も高く、次いで「その他」となっています。

性別にみると、女性は「男女とも仕事をし、介護は主に女性が分担する」、男性は「男女とも仕事をし、介護は男女ともに分担する」が最も高くなっています。また、「男性は仕事、女性は介護を分担する」は男性が女性よりも15ポイント以上、「男女とも仕事をし、介護は主に女性が分担する」は女性が男性よりも20ポイント以上、「男女とも仕事をし、介護は家族や公的・民間サービスを大いに活用する」は15ポイント弱高くなっています。

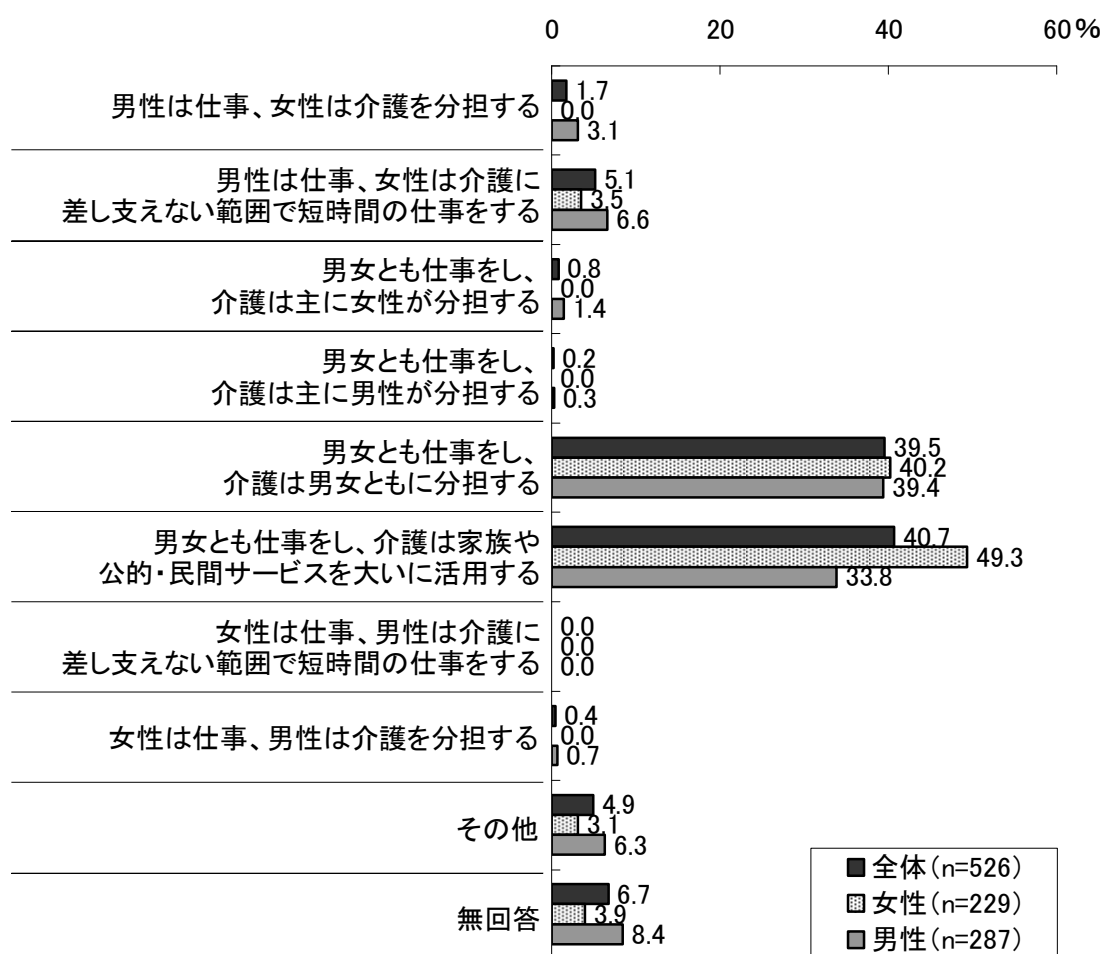


※該当者のみを集計しているため、無回答者数を除いた数値となっています。

## ■理想

家庭における仕事と介護の分担の理想についてみると、全体では「男女とも仕事をし、介護は家族や公的・民間サービスを大いに活用する」が40.7%と最も高く、次いで「男女とも仕事をし、介護は男女ともに分担する」となっています。

性別にみると、女性では「男女とも仕事をし、介護は家族や公的・民間サービスを大いに活用する」、男性では「男女とも仕事をし、介護は男女ともに分担する」が最も高くなっているものの、「男女とも仕事をし、介護は家族や公的・民間サービスを大いに活用する」は女性が男性よりも約15ポイント高くなっています。

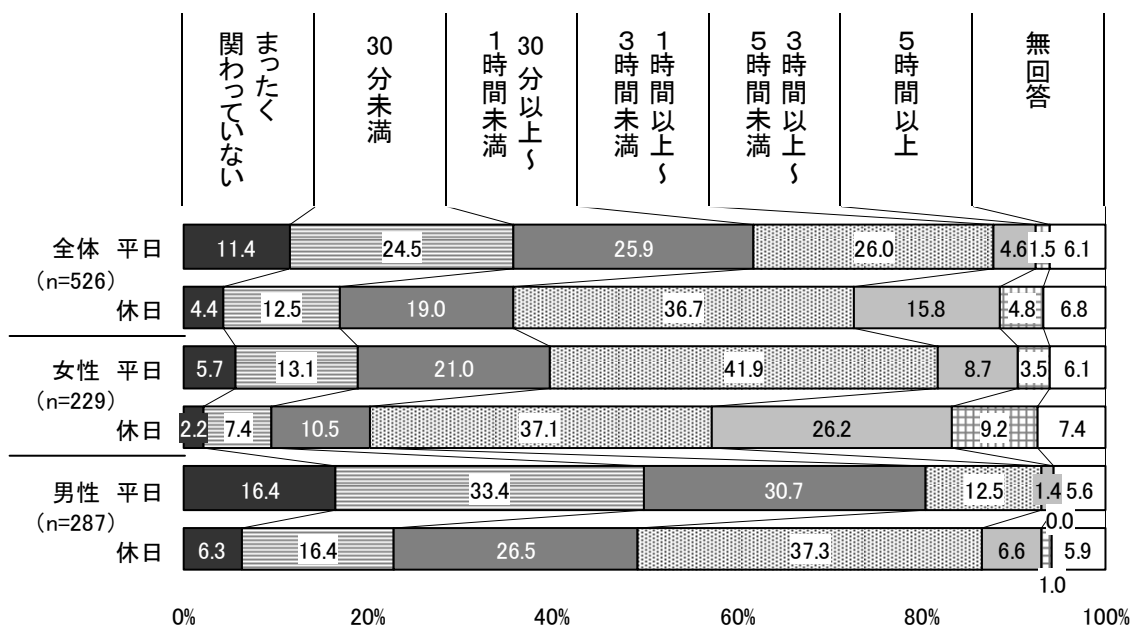


問3 あなたが「A. 家事」、「B. 育児」、「C. 介護」に携わる時間は、1日あたりそれぞれどれくらいですか。(①平日、②休日のそれぞれについて○は1つ)

A. 家事 (平日/休日)

家事に1日あたりどれくらい携わるかについてみると、全体では平日・休日とも「1時間以上～3時間未満」が最も高く、次いで「30分以上～1時間未満」となっています。

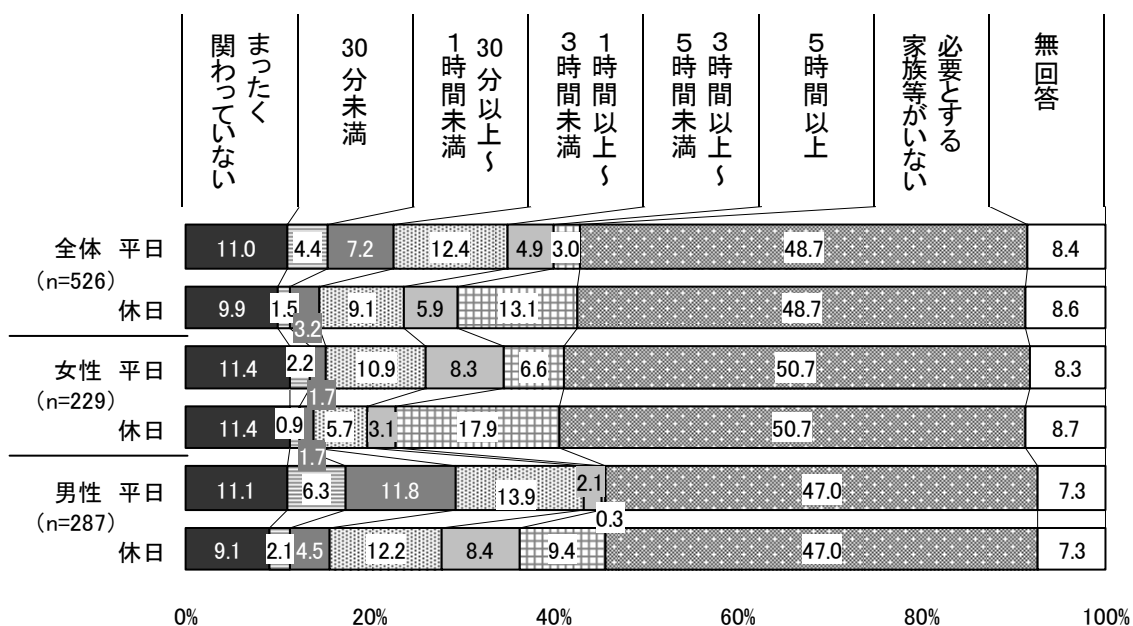
性別にみると、女性では平日・休日とも「1時間以上～3時間未満」が最も高く4割前後となっており、特に休日は1時間以上～5時間未満が6割以上を占めています。男性では、平日は「30分未満」、休日は「1時間以上～3時間未満」が最も高くなっています。平日は1時間未満が約8割、休日は3時間未満が8割半ばを占めており、女性の平日とほぼ同程度となっています。



## B. 育児（平日／休日）

育児に1日あたりどれくらい携わるかについてみると、全体では「必要とする家族等がない」が5割弱と最も高くなっています。

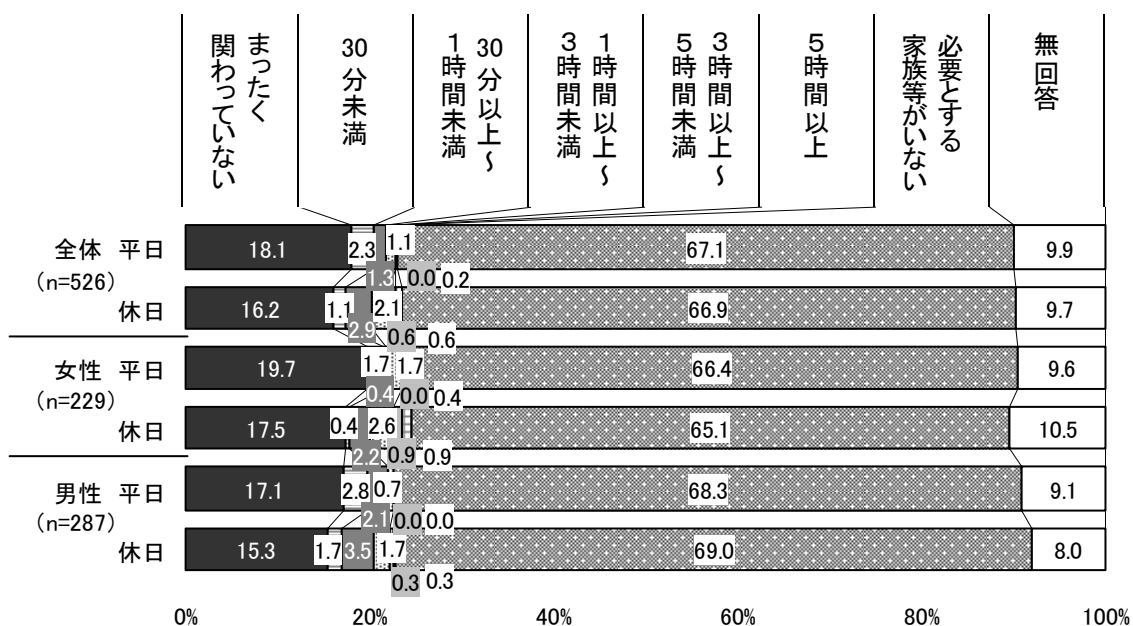
性別にみると、男女とも「必要とする家族等がない」が最も高くなっているものの、女性では休日で「5時間以上」が2割弱、男性では平日で3時間未満が4割以上となっています。



## C. 介護（平日／休日）

介護に1日あたりどれくらい携わるかについてみると、全体では「必要とする家族等がない」が6割半ばと最も高くなっています。

性別にみると、男女とも「まったく関わっていない」が1割半ばから2割弱と最も高くなっているものの、女性が男性よりもやや高くなっています。

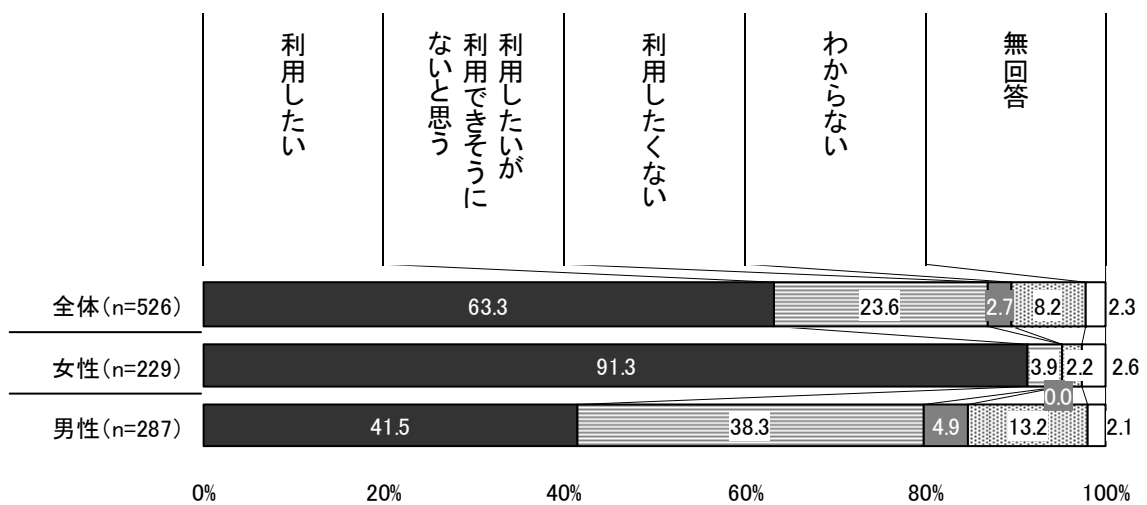


問4 育児休業や介護休暇は男女がともに利用できる制度ですが、あなたは、自分自身が「育児休業制度」や「介護休暇制度」を利用することについてどう思いますか。現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。(各項目で○は1つ)

①育児休業制度

育児休業制度の利用意向についてみると、全体では「利用したい」が63.3%と最も高くなっています。また、「利用したい」と「利用したいが利用できそうにないと思う」を合わせた『利用したい』が8割半ばを占めています。

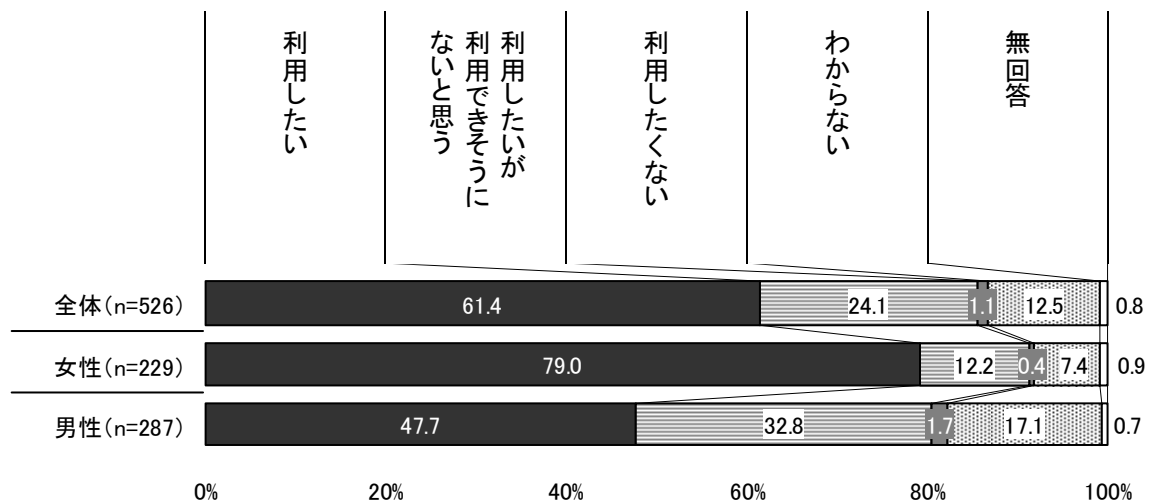
性別にみると、男女とも「利用したい」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約50ポイント高くなっています。また、男性では「利用したいが利用できそうにないと思う」が38.3%となっており、女性よりも約35ポイント高くなっています。



## ②介護休暇制度

介護休暇制度の利用意向についてみると、全体では「利用したい」が61.4%と最も高くなっています。また、「利用したい」と「利用したいが利用できそうにないと思う」を合わせた『利用したい』が8割半ばを占めています。

性別にみると、男女とも「利用したい」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約30ポイント高くなっています。また、男性では「利用したいが利用できそうにないと思う」が32.8%となっており、女性よりも約20ポイント高くなっています。

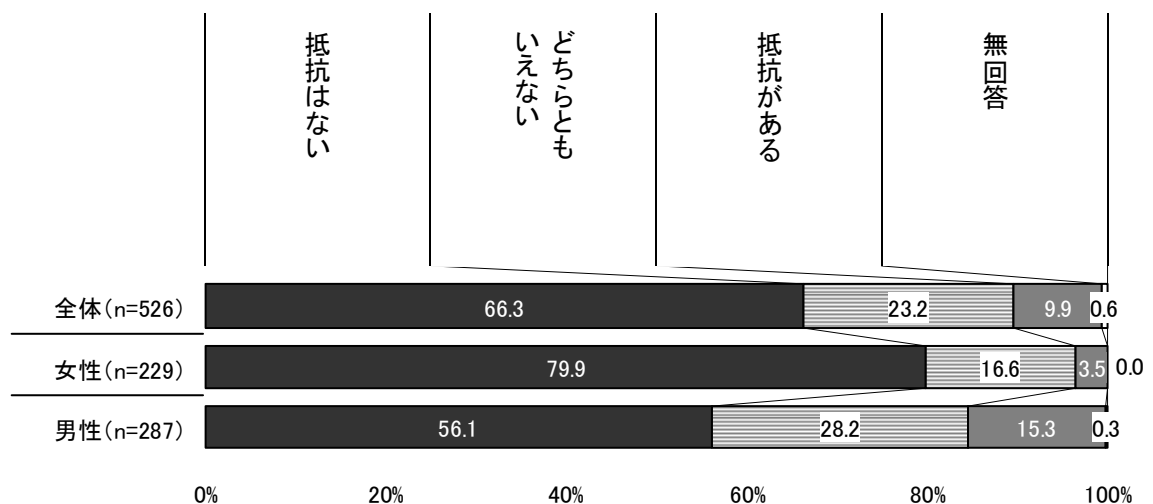


問5 あなたの職場で育児休業や介護休暇の制度を利用することについて、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものを選んでください。(各項目で○は1つ)

ア) 男性が育児のために休業をとることについて

【男性が育児のために休業をとること】についてみると、全体では「抵抗はない」が66.3%と最も高くなっています。

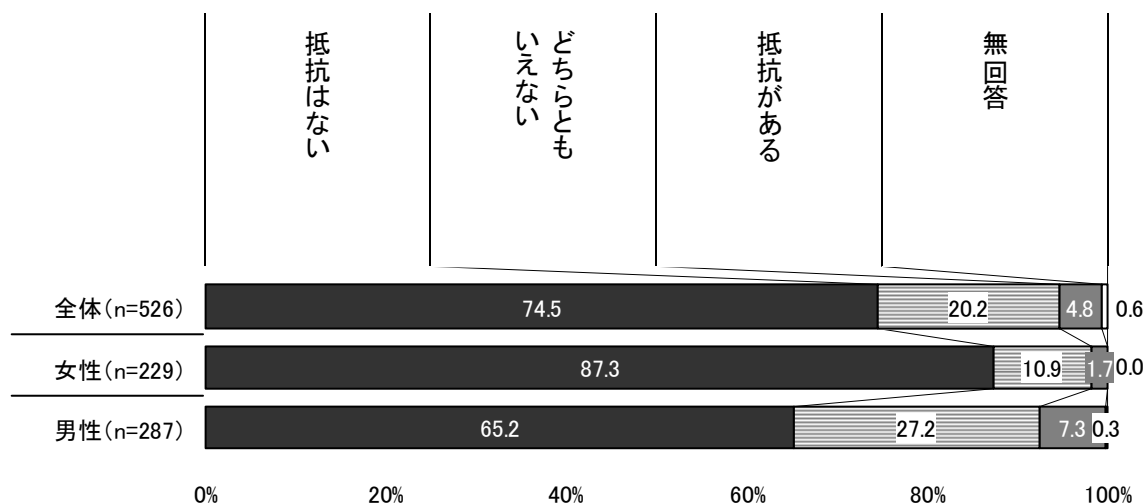
性別にみると、男女とも「抵抗はない」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも20ポイント以上高くなっており、男女で考え方にやや違いがみられます。



## イ) 男性が家族の介護のために休暇をとることについて

【男性が家族の介護のために休暇をとること】についてみると、全体では「抵抗はない」が74.5%と最も高くなっています。

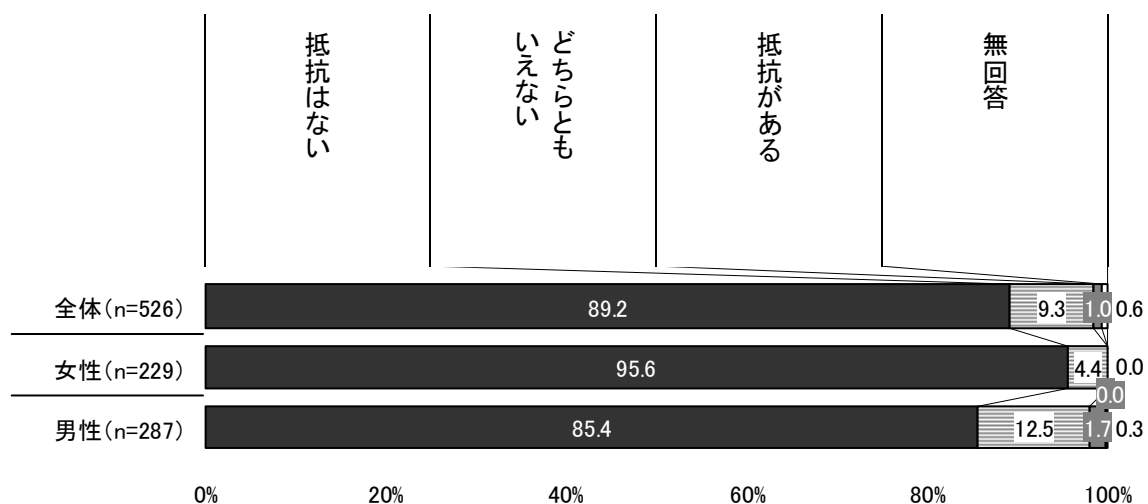
性別にみると、男女とも「抵抗はない」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも20ポイント以上高くなっており、男女で考え方にやや違いがみられます。



## ウ) 女性が育児のために休業をとることについて

【女性が育児のために休業をとること】についてみると、全体では「抵抗はない」が89.2%と最も高くなっています。

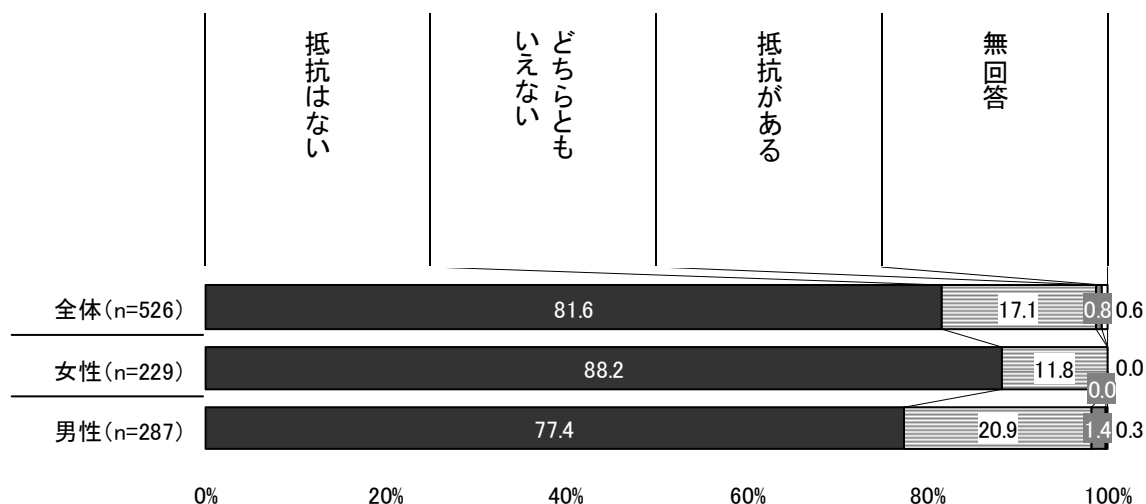
性別にみると、男女とも「抵抗はない」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約10ポイント高く、特に女性では9割半ばを占めています。



## エ) 女性が家族の介護のために休暇をとることについて

【女性が家族の介護のために休暇をとること】についてみると、全体では「抵抗はない」が81.6%と最も高くなっています。

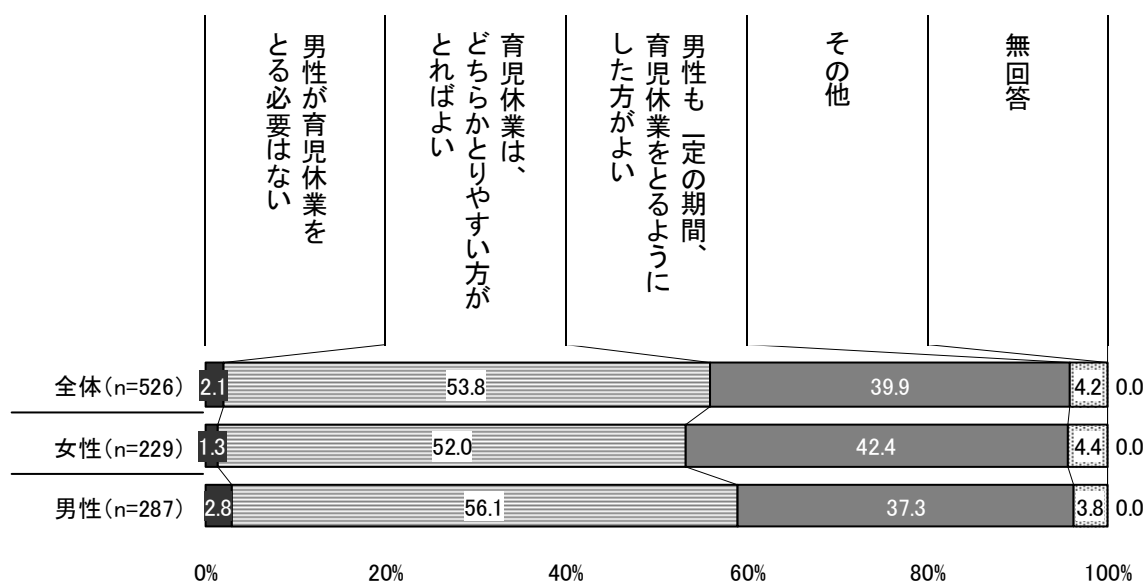
性別にみると、男女とも「抵抗はない」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約10ポイント高く、特に女性では9割弱を占めています。



## 問6 共働きの男性が育児休業をとることについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

共働きの男性の育児休業取得をどう思うかについてみると、全体では「育児休業は、どちらかとりやすい方がとればよい」が53.8%と最も高くなっています。

性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。

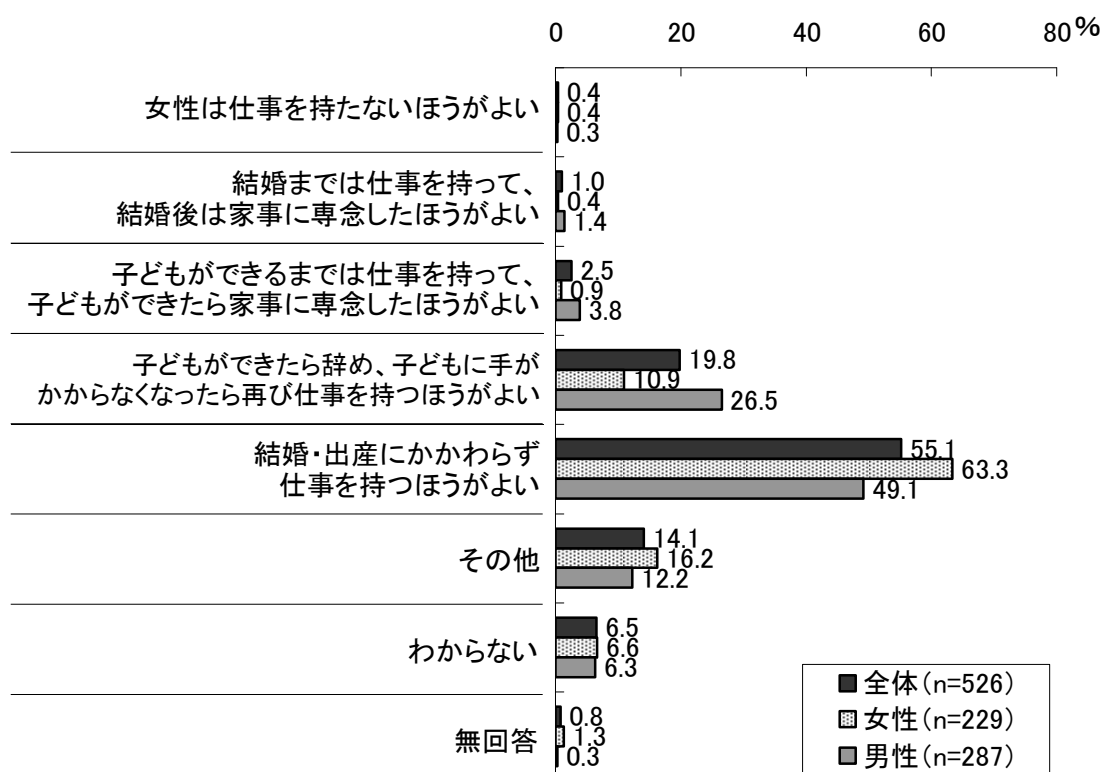




問7 女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。(〇は1つ)

女性が仕事を持つことをどう思うかについてみると、全体では「結婚・出産にかかわらず仕事を持つほうがよい」が55.1%と最も高く、次いで「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事を持つほうがよい」となっています。

性別にみると、男女とも「結婚・出産にかかわらず仕事を持つほうがよい」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約15ポイント高くなっています。また、「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事を持つほうがよい」では男性が女性よりも15ポイント以上高くなっています。

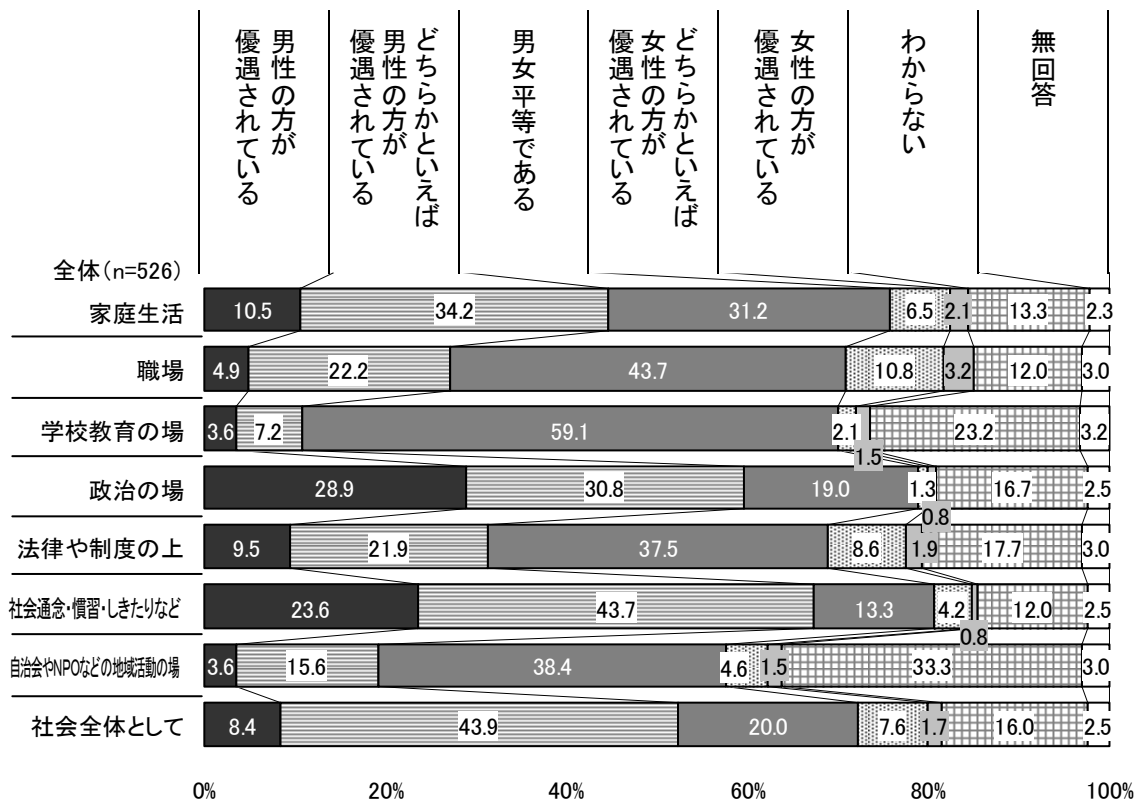


問8 あなたは、次のような場で男女が平等になっていると思いますか。(各項目で○は1つ)

各分野における男女の地位についてみると、全体で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』では、社会通念・慣習・しきたりなどの分野が67.3%と最も高く、次いで政治の場となっています。

一方、「男女平等である」では、学校教育の場が59.1%と最も高く、次いで職場となっています。

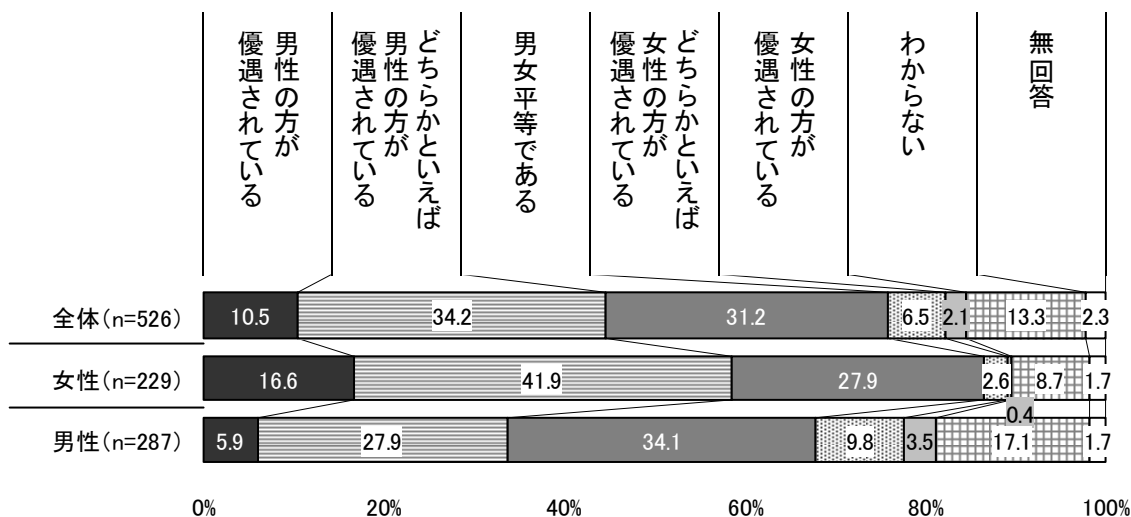
また、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』は、職場で14.0%、法律や制度の上で10.5%となっているほかは、いずれも1割に満たない状況です。



## ア) 家庭生活

家庭生活における男女の地位についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が34.2%と最も高く、『男性優遇』が4割半ばを占めています。

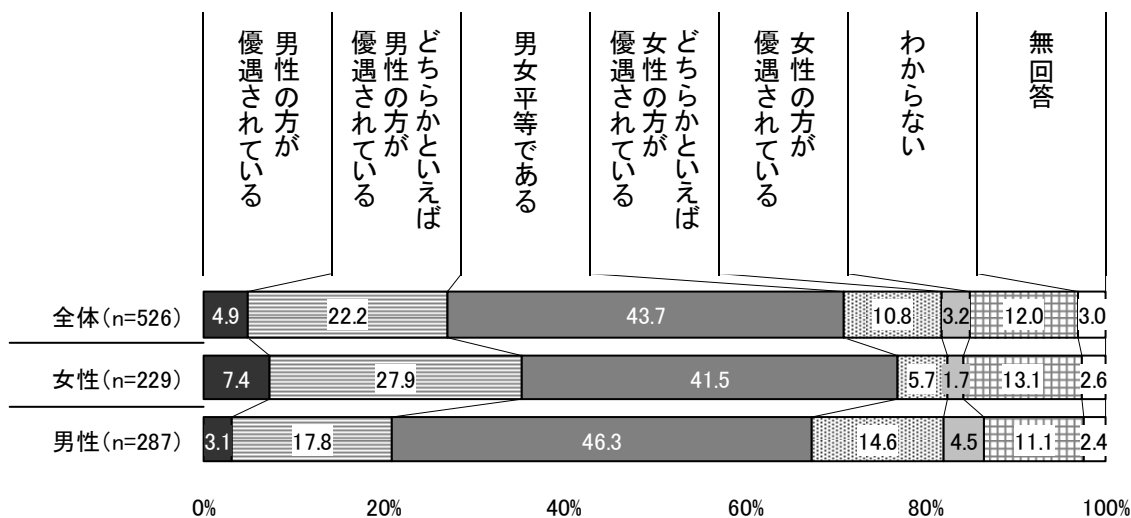
性別にみると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、男性では「男女平等である」が最も高くなっています。また、『男性優遇』で女性が男性よりも約25ポイント高くなっており、男女で感じ方に違いがみられます。



## イ) 職場

職場における男女の地位についてみると、全体では「男女平等である」が43.7%と最も高くなっています。

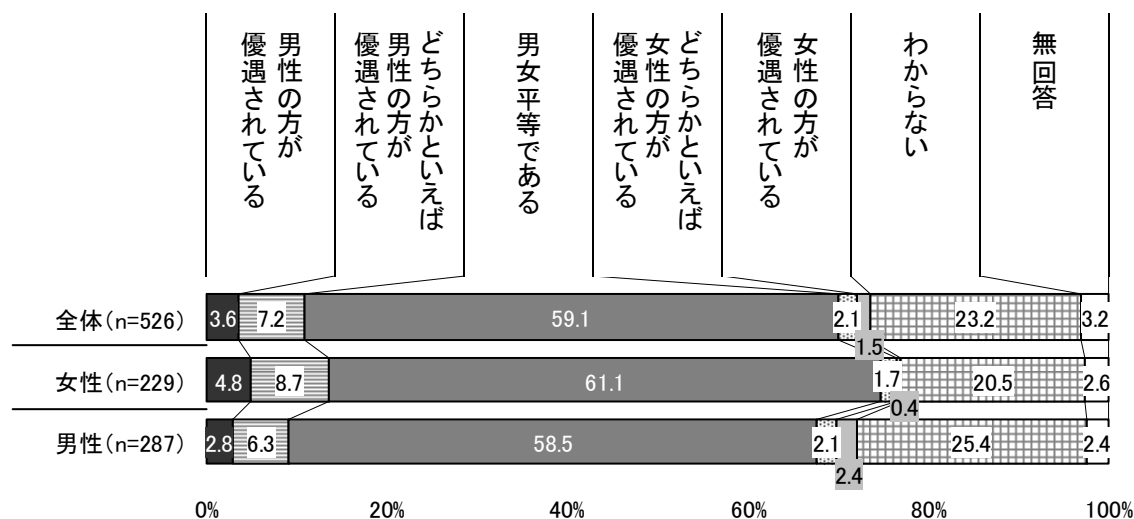
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっているものの、『男性優遇』で女性が男性よりも約15ポイント高くなっており、男女で感じ方に違いがみられます。



## ウ) 学校教育の場

学校教育の場における男女の地位についてみると、全体では「男女平等である」が59.1%と最も高く、6割弱を占めています。

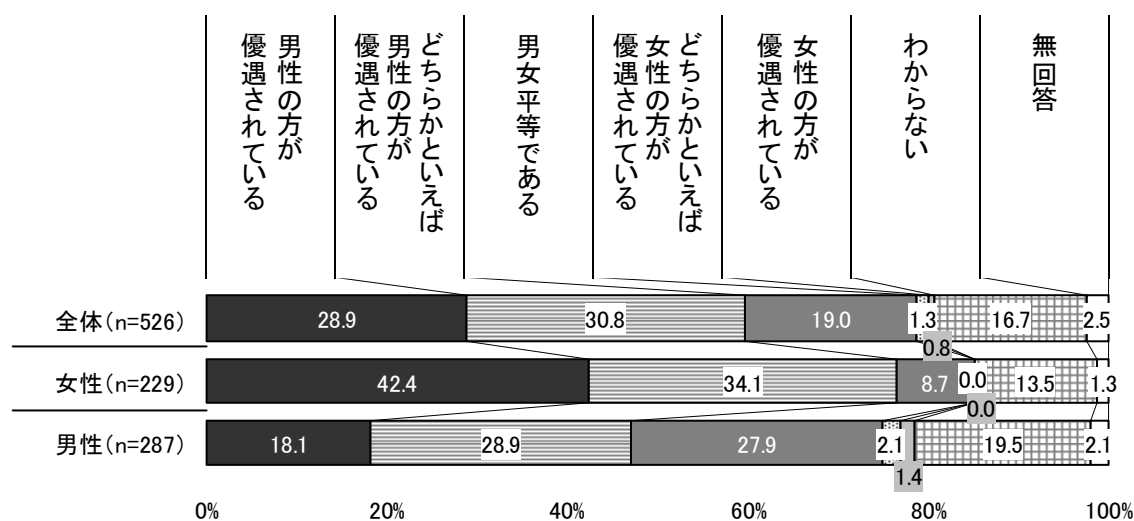
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっているものの、男性が女性よりもやや高くなっています。



## エ) 政治の場

政治の場における男女の地位についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が30.8%と最も高く、『男性優遇』が6割弱を占めています。

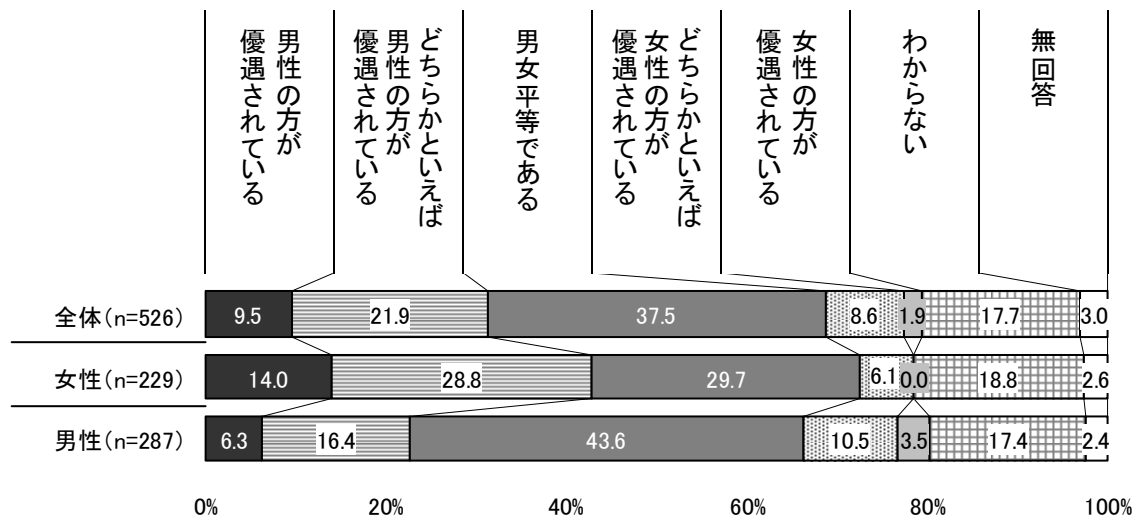
性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、『男性優遇』で女性が男性よりも約30ポイント高くなっており、女性の『男性優遇』感が強いことがうかがえます。



### オ) 法律や制度の上

法律や制度の上の男女の地位についてみると、全体では「男女平等である」が37.5%と最も高くなっています。

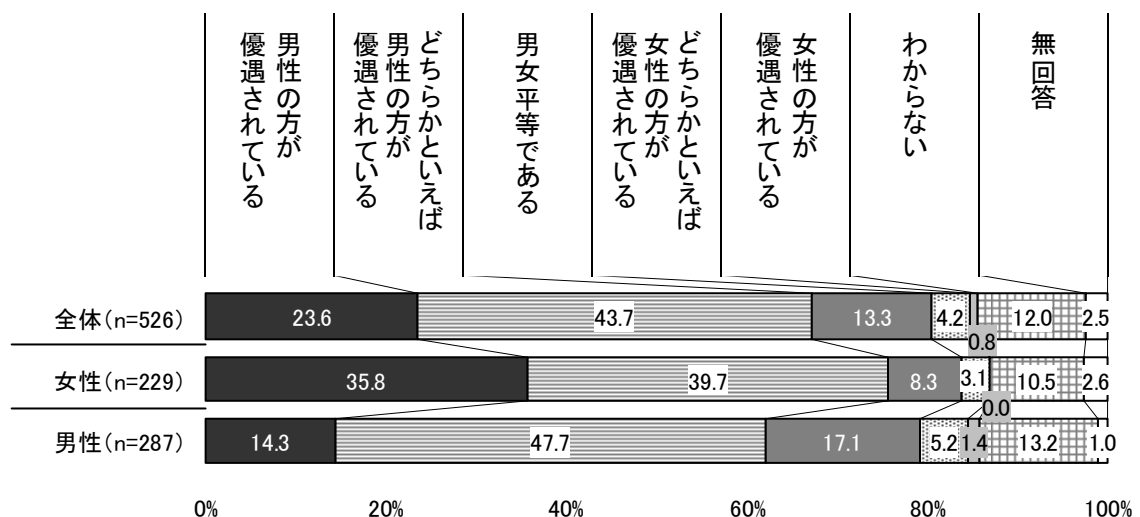
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも10ポイント以上高くなっています。また、『男性優遇』では女性が男性よりも約20ポイント高くなっており、男女で感じ方に違いがみられます。



### カ) 社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が43.7%と最も高く、『男性優遇』が7割弱を占めています。

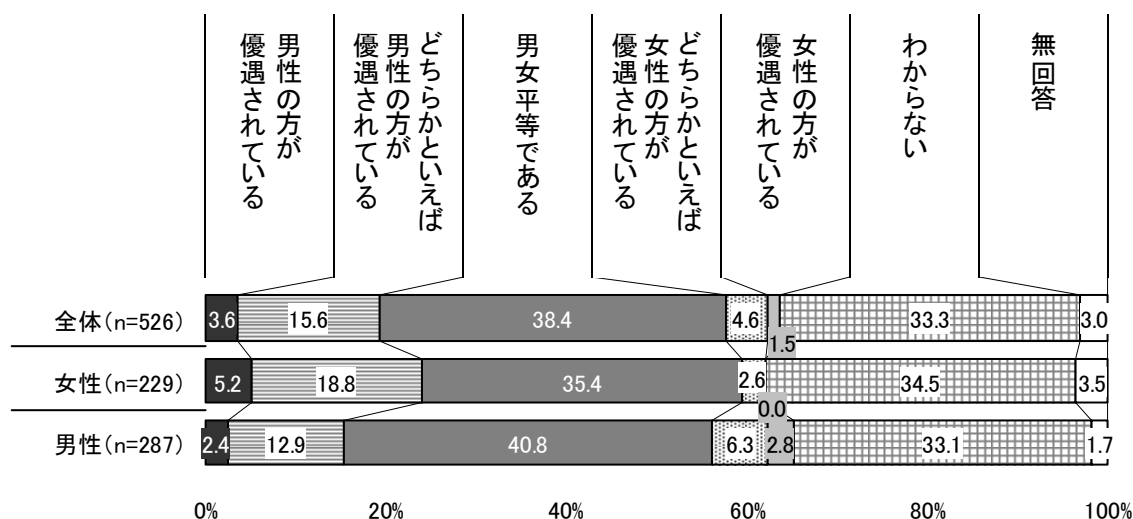
性別にみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、「男性の方が優遇されている」で女性が男性よりも約20ポイント高くなっており、男女で感じ方に違いがみられます。



### キ) 自治会やNPOなどの地域活動の場

自治会やNPOなどの地域活動の場における男女の地位についてみると、全体では「男女平等である」が38.4%と最も高く、次いで「わからない」が33.3%となっています。

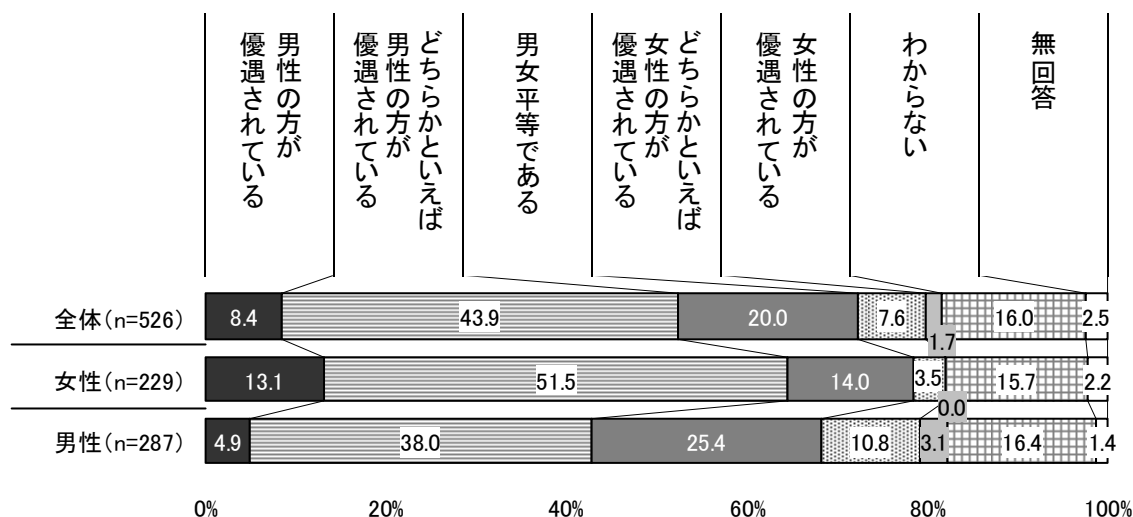
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも約5ポイント高くなっています。また、『男性優遇』で女性が男性よりも10ポイント弱高くなっています。



### ク) 社会全体として

社会全体としての男女の地位についてみると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が43.9%と最も高く、『男性優遇』が半数以上を占めています。

性別にみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも10ポイント以上高くなっています。また、『男性優遇』で女性が男性よりも約20ポイント、「男女平等である」で男性が女性よりも約10ポイント高くなっており、男女で感じ方に違いがみられます。

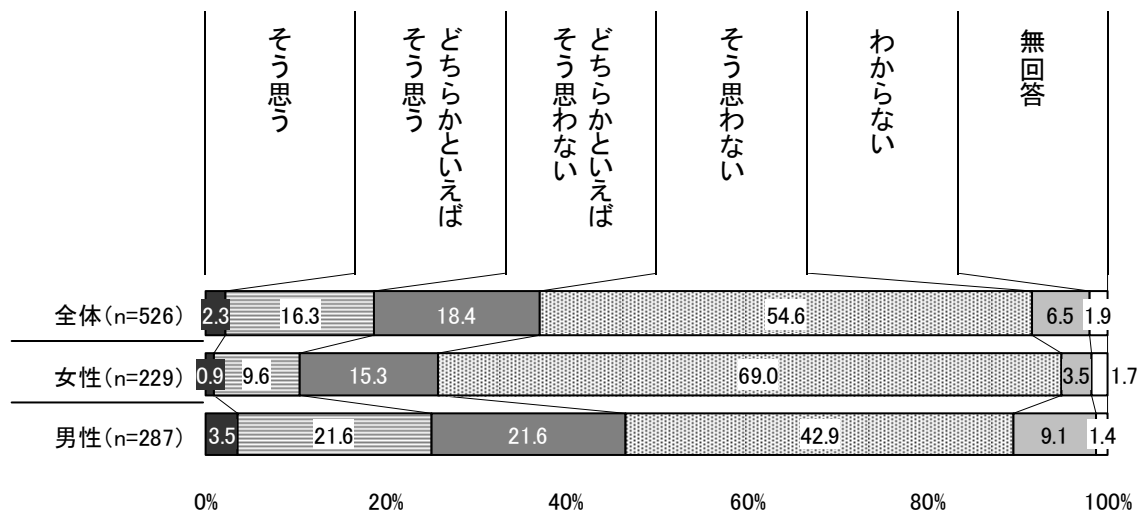


問9 あなたは次の意見についてどう思いますか。(各項目で○は1つ)

ア) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ

【男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ】という意見についてみると、全体では「そう思わない」が54.6%と最も高く、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『思わない』が7割以上を占めています。

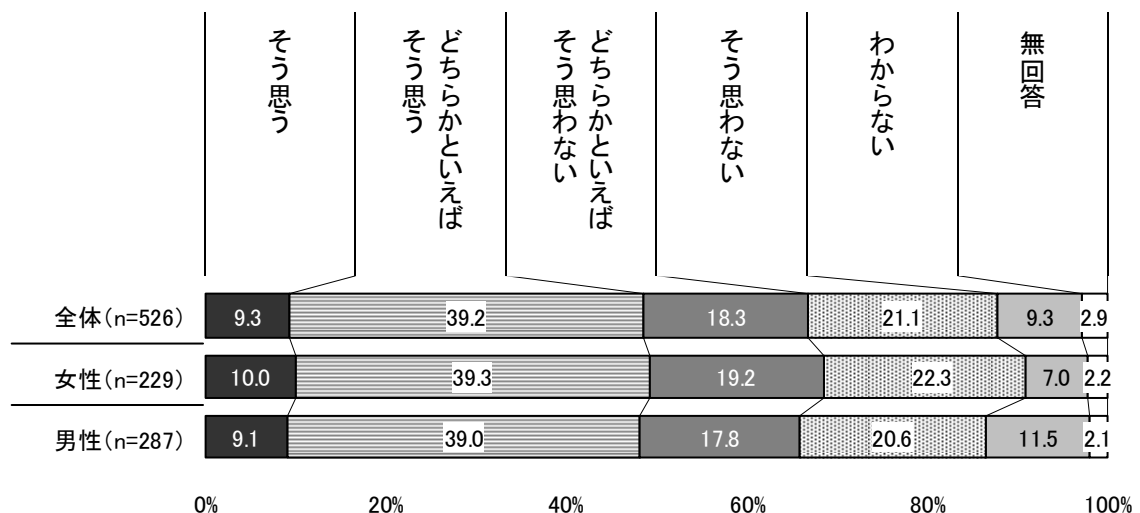
性別にみると、男女とも「そう思わない」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約25ポイント以上、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』で、男性が女性よりも約15ポイント高くなっており、男女で考え方に違いがみられます。



イ) 女性は働いていても、家事・育児のほうを大切にすべきだ

【女性は働いていても、家事・育児のほうを大切にすべきだ】という意見についてみると、全体では「どちらかといえばそう思う」が39.2%と最も高く、『思う』が5割弱を占めています。

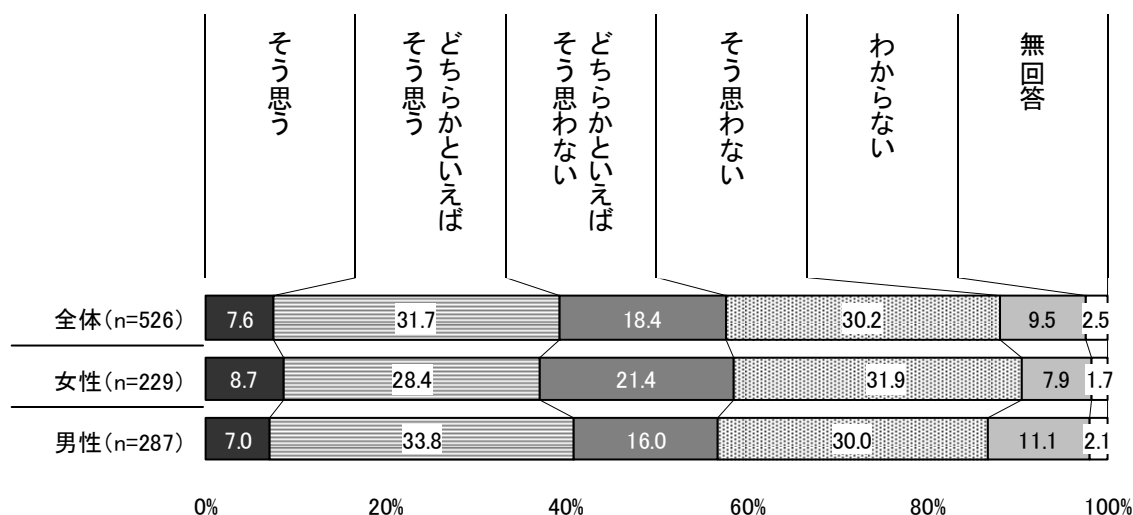
性別にみると、男女とも「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。



### ウ) 男性は女性をリードするべきだ

【男性は女性をリードするべきだ】という意見についてみると、全体では「どちらかといえばそう思う」が 31.7%と最も高くなっているものの、『思わない』が半数弱を占めています。

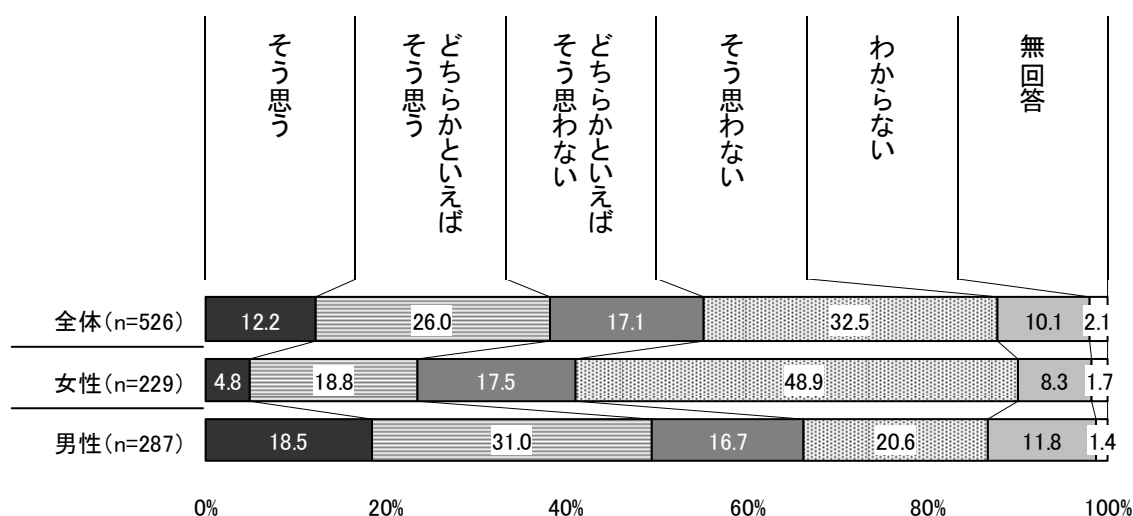
性別にみると、女性では「そう思わない」、男性では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。



### エ) 男の子は男らしく、女の子は女らしくあるべきだ

【男の子は男らしく、女の子は女らしくあるべきだ】という意見についてみると、全体では「思わない」が 32.5%と最も高く、『思わない』が約半数を占めています。

性別にみると、女性では「思わない」、男性では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。また、『思う』で男性が女性よりも約 25 ポイント、『思わない』で女性が男性よりも約 30 ポイント高くなっており、男女で考え方に違いがみられます。

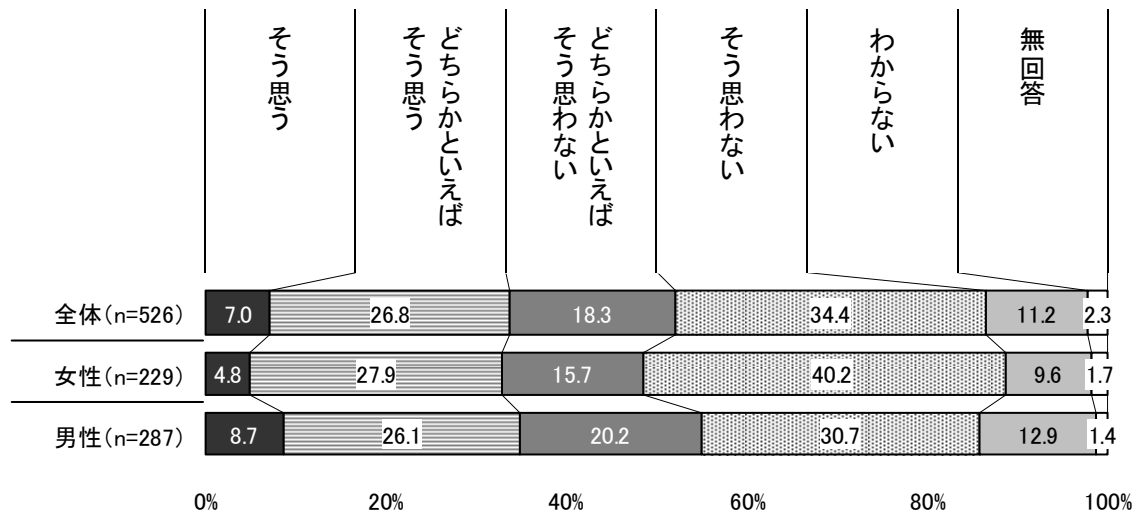




オ) 家庭のこまごまとした管理は、女性のほうが向いている

【家庭のこまごまとした管理は、女性のほうが向いている】という意見についてみると、全体では「そう思わない」が34.4%と最も高く、『思わない』が半数以上を占めています。

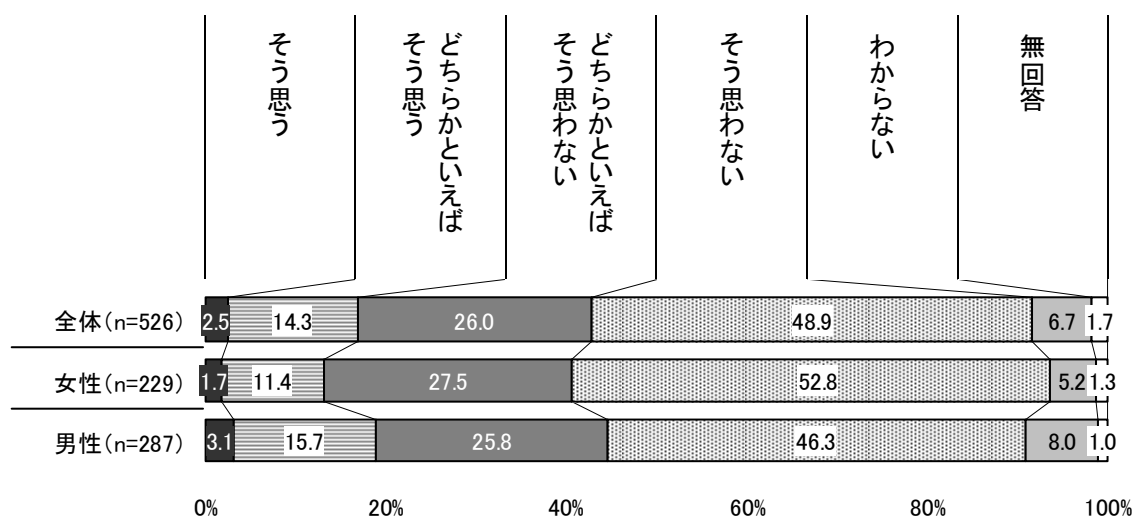
性別にみると、男女とも「そう思わない」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約10ポイント高くなっています。



カ) 体力において男性が勝る以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのはやむを得ない

【体力において男性が勝る以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのはやむを得ない】という意見についてみると、全体では「そう思わない」が48.9%と最も高く、『思わない』が7割半ばを占めています。

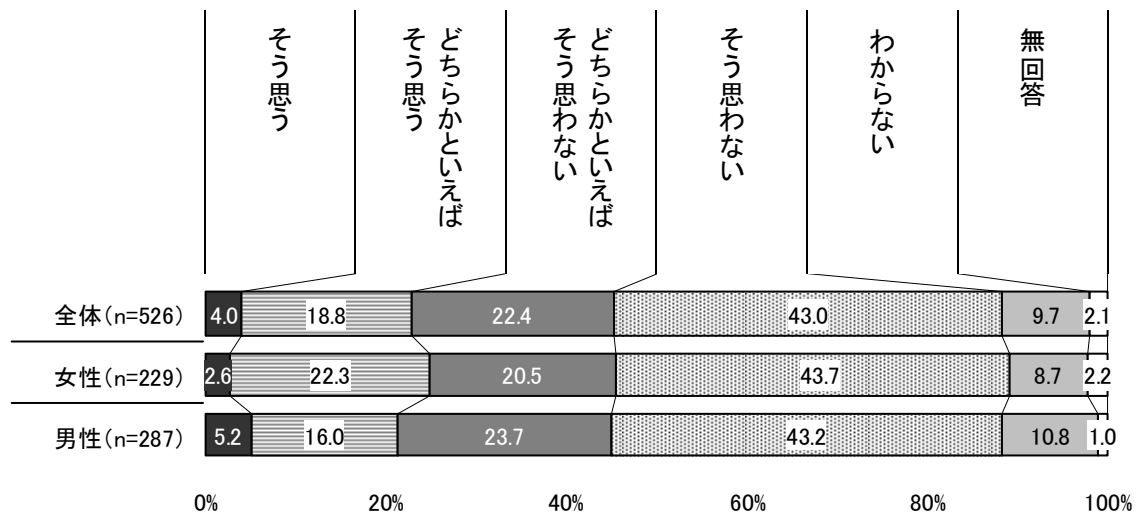
性別にみると、男女とも「そう思わない」が最も高くなっています。



キ) 最終的に頼りになるのは、やはり男性である

【最終的に頼りになるのは、やはり男性である】という意見についてみると、全体では「そう思わない」が43.0%と最も高く、『思わない』が6割半ばを占めています。

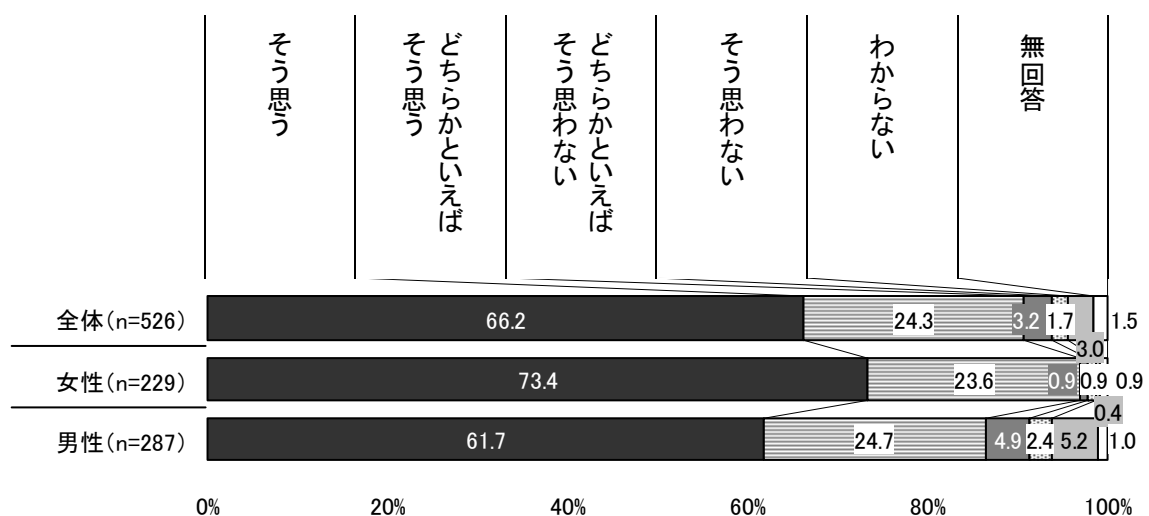
性別にみると、男女とも「そう思わない」が最も高くなっています。



ク) 人には向き不向きがあるのだから、男性か女性かによって生き方を決めつけてしまわない方がよい

【人には向き不向きがあるのだから、男性か女性かによって生き方を決めつけてしまわない方がよい】という意見についてみると、全体では「そう思う」が66.2%と最も高く、『思う』が約9割を占めています。

性別にみると、男女とも「そう思う」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約10ポイント高くなっています。



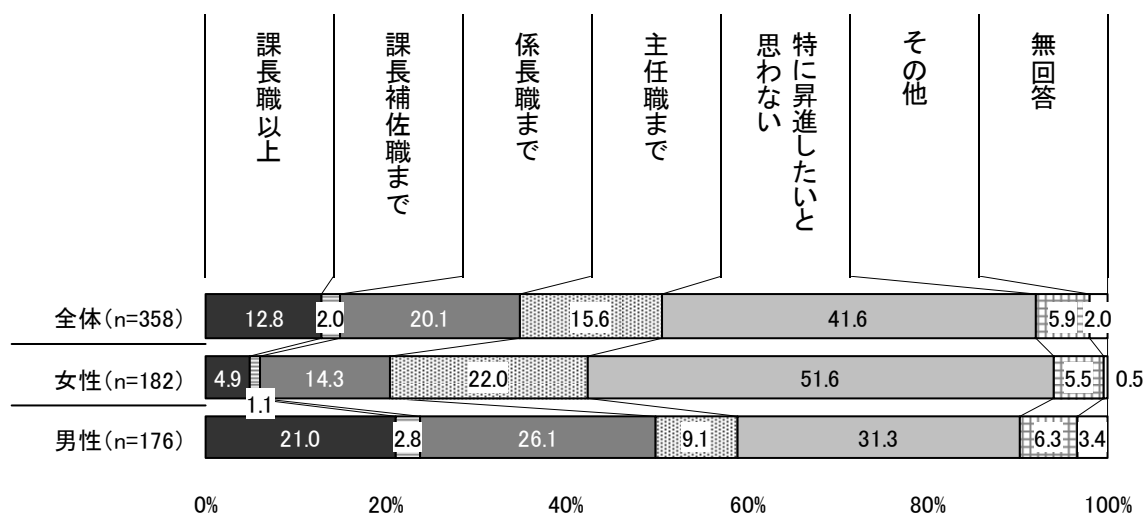
## 2. 仕事や職場に関することについて

### 係長職以下の方におうかがいします

問 10 あなたは、将来どのような役職にまでつきたいと思いますか。(〇は1つ)

昇進の意向についてみると、全体では「特に昇進したいと思わない」が41.6%と最も高く、次いで「係長職まで」が20.1%となっています。

性別にみると、男女とも「特に昇進したいと思わない」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約20ポイント高くなっています。

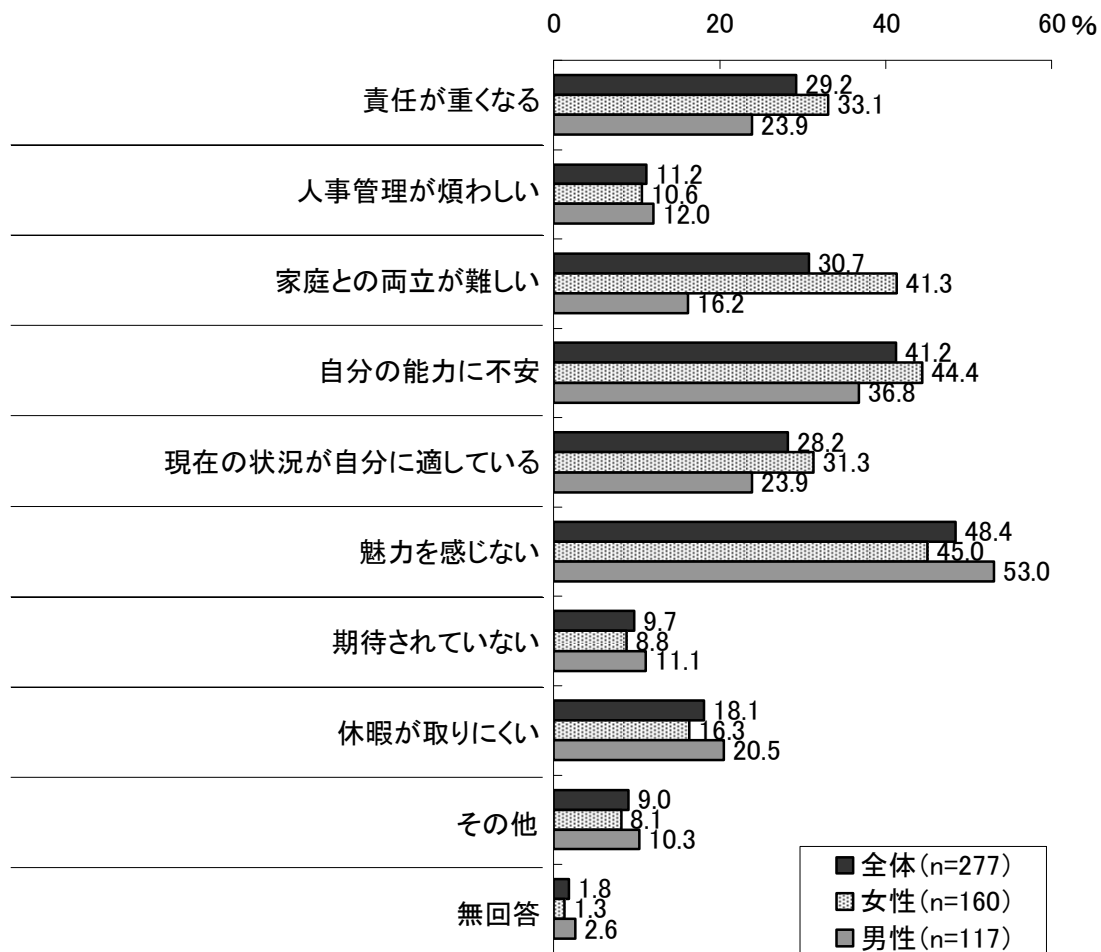


## 問 10 で「3」～「5」と回答した方

問 11 課長補佐職以上の職務を望まない理由はどんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

課長補佐職以上の職務を望まない理由についてみると、全体では「魅力を感じない」が48.4%と最も高く、次いで「自分の能力に不安」となっています。

性別にみると、男女とも「魅力を感じない」が最も高くなっています。また、「家庭との両立が難しい」では女性が男性よりも約25ポイント高くなっています。



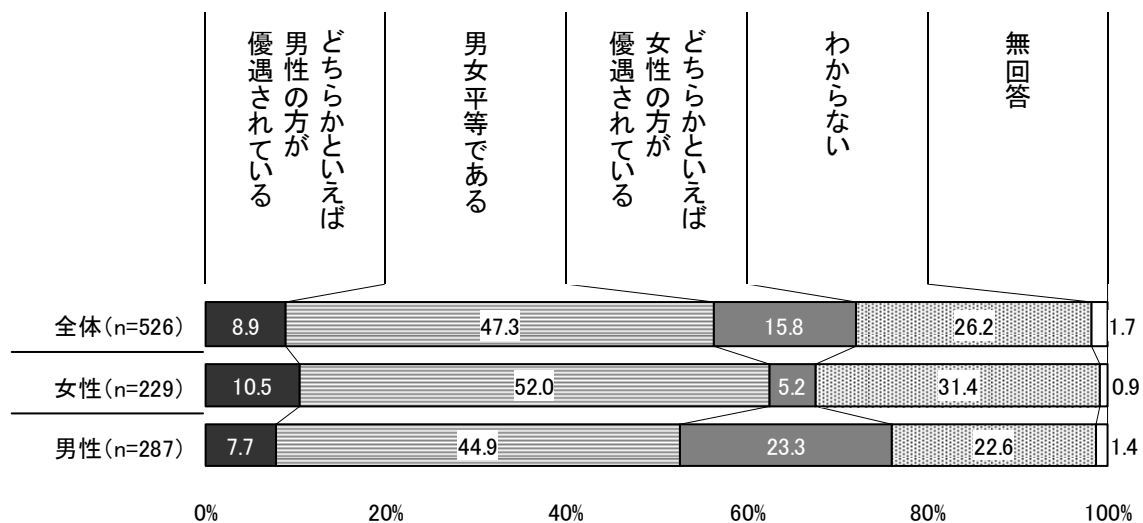
**以下、全員の方におうかがいします**

問 12 小金井市においては、現在、制度上の男女差はありませんが、実態はどう思いますか。  
 (各項目で○は1つ)

**ア) 仕事の内容・分担**

【仕事の内容・分担】の実態についてみると、全体では「男女平等である」が47.3%と最も高く、次いで「わからない」となっています。

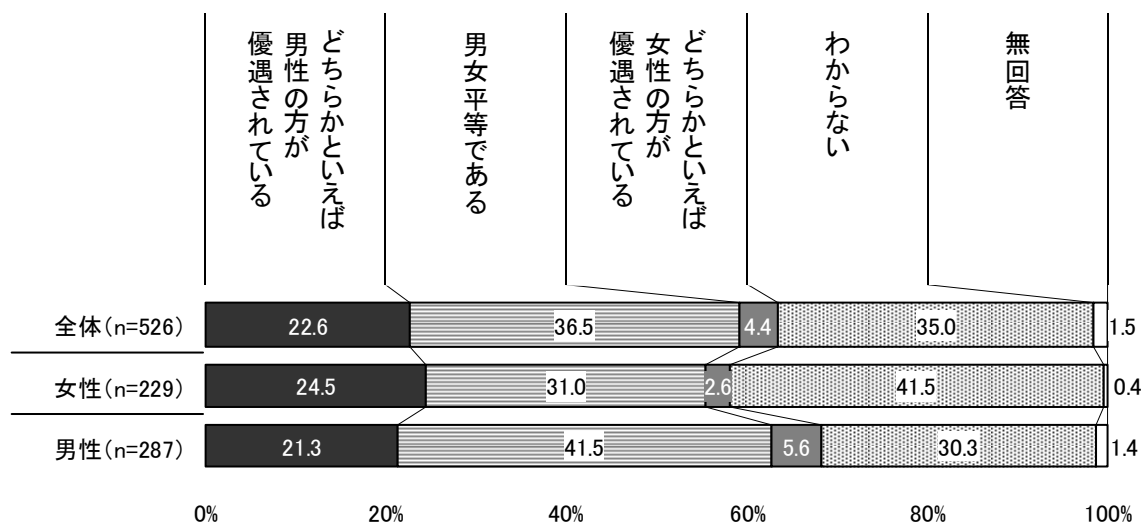
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっているものの、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」では男性が女性よりも15ポイント以上高くなっています。



**イ) 昇任・昇格の早さ**

【昇任・昇格の早さ】の実態についてみると、全体では「男女平等である」が36.5%と最も高く、次いで「わからない」となっています。

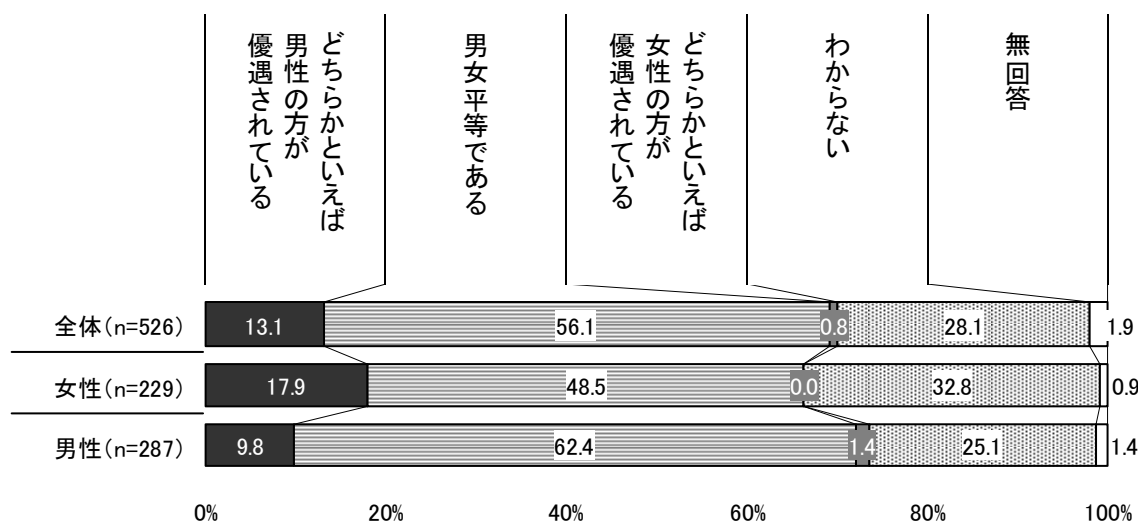
性別にみると、女性では「わからない」、男性では「男女平等である」が最も高くなっています。



## ウ) 能力発揮の機会

【能力発揮の機会】の実態についてみると、全体では「男女平等である」が56.1%と最も高く、次いで「わからない」となっています。

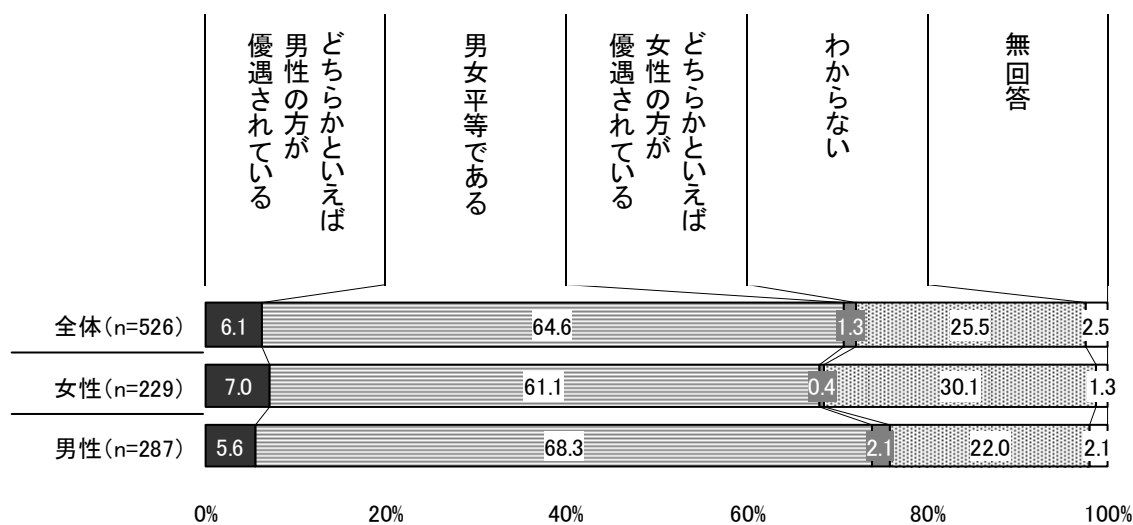
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも10ポイント以上高くなっています。また、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」では女性が男性よりも10ポイント弱高くなっています。



## エ) 職場の情報伝達

【職場の情報伝達】の実態についてみると、全体では「男女平等である」が64.6%と最も高く、次いで「わからない」となっています。

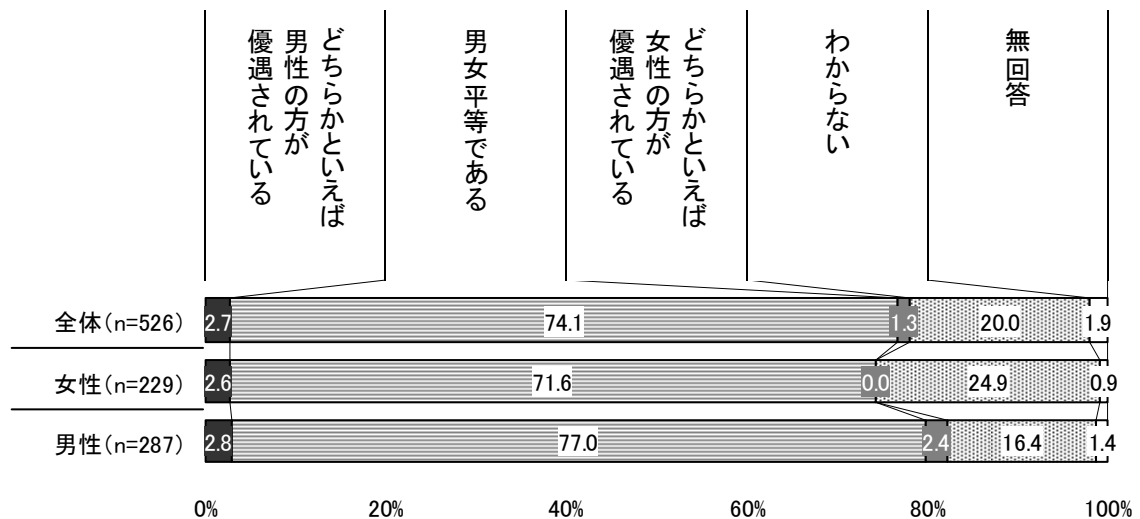
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっています。



## オ) 研修・勉強の機会

【研修・勉強の機会】の実態についてみると、全体では「男女平等である」が74.1%と最も高くなっています。

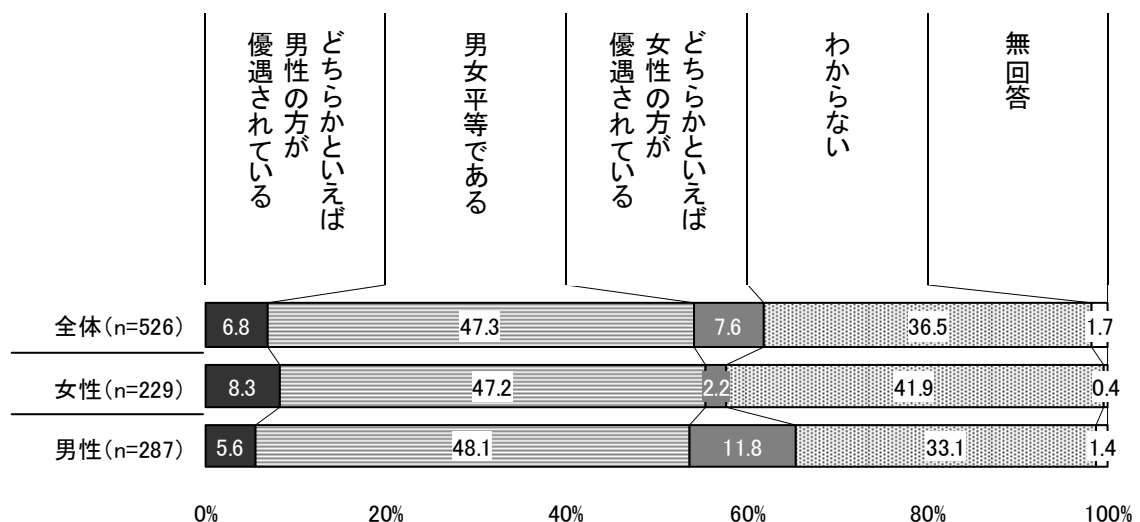
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



## カ) 人事異動

【人事異動】の実態についてみると、全体では「男女平等である」が47.3%と最も高く、次いで「わからない」となっています。

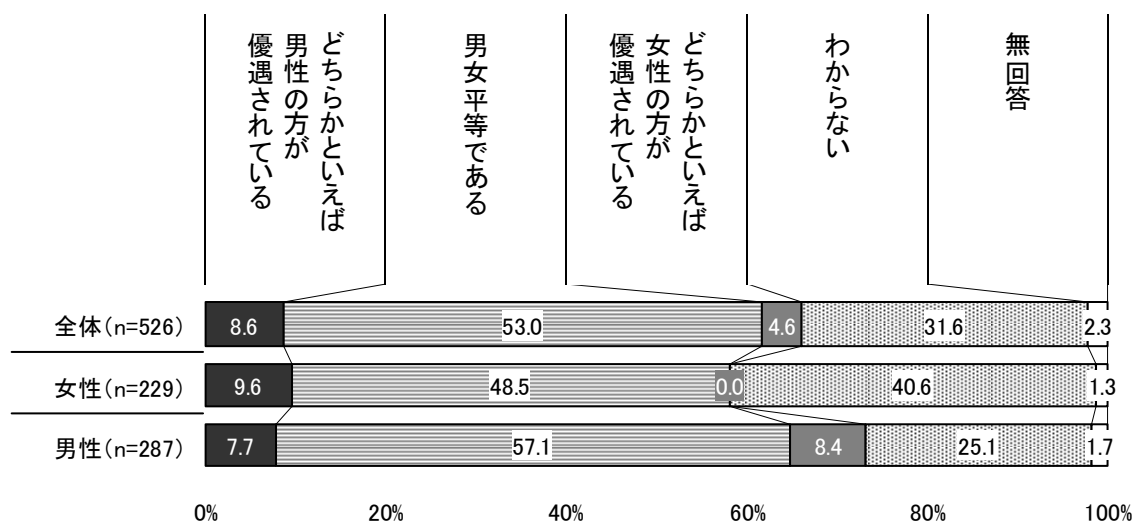
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっているものの、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」では男性が女性よりも10ポイント弱高くなっています。



キ) 全体的に

全体的な実態についてみると、全体では「男女平等である」が53.0%と最も高く、次いで「わからない」となっています。

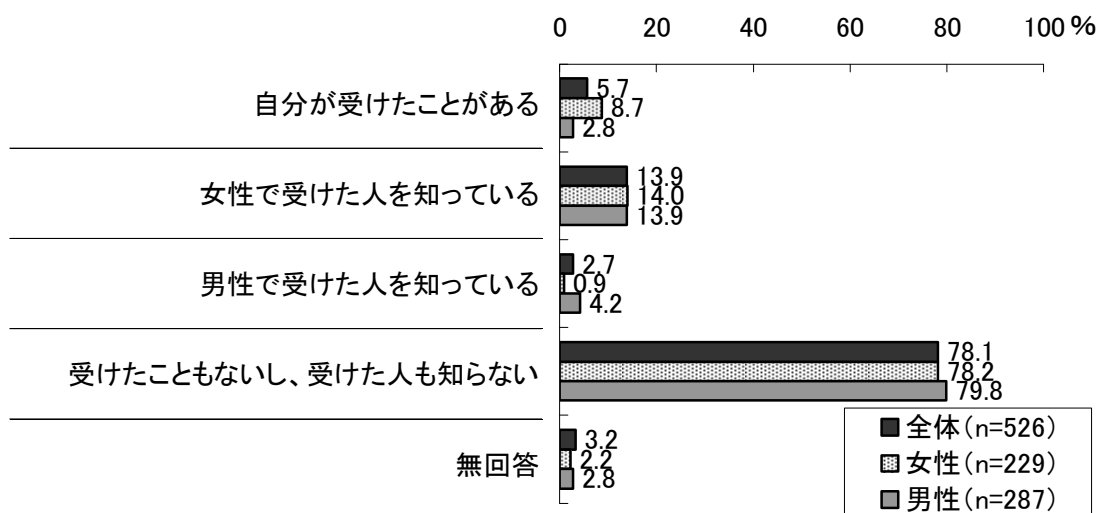
性別にみると、男女とも「男女平等である」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも10ポイント弱高くなっています。また、「わからない」では女性が男性よりも約15ポイント高くなっています。



問 13 「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」とは、一般的に職場の上司や同僚などによる身体への不必要な接触や性的関係の強要や性的な冗談・からかい、食事・デートに執拗に誘い相手を不愉快にさせることなどをいいます。あなたはこの1年間に職場でセクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。または、受けた人を知っていますか。（あてはまるものすべてに○）

セクシュアル・ハラスメントの経験についてみると、全体では「受けたこともないし、受けた人も知らない」が78.1%と最も高くなっています。

性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



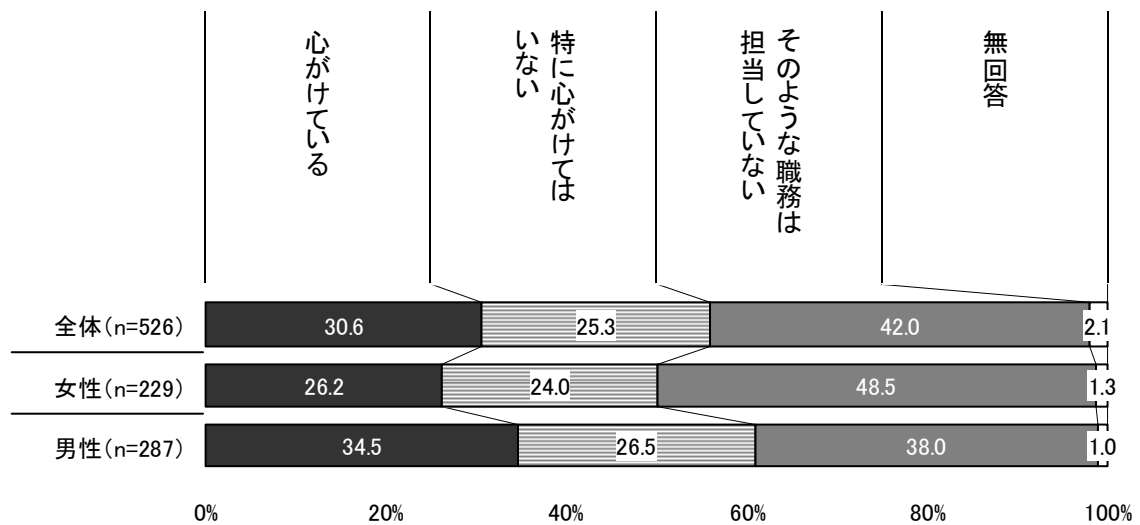


問 14 あなたはふだん、次のようなことを心がけていますか。(各項目で○は1つ)

ア) 事業（施策）の企画・立案や実施において、男女平等の視点を持つ

【事業（施策）の企画・立案や実施において、男女平等の視点を持つ】ことを心がけているかについてみると、全体では「そのような職務は担当していない」が 42.0%と最も高く、次いで「心がけている」となっています。

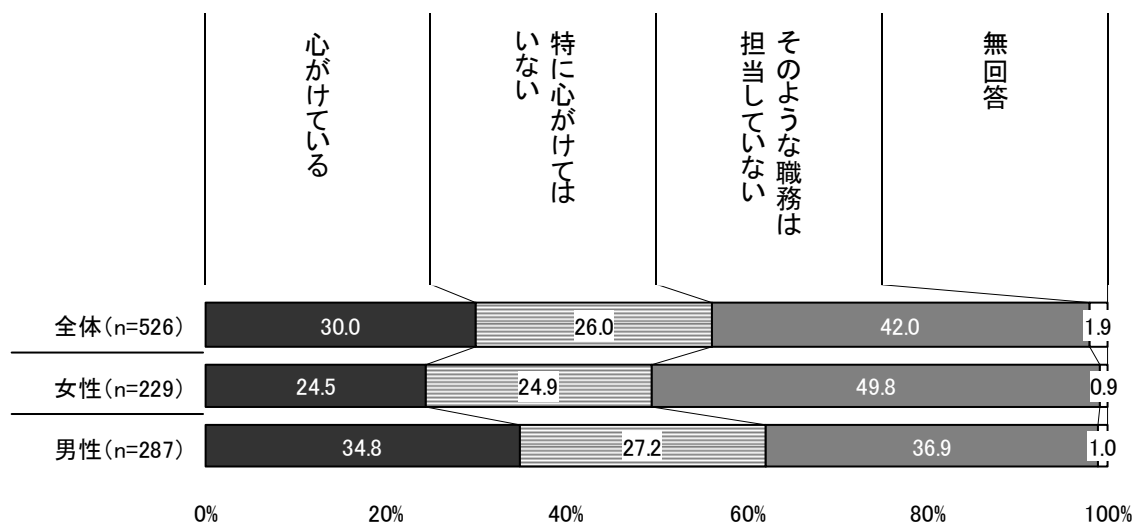
性別にみると、男女とも「そのような職務は担当していない」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約 10 ポイント高くなっています。



イ) 広報等において、男女平等の視点を持つ

【広報等において、男女平等の視点を持つ】ことを心がけているかについてみると、全体では「そのような職務は担当していない」が 42.0%と最も高く、次いで「心がけている」となっています。

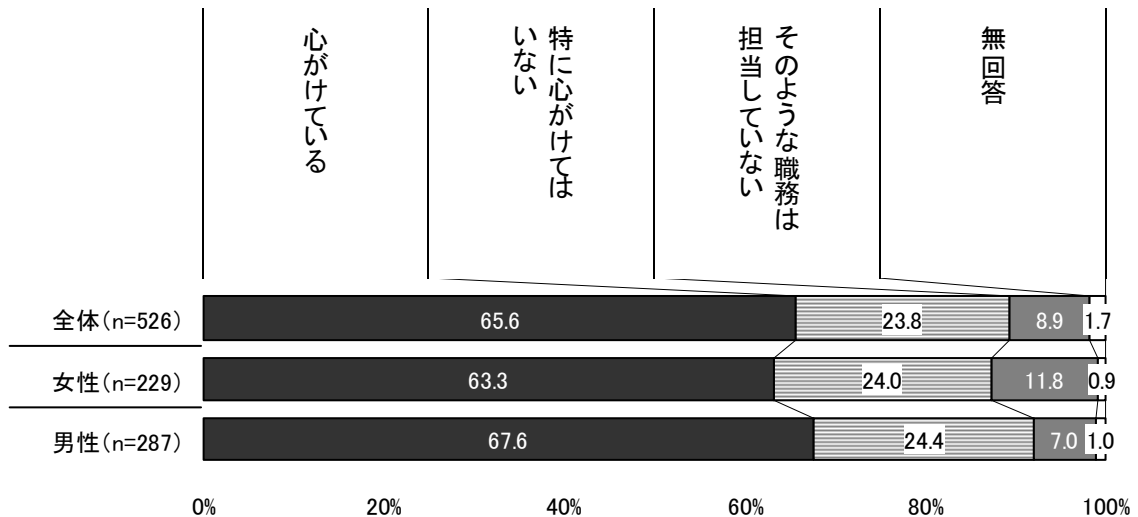
性別にみると、男女とも「そのような職務は担当していない」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも 10 ポイント以上高くなっています。



ウ) 市民との接遇において、男女によって対応に差をつけない

【市民との接遇において、男女によって対応に差をつけない】ことを心がけているかについてみると、全体では「心がけている」が65.6%と最も高くなっています。

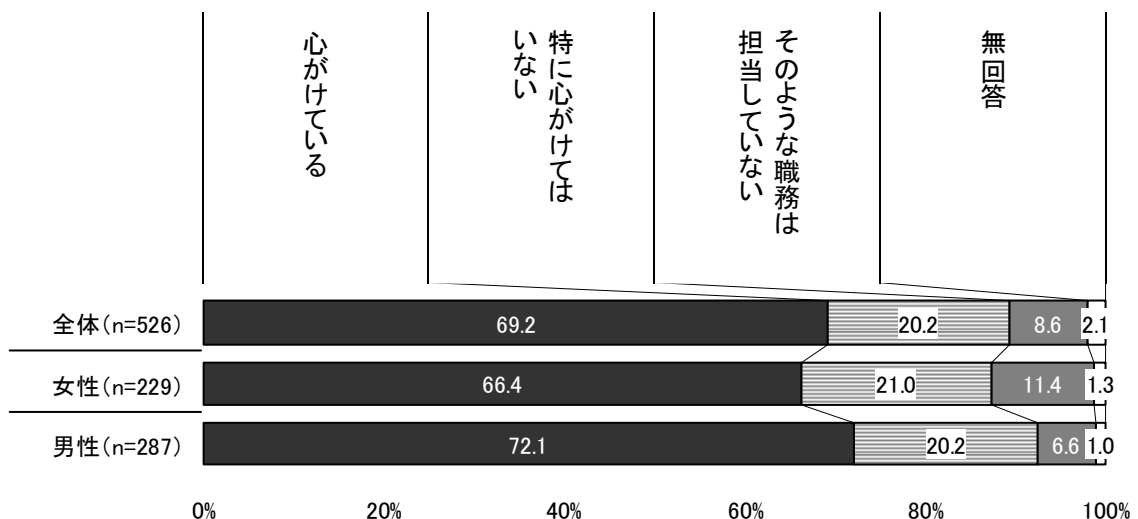
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



エ) 市民との接遇において、性差別的な用語に気をつける

【市民との接遇において、性差別的な用語に気をつける】ことを心がけているかについてみると、全体では「心がけている」が69.2%と最も高くなっています。

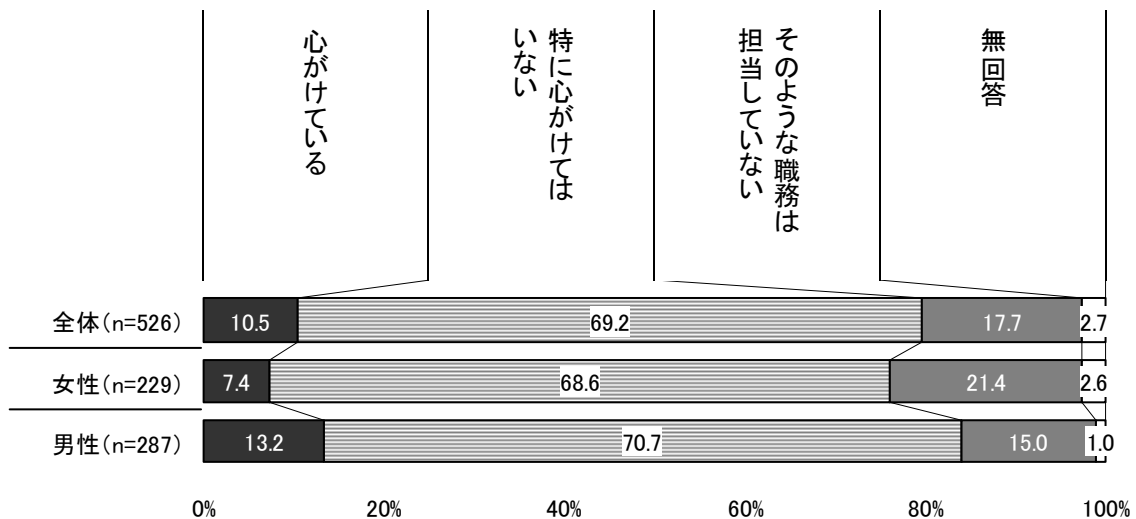
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



オ) 日ごろから、男女平等に関する学習や研修に参加している

【日ごろから、男女平等に関する学習や研修に参加している】ことを心がけているかについてみると、全体では「特に心がけてはいない」が69.2%と最も高くなっています。

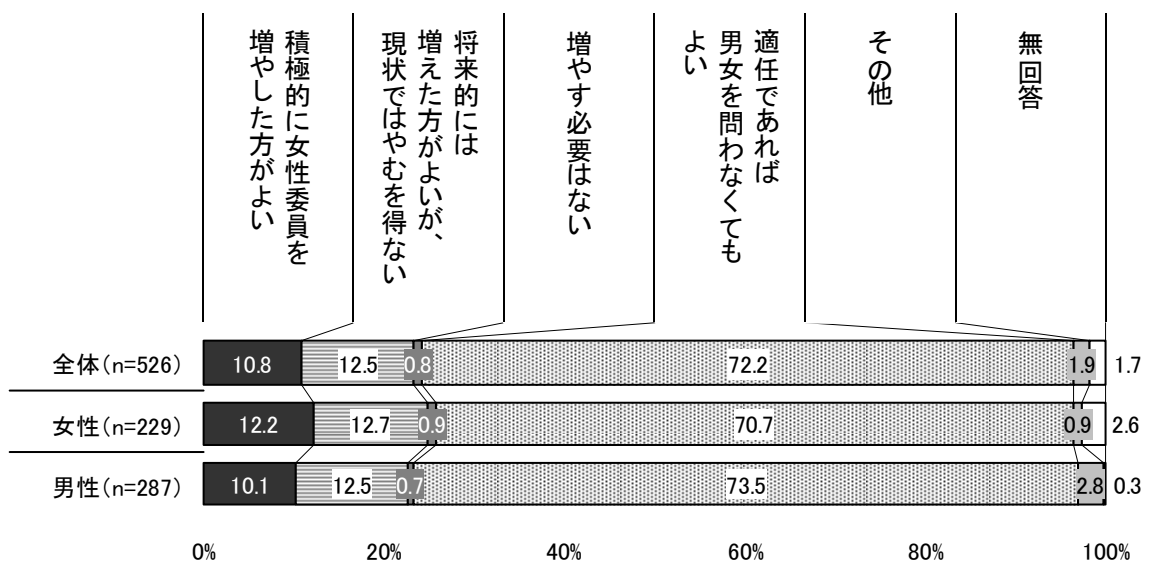
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



問 15 小金井市の設置する審議会や附属機関および行政委員会の委員数全体に占める女性委員の割合は32.5%（平成23年4月現在）です。このことについて、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

小金井市の女性委員の割合をどう思うかについてみると、全体では「適任であれば男女を問わなくてもよい」が72.2%と最も高く、次いで「将来的には増えた方がよいが、現状ではやむを得ない」となっています。

性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



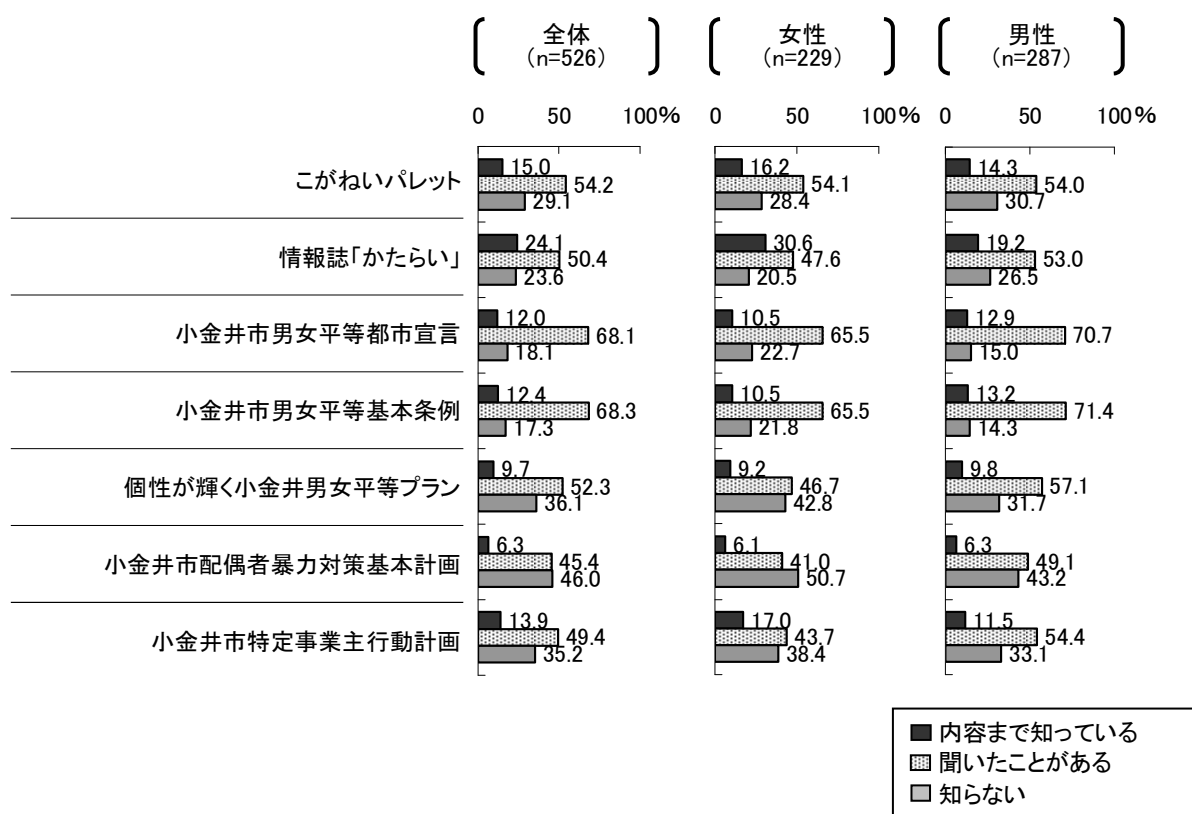
### 3. 男女平等をさらに進めるための方策などについて

問 16 あなたは、次の「ことがら」や「ことば」を知っていますか。(各項目で○は1つ)

#### ■小金井市のこれまでの施策・取り組み

小金井市のこれまでの施策・取り組みに関わることがらやことばの認知度についてみると、全体で“知っている”は「情報誌『かたらい』」が最も高く、次いで「こがねいパレット」となっています。“知らない”は「小金井市配偶者暴力対策基本計画」が4割半ば、「個性が輝く小金井市男女平等プラン」や「小金井市特定事業主行動計画」が3割半ばとなっています。

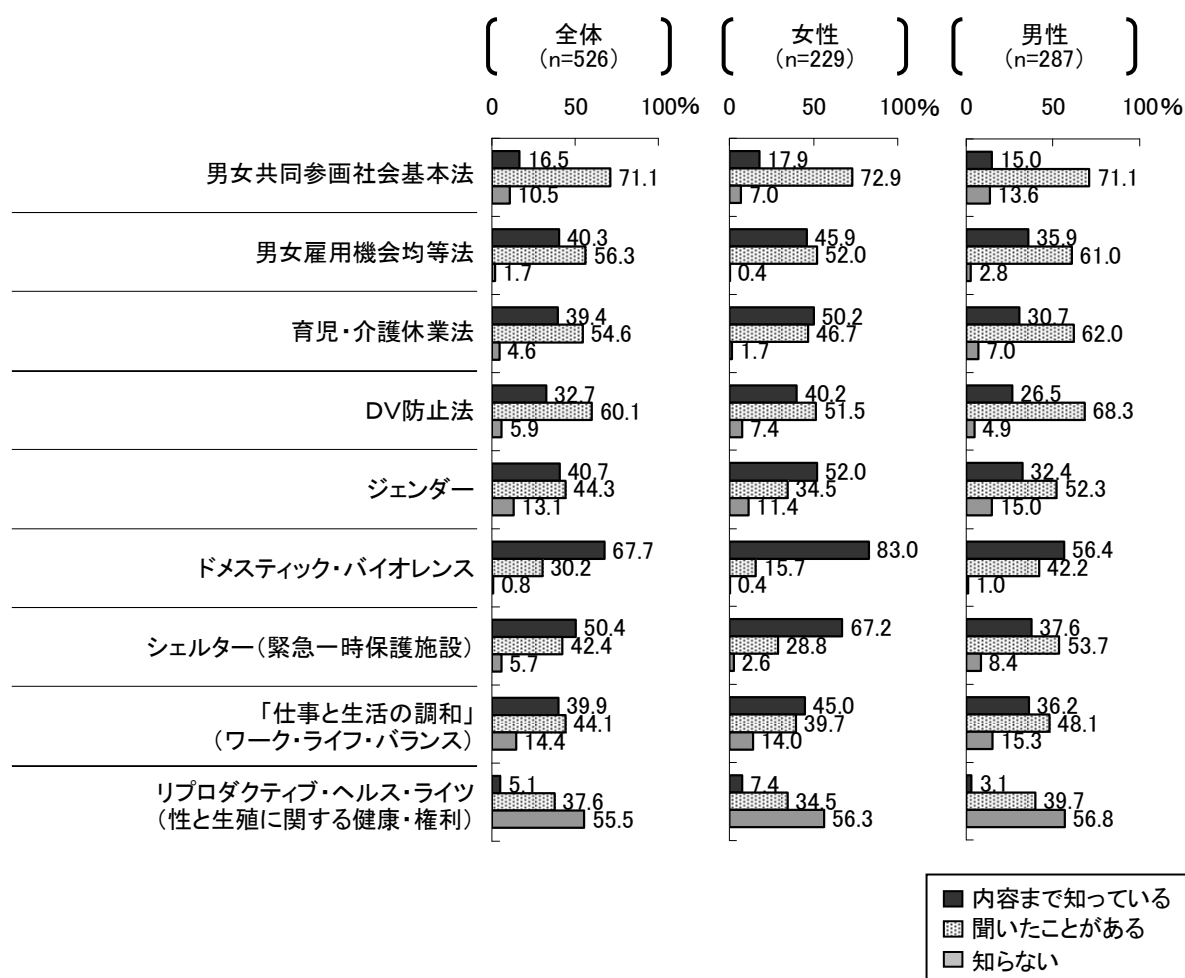
性別にみると、男女とも“知っている”は「情報誌『かたらい』」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも10ポイント以上高くなっています。また、“知らない”は「こがねいパレット」と「情報誌『かたらい』」を除くすべての項目で、女性が男性よりも高くなっています。



## ■男女共同参画に関わることば

男女共同参画に関わることばの認知度についてみると、全体で“知っている”は「ドメスティック・バイオレンス」が67.7%と最も高く、次いで「シェルター（緊急一時保護施設）」となっています。“知らない”は「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康・権利）」が55.5%と最も高くなっています。

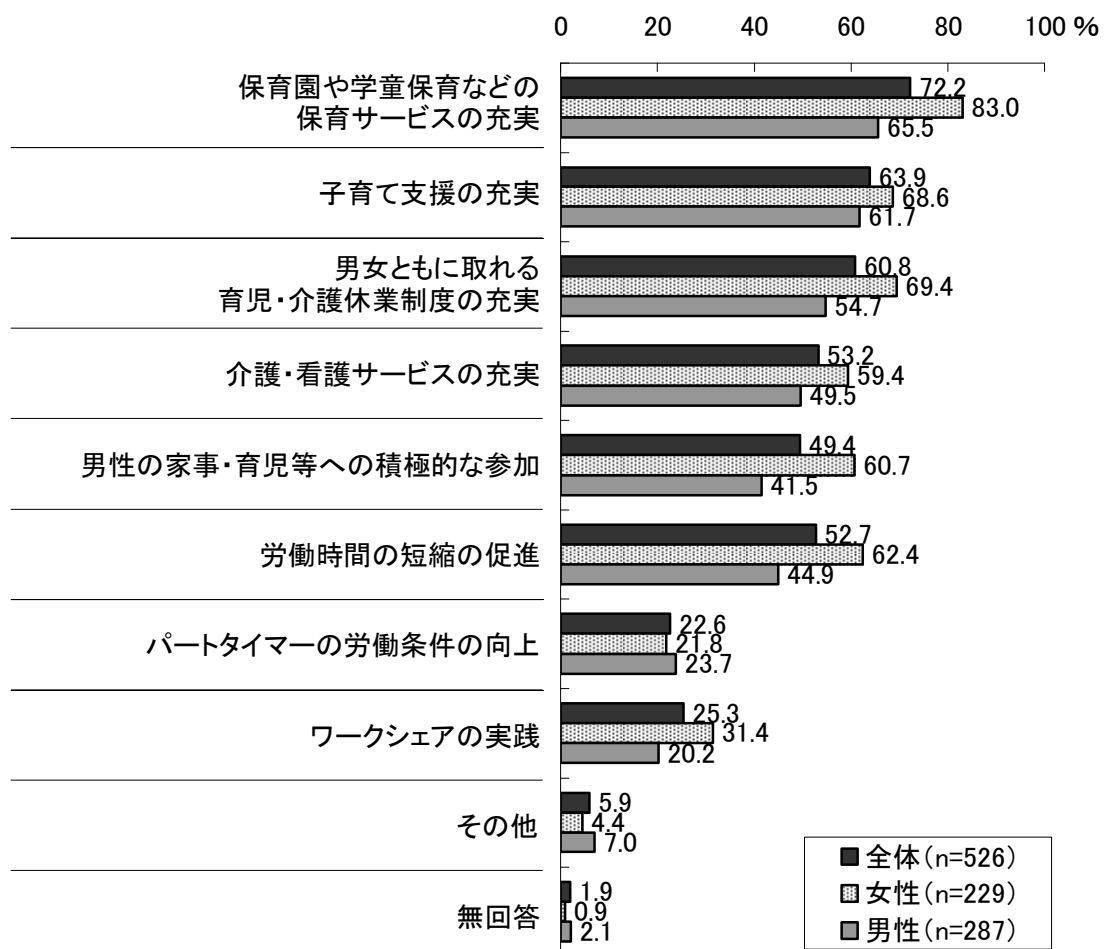
性別にみると、男女とも“知っている”は「ドメスティック・バイオレンス」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも25ポイント以上高くなっています。また、すべての項目で女性が男性よりも高くなっています。



問 17 家庭生活と仕事の両立を図るために、特に重要なことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

家庭生活と仕事の両立を図るために、特に重要なことについてみると、全体では「保育園や学童保育などの保育サービスの充実」が72.2%と最も高く、次いで「子育て支援の充実」となっています。

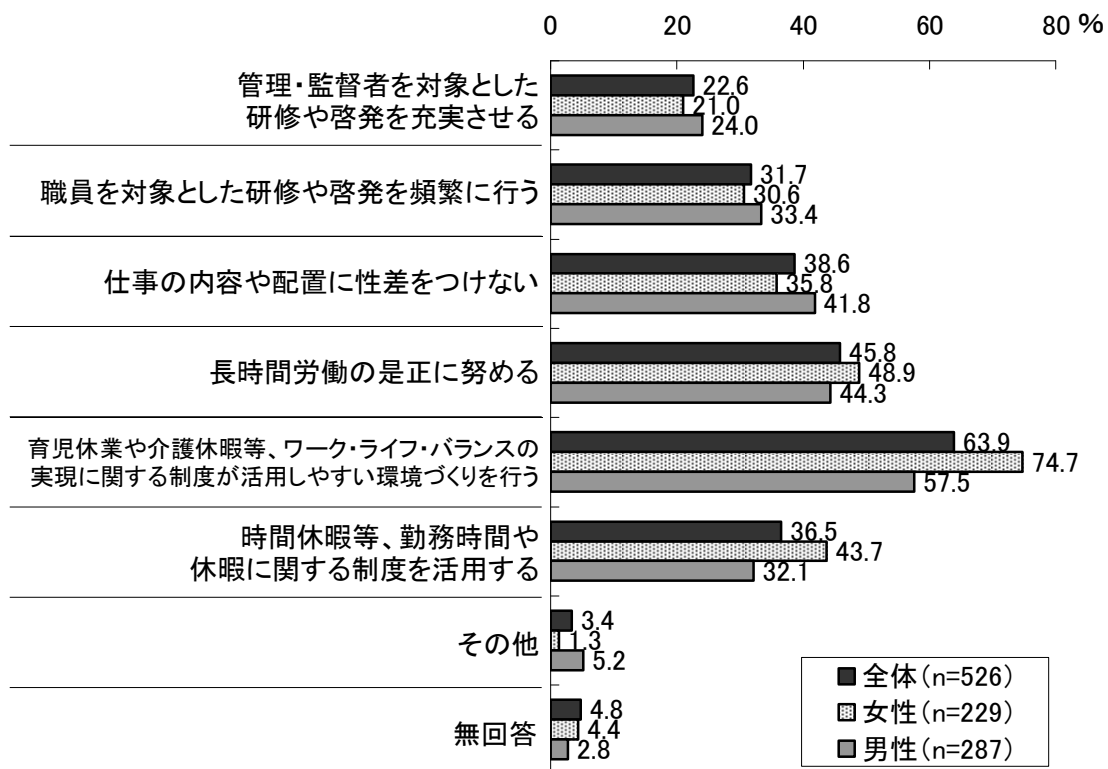
性別にみると、男女とも「保育園や学童保育などの保育サービスの充実」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも15ポイント以上高くなっています。また、「男性の家事・育児等への積極的な参加」では女性が男性よりも約20ポイント、「男女ともに取れる育児・介護休業制度の充実」や「労働時間の短縮の促進」では15ポイント前後高くなっています。



問 18 男女共同参画社会の充実をめざすためには、職員自身が一層男女平等について認識を深め、市の職場が社会のモデルとなっていくことが必要です。そのためには、市の職場において、何が重要とされますか。(あてはまるものすべてに○)

男女共同参画社会の充実をめざすため、市の職場において必要なものについてみると、全体では「育児休業や介護休暇等、ワーク・ライフ・バランスの実現に関する制度が活用しやすい環境づくりを行う」が63.9%と最も高く、次いで「長時間労働の是正に努める」となっています。

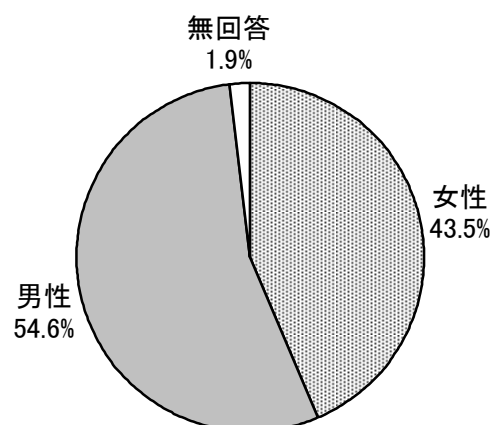
性別にみると、男女とも「育児休業や介護休暇等、ワーク・ライフ・バランスの実現に関する制度が活用しやすい環境づくりを行う」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも15ポイント以上高くなっています。また、「時間休暇等、勤務時間や休暇に関する制度を活用する」では女性が男性よりも約10ポイント高くなっています。



## 4. あなた自身のことについて

### F 1 あなたの性別は。(○は1つ)

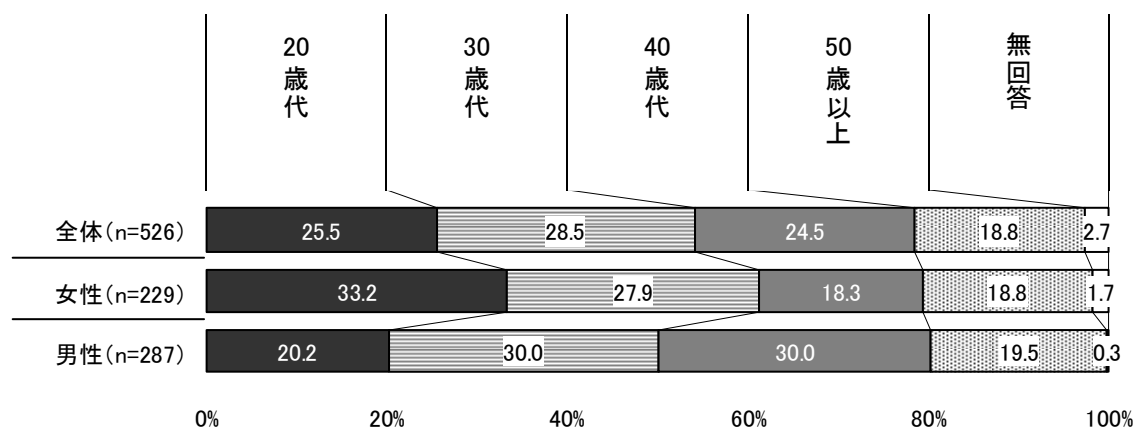
性別についてみると、「女性」が 43.5%、「男性」が 54.6%となっており、「男性」が「女性」よりもやや多くなっています。



### F 2 あなたの年齢は。(○は1つ)

年齢についてみると、全体では「30 歳代」が 28.5%と最も高く、次いで「20 歳代」となっています。また、30 歳代以下が半数以上を占めています。

性別にみると、女性では「20 歳代」、男性では「30 歳代」と「40 歳代」が最も高くなっています。また、「20 歳代」では女性が男性よりも 10 ポイント以上、「40 歳代」では男性が女性よりも 10 ポイント以上高くなっています。

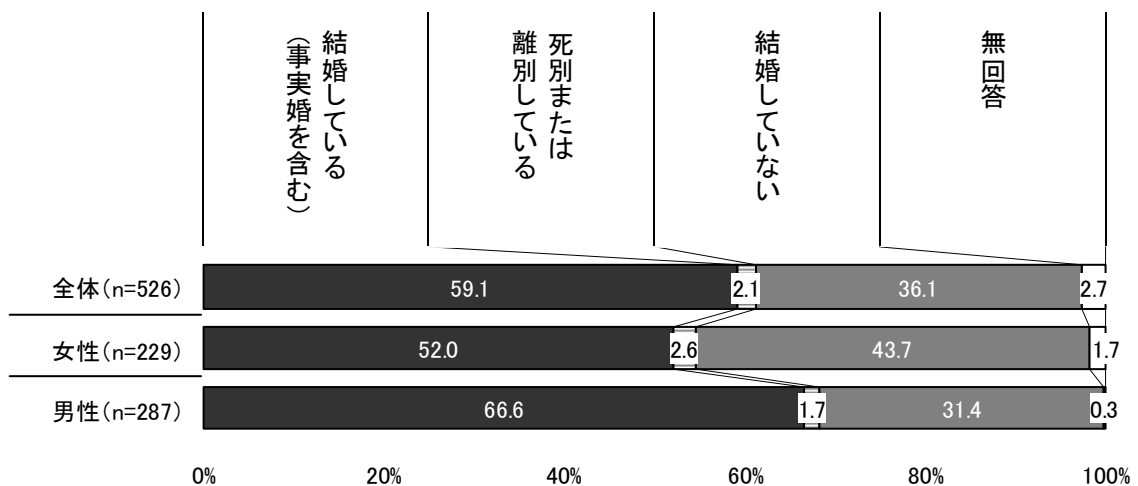




### F 3 あなたは結婚していますか。(〇は1つ)

婚姻の状況についてみると、全体では「結婚している（事実婚を含む）」が 59.1%と最も高く、次いで「結婚していない」となっています。

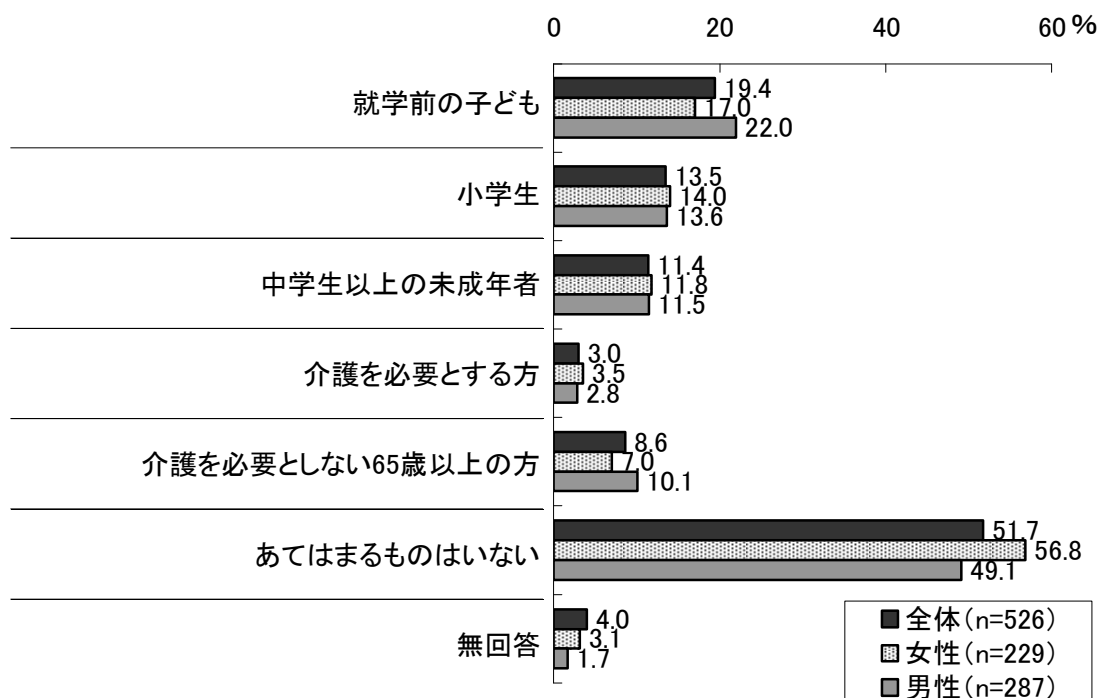
性別にみると、男女とも「結婚している（事実婚を含む）」が最も高くなっているものの、男性が女性よりも約 15 ポイント高くなっており、「結婚していない」では女性が男性よりも 10 ポイント以上高くなっています。



### F 4 あなたは、次の方と同居していますか。(あてはまるものすべてに〇)

同居者についてみると、全体では「あてはまるものはいない」が 51.7%と最も高く、次いで「就学前の子ども」となっています。

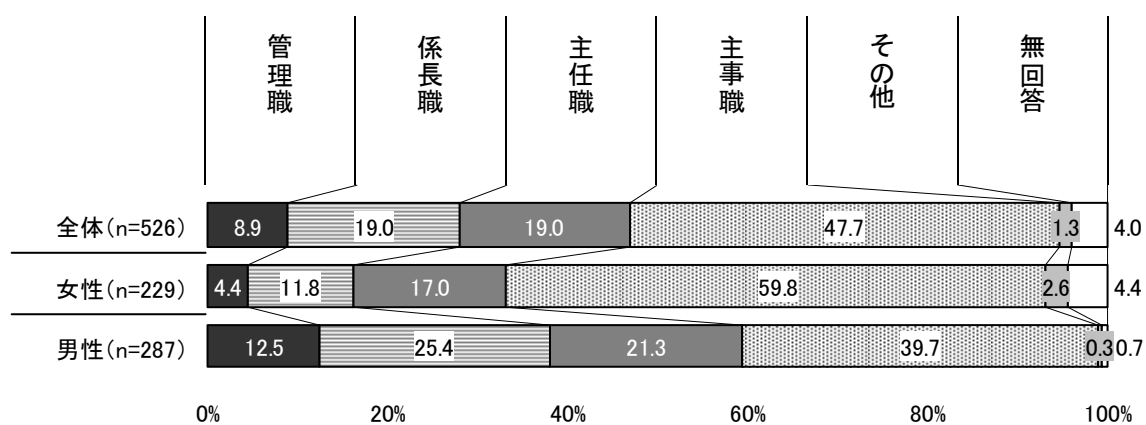
性別にみると、全体の傾向とほぼ同様となっています。



## F5 あなたの職層は。(〇は1つ)

職層についてみると、全体では「主事職」が47.7%と最も高く、次いで「係長職」と「主任職」となっています。

性別にみると、男女とも「主事職」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも約20ポイント高くなっています。また、主任職以上の役職に就いている割合では、男性が女性よりも約25ポイント高くなっています。



## ■職員意識調査・自由意見（回答 44 人）

### <女性>

内容
男女平等を誰もが念頭において、のびのびと仕事ができるような環境が望ましい。（20代）
男女に限定せず、個人の特性にあった仕事や家事を行う。（30代）
ワーク・ライフ・バランスに力を入れ、仕事を定時までには終わらせることを意識するべき。（20代、30代）
家事・育児・介護と仕事を両立するためには、男女ともに育休・介護休暇や休暇制度等を取得しやすい職場環境をつくっていく必要があると思う。（20代、30代、40代）
育児時間や育児部分休業を取りやすくしてほしい。（20代、30代）
市役所だけ変わっても、社会全体が変わらないなら難しい。ワーク・シェアリングや、女性が声をあげることで、少しずつ変容していると思う。（40代）
家庭の状況は個々で違うが、どうしても女性が家事にかかわる時間は多くなってしまう。仕事を続けるには本人の現状、異動の際や制度の利用への理解が必要だ。（40代）
不妊治療への配慮がほしい。（30代）
世の中の流れは、様々なライフスタイル、家庭スタイルがあることを認識するべき。（40代）
男性の長時間労働を短縮することを国が真剣に考えるべき。（50代）
男性保育士もいた方がよい。（20代）

### <男性>

内容
育児休暇や介護休暇を取得して当たり前という社会をつくるべき。（20代）
産休や育休を取得している職員の課に対し、他の職員の負担が生じないよう対応してほしい。（20代）
ワークライフバランスは必要不可欠だ。（30代、40代）
あらゆる場面で性別を問わず、個人としての能力を發揮することができるような社会を目指すために、皆がさらなる意識向上に努めることが必要と思う。（40代）
男女は生物学的に違うが、お互いの立場等でお互いが補い合う社会を目指すべき。（20代2人、30代、40代2人）
画一的な「男女平等」を研修等で押し付けることが男女や個々の適性に合わせた職務配置や家事・介護・育児の分担を妨げていると思う。（20代）
女性差別を撤廃すると同時に、逆差別についても意識すべきだと思う。（20代）
女性の権利擁護拡大ばかりでなく、男女の特徴を踏まえた本質的な男女平等を望む。（40代）
男女平等というより、頑張っているすべての人に平等であれと思う。（20代、40代）
理念としての男女平等には賛同するが、「男女平等至上主義」には留意すべき。（40代2人）
自分自身では男女の差をつけていないつもりでも、受ける側の気持ちはどうかはわからない。受ける側の気持ちを理解する必要がある。（50代）

内容
男性が女性を抑制的に扱ったり、女性に不利を押しつけることはあってはならないが、女性に高下駄を履かせることが男女平等とは限らないし、望まない昇任もあるのだから、男性管理職が多いイコール、男性優遇と見るのは早計だ。男女平等の意味を再確認すべき。(30代)
業務中、男性は全般的にきっちりとした服装、女性はカジュアルな服装が多いが、そうしたギャップがなくなると、男女という意識が軽減されるように思う。(30代)
パワハラ行為や社会人としての良識の有無に男女は関係ないので、ともに意識するべきだ。(40代)
男女差別もセクハラも制度上は問題ないが、外部の相談窓口等も使えるようにした方がよい。(20代)
結婚して子どもができたら、家事・育児に専念したいと考える女性が大勢いると思うが、結婚したら辞めるのでは、責任ある仕事を任せるのは難しい。男女が平等に働ける環境をつくるには、男性の意識改革はもちろん必要だが、それ以上に女性の意識改革が必要ではないか。(30代)
市役所と一部の企業を除き、社会全体の多数は男女不平等が残っている。なぜ多くの企業が改善されないのかを把握し、改善することが必要だ。(40代)
積極的な啓発と、女性の政治参加意識の向上を。(50代)
男女共同参画のより一層の充実を目指すべき。(40代)
男女平等に関する最も効果的な施策を優先して進めるべき。(40代)
子どもをもったら育児をきちんとやったうえで、男も女も働くべきで、その優先順位が逆になっている家庭が多い。子供たちにしわ寄せがいかないようにするべき。(40代)
結婚観が変わり、未婚の男女が増え、少子高齢に拍車がかかることに危惧を感じる。(40代)

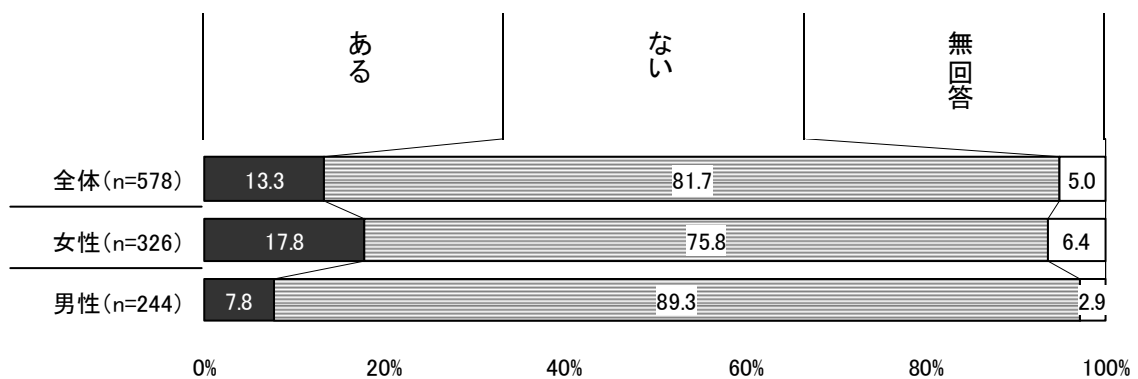
## 男女平等に関する意識調査 (市民対象) の結果について (参考資料)

## 問 17 配偶者等からの暴力

## ■被害の経験

配偶者等からの暴力で被害の経験についてみると、全体では「ない」が 81.7%と「ある」を上回っています。

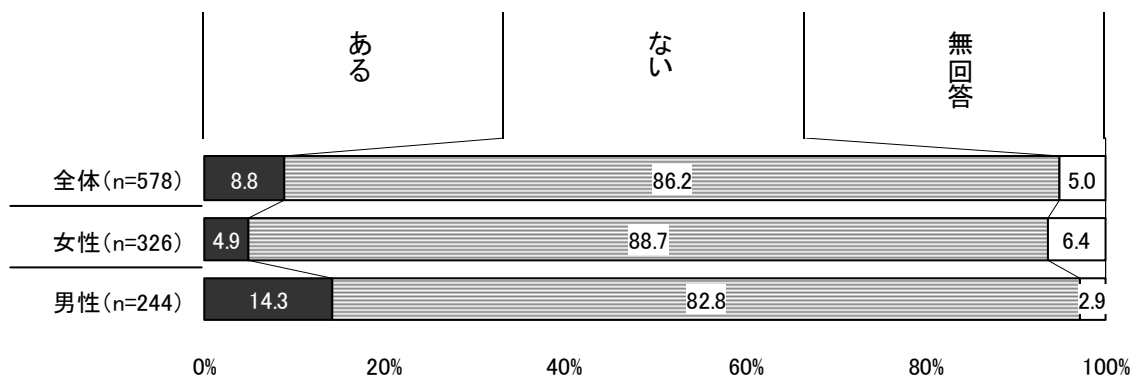
性別にみると、男女とも「ない」が最も高くなっているものの、女性の暴力被害が 2 割弱を占めており、男性よりも 10 ポイント高くなっています。



## ■加害の経験

配偶者等からの暴力で加害の経験についてみると、全体では「ない」が 86.2%と「ある」を上回っています。

性別にみると、男女とも「ない」が最も高くなっているものの、男性の暴力加害が 1 割半ばを占めており、女性よりも約 10 ポイント高くなっています。



男女平等・男女共同参画に関する現状等について

小金井市の出生数(率)・婚姻数(率)・離婚数(率)の年次別推移

率(人口千対)

年次	出生数(率)	婚姻数(率)	離婚数(率)
平成14年	906 (8.0)	760 (7.1)	202 (1.9)
平成15年	946 (8.3)	780 (7.2)	190 (1.8)
平成16年	915 (8.0)	745 (6.8)	168 (1.5)
平成17年	849 (7.6)	725 (6.6)	189 (1.7)
平成18年	865 (7.6)	721 (6.6)	174 (1.6)
平成19年	846 (7.4)	736 (6.7)	165 (1.5)
平成20年	895 (7.7)	726 (6.6)	147 (1.3)
平成21年	943 (8.1)	766 (6.9)	179 (1.6)
平成22年	957 (8.2)	824 (7.4)	171 (1.5)

東京都福祉保健局データ引用

合計特殊出生率

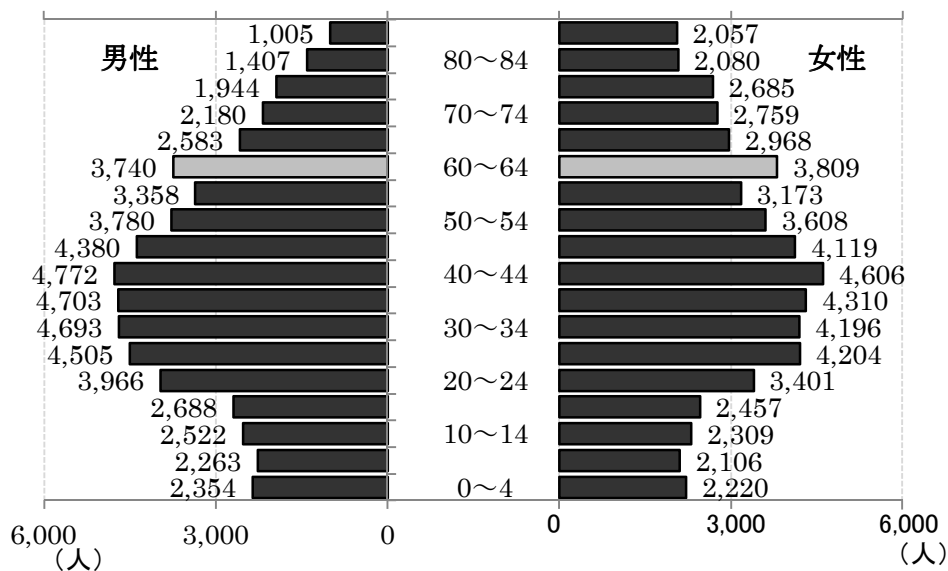
年次	区分	全国	東京都	小金井市
平成14年		1.32	1.02	1.03
平成15年		1.29	1.00	1.08
平成16年		1.29	1.01	1.05
平成17年		1.26	1.00	0.99
平成18年		1.32	1.02	1.01
平成19年		1.34	1.05	1.00
平成20年		1.37	1.09	1.07
平成21年		1.37	1.12	1.13
平成22年		1.39	1.12	1.13

厚生労働省 人口動態統計第2表-2引用

東京都福祉保健局データ引用

小金井市の人口変動ピラミッド(住民基本台帳人口による)

平成24年1月現在

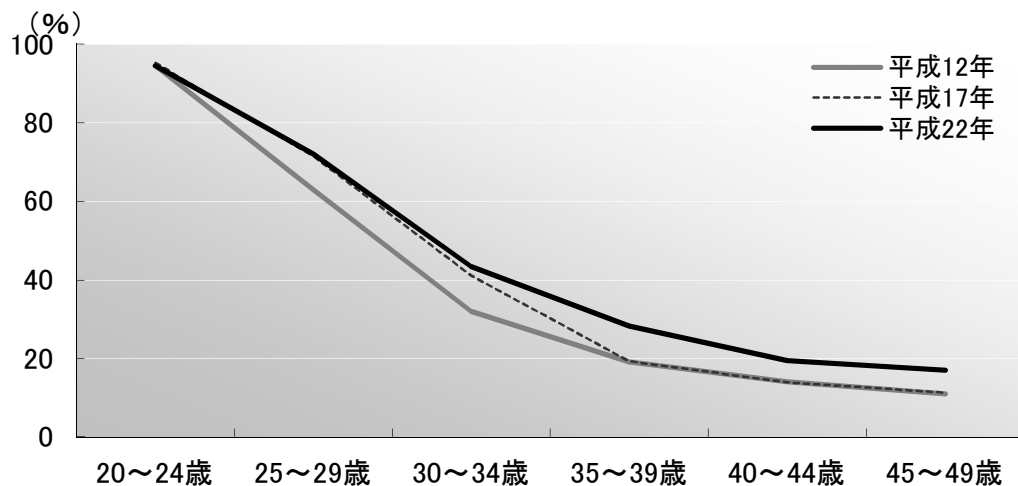


## 小金井市の未婚率（男女年齢別比較）

### 【女性】

年齢	年次	平成12年	平成17年	平成22年	H12→H22の差
20～24歳		94.7	95.3	94.5	-0.2
25～29歳		63.0	71.5	71.9	8.9
30～34歳		32.0	41.2	43.5	11.5
35～39歳		19.1	19.3	28.2	9.1
40～44歳		14.1	13.9	19.5	5.4
45～49歳		11.1	11.3	17.1	6.0

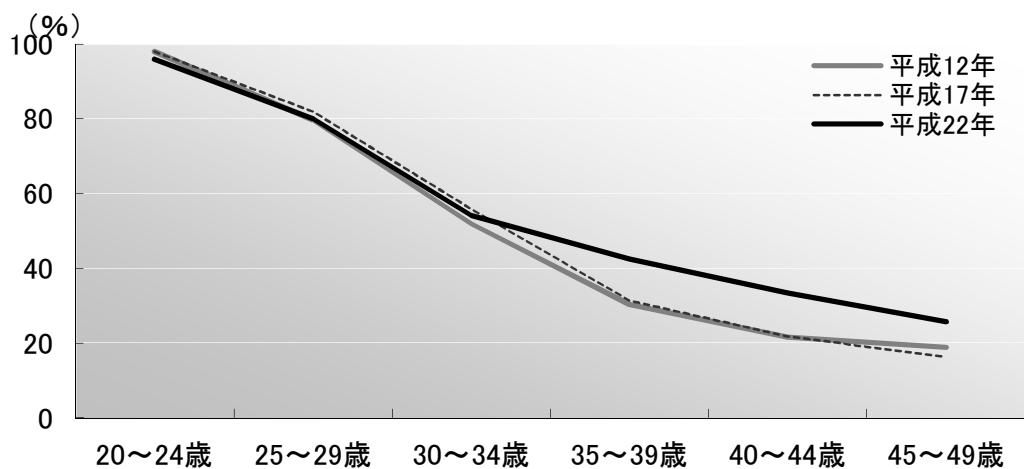
総務省統計局データ引用(国勢調査結果)



### 【男性】

年齢	年次	平成12年	平成17年	平成22年	H12→H22の差
20～24歳		97.9	98.0	95.8	-2.1
25～29歳		79.7	81.8	80.0	0.3
30～34歳		51.9	55.9	54.2	2.3
35～39歳		30.4	31.4	42.5	12.1
40～44歳		21.6	21.7	33.4	11.8
45～49歳		18.9	16.3	25.8	6.9

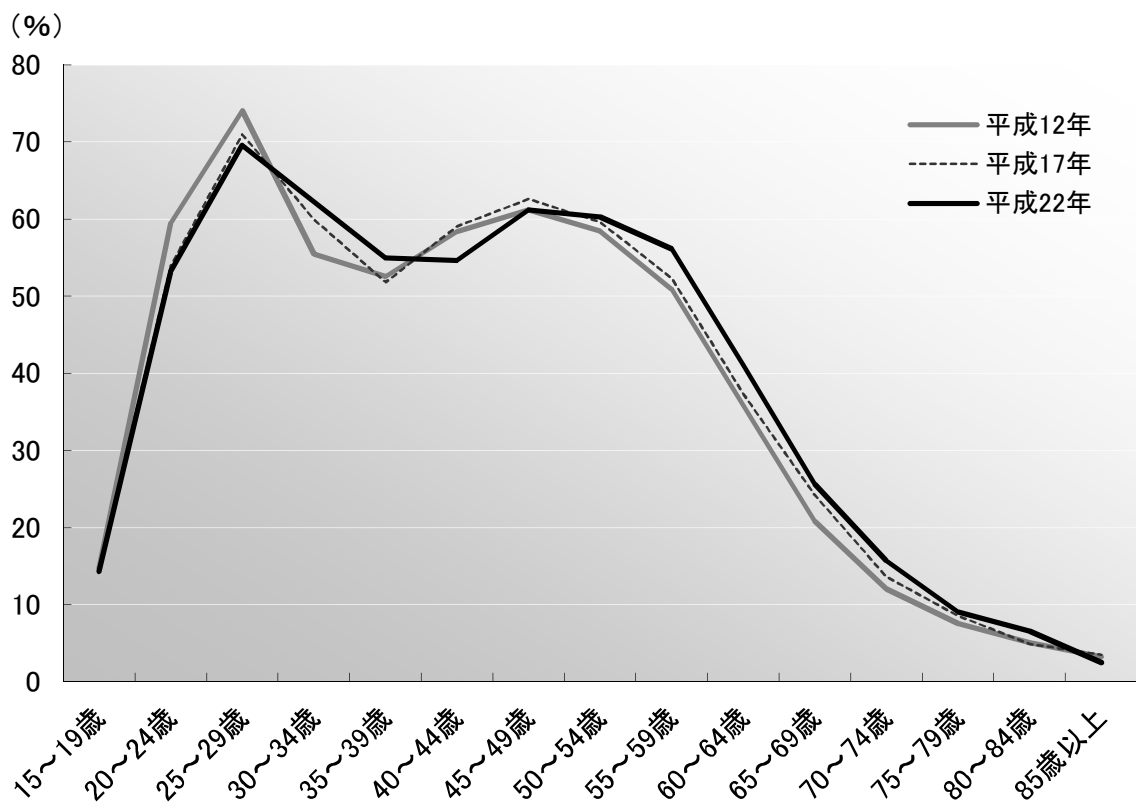
総務省統計局データ引用(国勢調査結果)



## 小金井市の労働力率（女性）の年次別推移

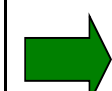
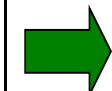
年齢	年次	平成12年	平成17年	平成22年
15～19歳		14.7	14.6	14.2
20～24歳		59.5	53.9	53.1
25～29歳		74.0	71.0	69.6
30～34歳		55.4	59.9	62.2
35～39歳		52.5	51.8	55.0
40～44歳		58.4	59.0	54.6
45～49歳		61.2	62.6	61.2
50～54歳		58.5	59.6	60.3
55～59歳		50.9	52.3	56.1
60～64歳		35.8	37.2	41.0
65～69歳		20.8	24.2	25.7
70～74歳		12.1	13.6	15.7
75～79歳		7.5	8.6	9.1
80～84歳		5.0	4.9	6.5
85歳以上		3.2	3.5	2.5

総務省統計局データ引用(国勢調査結果)





カテゴリ	市の統計情報	国・都の動向	意識調査	男女平等推進審議会（第4期）提言書
意識啓発		<p>○「男は仕事、女は家庭」という考え方を肯定する国民(41.3%)を否定する国民(55.1%)が13.8ポイント上回っている。(H21年内閣府調査)</p> <p>○「男は仕事、女は家庭」という考え方を肯定する都民(40.1%)を否定する都民(53.3%)が13.2ポイント上回っている。(H23年都世論調査)</p> <p>※ H21年内閣府調査…男女共同参画社会に関する世論調査(平成21年10月)                  ※ H23年都世論調査…男女平等参画に関する世論調査(平成23年1月)</p> <p>○国や都では、政治の場(国71.8%/都70.2%)や社会通念等(国71.9%/都70.3%)の分野で「男性優遇感」が高い。また、学校教育の場(国68.1%/都76.1%)の分野の「男女平等感」が比較的高い。(H21年内閣府調査/H23年都世論調査)</p>	<p>○「男は仕事、女は家庭」という考え方を肯定する市民(31.5%)を否定する市民(60.2%)が28.7ポイント上回っている。しかし、「女性は働いていても、家事・育児のほうを大切にすべき」という考え方を肯定する市民(57.5%)は否定する市民(33.7%)を23.8ポイント上回っている。(市民問21)</p> <p>○「男は仕事、女は家庭」という考え方を肯定する職員(18.6%)を否定する職員(73.0%)が54.4ポイント上回っている。しかし、「女性は働いていても、家事・育児のほうを大切にすべき」という考え方を肯定する職員(48.5%)は否定する職員(39.4%)を9.1ポイント上回っている。(職員問9)</p> <p>○家庭生活(50.2%)や社会通念等(75.1%)で、「男性優遇感」が高くなっている。また、学校教育の場(52.1%)の分野の「男女平等感」が比較的高い。社会全体(12.1%)としての「男女平等感」が低くなっている。(市民問20)</p> <p>○市の事業の認知度は、全体的に低い割合となっている。(市民問22)</p> <p>○市の事業について、「聞いたことがある」の回答が半数以上で、内容まで理解している職員は少ない。(職員問16)</p>	<p>○「男女平等」のとらえ方についての十分な議論が必要。</p> <p>○男性に対する施策(意識改革やそのための基盤づくり)が重要。</p> <p>○力を入れるべき取り組みとして、教育・学習、広報・情報提供、意識啓発があげられている。</p> <p>○市職員の意識の向上が必要。</p>
教育・学習			<p>○教育の場で男女平等を進めるために重要なこととして「男女の差ではなく、個性や能力に合わせた生活指導や進路指導を行う」(81.3%)が第一位。(市民問5)</p> <p>○男女平等推進センターに期待する機能として「男女平等を推進するうえで必要な情報の提供」(40.3%)が上位。(市民問23)</p> <p>○男女平等や男女共同参画、ジェンダーに関する情報源は、「テレビ(やラジオ)」(48.1%)、「書籍」(27.2%)、「インターネット」(23.4%)、「自治体の広報や冊子」(21.6%)の順となっている。また、「どこからも情報や知識を得ていない」(18.7%)人もいる。(市民問24)</p>	<p>○力を入れるべき取り組みとして、教育・学習、広報・情報提供、意識啓発があげられている。</p>



まとめ
<p>■分野や性別により、男女平等意識に違いがみられる。</p> <p>■性別役割分担意識については、市民・職員とも「男は仕事、女は家庭」という考え方には否定的な割合が高いが、「女性は働いていても、家事・育児のほうを大切にすべき」という考え方には肯定的な割合が高く、意識の上では性別役割分担意識は改善されつつあるが、実際の生活の状況とはかい離があることがうかがえる。</p> <p>■市民・職員ともに小金井市の男女共同参画に関する取り組み自体の認知度が低い。</p> <p>⇒引き続き、男女共同参画室を拠点に、男女共同参画に関わる事業の周知を図りながら、実際の生活の状況にまで昇華されるような啓発に取り組む必要がある。</p>
<p>■学校教育の場では、性別ではなく個性や能力に応じた指導が求められている。</p> <p>■男女平等推進センターに期待する機能のひとつとして、男女平等等に関する学習・情報提供がある。</p> <p>■男女平等や男女共同参画、ジェンダーに関する情報源は、メディアなどが中心。</p> <p>⇒男女共同参画社会の実現には、子どもからの学校教育だけでなく、生涯学習や社会教育など、さまざまな媒体・機会を通じての学習の場の提供が重要。</p>

カテゴリ	市の統計情報	国・都の動向	意識調査	男女平等推進審議会（第4期）提言書
人権・暴力	○女性カウンセラーによる来所または電話相談件数は平成22年度実績81件。(平成23年度93件)複数回利用や長期的支援が必要となっている。	○平成22年度の配偶者暴力相談支援センターへの相談件数は年々増加し、77,334件(全国)。そのうち、都が8,526件。(H23年7月11日発表 内閣府男女共同参画局)	○配偶者等からの暴力の有無について、精神的暴力被害(12.3%)が高く、特に女性(16.3%)が多い。また、加害の認識についても精神的加害(8.3%)が相対的に高く、男性(13.1%)が多い。(市民問17)	○DVや雇用差別など、人権侵害からの救済的な対応をおこなうとともに、問題の根本的な解決を目指す方向性が求められている。 ○「人員」について、専門職員の増強と市民参画の推進が必要。
		○配偶者からの暴力の有無:身体的暴力が「あった」(19.9%)、精神的暴力が「あった」(13.2%)。そのうち相談しなかった割合は、男性77.2%、女性53.0%。(H21年内閣府調査) ○配偶者等から身体的な暴力を受けている人が身近にいる(22.8%)。(H23年都世論調査)	○被害・加害・見聞きの経験者のうち、「相談しようと思わなかった」(52.5%)が半数を超えており、特に男性(70.4%)で多くなっている。また、相談しなかった理由の第一位は「相談するほどのことではないと思った」(44.2%)。(市民問17-1,3)	
		○DVなど女性に対する暴力の防止に必要なこととして「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(68.4%)。(H21年内閣府調査)	○配偶者等の暴力防止や被害者支援対策として必要なこととして「被害者のための相談を充実させる」(59.2%)が第一位。(市民問18)	
			○男女平等推進センターに期待する機能として「生き方、悩み相談など相談事業の実施(43.6%)」が第一位、「DVやセクハラ被害への支援」(40.1%)が上位。(市民問23)	
			○女性が性や妊娠・出産に関して自分で決めたり、自分の健康を守るために必要なことの第一位は「子どもの成長と発育に応じた性教育」(60.6%)。(市民問19)	
		○都のH21年度のセクシュアル・ハラスメントに関する労働相談件数は、労働者から1,176件、雇用者から599件。H19年度までは相談件数は増加傾向にあったが、その後は減少傾向が見られる。(東京都男女平等参画データ2011)	○セクハラを経験がない職員(78.1%)が多くなっているが、被害経験がある人は5.7%で、女性の被害者を知っている人も13.9%いる。(職員問13)	



まとめ
<p>■DVについては、精神的暴力被害が比較的多く、加えて「相談するほどのことではない」を理由に相談しなかった人も多い。</p> <p>■DV防止や被害者支援としては、相談体制の充実が求められている。</p> <p>⇒DV防止法に沿ったDV対策を強化するとともに、DVに対する認識の強化や相談に関する周知を図る必要がある。また、ストーカーやセクハラなどの人権侵害対策も必要。加えて、正しい性の知識の普及やデートDV防止が望まれる。</p>

カテゴリ	市の統計情報	国・都の動向	意識調査	男女平等推進審議会（第4期）提言書	まとめ
政策・方針 決定過程	○附属機関（地方自治法第202条の3）の女性委員の比率は32.0%、行政委員会等（第180条の5）の女性委員の比率は20.6%。（H23年4月1日現在 第3次行動計画推進状況報告書（平成22年度））	○都の目標の対象である審議会等における登用状況は20.1%（目標は35.0%）。 ○都の登用用の女性名簿、H22年時点で掲載人数は461人。（H23年内閣府） ※ 地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況（平成23年度）（都道府県・政令指定都市編）	○女性委員の割合について、市民・職員とも「適任であれば男女を問わなくてもよい」（70.1%/72.2%）が最も高い。（市民問16/職員問15）	○公募している各種審議会、委員会における市民委員の属性の偏りを是正する必要がある。	<p>■市では女性委員の比率は東京都実績より上回っているが、東京都の目標値よりも下回っている。</p> <p>■H23年現在の女性管理職の比率は都よりも下回っている。</p> <p>⇒女性だけでなく、個人の能力や適性にに応じて管理職や市民委員になれるような、環境づくりや啓発が必要。</p>
	○女性管理職は11人で13.6%。（H23年4月1日現在）（H24年4月1日現在 12人で15.2%）	○都の女性管理職は全体で14.6%。（H23年内閣府）	○主任職以上の昇進を希望する職員は女性（42.3%）よりも男性（59.0%）が多い。（職員問10）		
地域活動	○H22年度の女性自治会長数は6人（8.0%）。（H23年4月1日現在）	○H22年度の都平均の女性自治会長比率は9.8%。（H23年内閣府発表資料）	○地域活動への参加状況は男性よりも女性が高い傾向だが、今後の参加意向については、女性よりも男性で高い傾向がある。（市民問14）	○市民グループの力を生かしたり、地域住民の参画を促したりする必要がある。（地域活動への経済的支援も含めて） ○市民協働体制への担い手全体の男女平等・共同参画への理解度を高める事が必要。	<p>■女性の自治会長比率は都平均よりは下回っている。</p> <p>■理想の生活として、仕事や家庭だけでなく地域・個人の生活の充実も求められているなど、市では、地域、趣味・学習等への参画意欲が高いことがうかがえる。</p> <p>■地域活動へは女性の参加が比較的多く、男性は参加を望んでいることがうかがえる。</p> <p>⇒地域活動への男女双方の参画をうながすため、参加しやすい環境づくりが求められる。</p>
			○地域活動へ参加し、男女共同参画を進めるために必要なことの第一位に「健康であること」（55.0%）、「活動するきっかけや仲間がいること」（49.1%）「さまざまな立場の人が参加しやすいように活動時間などを調整すること」（44.8%）が上位。（市民問15）		
			○地域活動における男女平等意識について「わからない」（26.3%）が多くなっている。（市民問20）		
	○男女平等推進センターに期待する機能として「さまざまな活動をしている個人やグループの交流の場があること」（43.1%）が上位。（市民問23）				
	○国・都ともに「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」の優先度で、理想の第一位が「仕事」と「家庭生活」をともに優先（国31.2%/都24.7%）で、第二位に「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」をともに優先（国16.9%/都20.6%）。（H21年内閣府調査/H23年都世論調査）	○「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」の優先度で、理想の第一位が「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」をともに優先（37.2%）。（市民問7）			

カテゴリ	市の統計情報	国・都の動向	意識調査	男女平等推進審議会（第4期）提言書	まとめ
就労	○女性の労働力率は、依然としてM字カーブを描いているものの、この10年で谷の角度はゆるやかになってきている。また、谷底は平成12年では30歳代前半だったが、平成22年は40歳代前半へと変化した。（国勢調査）	<p>○女性の職業観について「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」（45.9%）が最も高く、次点は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（31.3%）となっている。（H21年内閣府調査）</p> <p>○女性の職業観について、「継続して職業をもつ方がよい」（44.4%）が最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（34.5%）となっている。（H23年都世論調査）</p>	<p>○女性の職業観について「結婚・出産にかかわらず仕事を持つほうがよい」（38.9%）が最も高く、次点は「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事を持つほうがよい」（36.9%）となっている。（市民問12）</p> <p>○H19年度の調査では、第一位が「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事を持つほうがよい」で、次点が「結婚・出産にかかわらず仕事を持つほうがよい」となっている。</p> <p>○女性の職業観について「結婚・出産にかかわらず仕事を持つほうがよい」（55.1%）が最も高く、次点は「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事を持つほうがよい」（19.8%）となっている。（職員問</p>	<p>○女性に仕事を諦めさせない環境整備の促進が必要。</p> <p>○男性に対する施策（ワークライフバランスの推進など）が重要。</p>	<p>■職業継続型と職業中断型が多くなっている。</p> <p>■男女で仕事と家庭を両立できる職場環境の整備が求められている。</p> <p>⇒継続就労と再就職を支援するための労働や社会福祉の環境整備などが求められている。また、男女に限らず、市民や事業所等に対してワークライフバランス(WLB)に関する啓発も必要。</p>
		<p>○女性が仕事を続ける上で障害になるものの第一位として「育児休業・保育施設などの労働環境、社会福祉の不備」（59.7%）となっている。（市民問13）</p>	<p>○ワークライフバランス推進の上で必要なものとして「男女ともに家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」（73.7%）が第一位。（市民問9）</p>		
		<p>○OWLB実現のために必要な企業の取り組み：「育児・介護の休業・休暇制度を充実する」がもっとも高い。（東京の男女平等参画データ2011 平成23年3月）</p>	<p>○男女平等推進センターに期待する機能として「起業セミナーや職業訓練など、女性の就業支援事業の開催」（35.1%）が上位。（市民問23）</p>		
		<p>○男女平等社会実現のための市の施策として重要なものでは「女性が働きやすい環境づくりの促進」（55.5%）「女性の再就職のための職業相談・学習機会の充実」（36.7%）が上位。（市民問25）</p>	<p>○市の仕事内容について、ほとんどの場合「男女平等である」と感じられている。ただし、「昇任・昇格の早さ」では男性優遇感がやや高い（22.6%）。（職員問12）</p>		
		<p>○男女共同参画推進のために、市の職場に必要なものの第一位が「育児休業や介護休暇等、ワーク・ライフ・バランスの実現に関する制度が活用しやすい環境づくりを行う」（63.9%）となっている。（職員問18）</p>			

カテゴリ	市の統計情報	国・都の動向	意識調査	男女平等推進審議会（第4期）提言書	まとめ
子育て・高齢者・障害者等	<p>○合計特殊出生率：1.13人（H22年）</p> <p>○高齢化率：18.8%（H23年3月31日現在） （18.6% H23.10.1、19.0% H24.1.1）</p> <p>○女性の20歳代後半から30歳代後半の未婚率および男性の30歳代後半から40歳代前半の未婚率が、それぞれ、平成12年から平成22年で10ポイント前後増加している。（国勢調査）</p>	<p>○育児休業取得率：国女性83.7%、男性1.38%。（H22年度雇用均等基本調査）都女性92.5%、男性1.50%。（H22年度東京都年次報告）</p> <p>○合計特殊出生率：都1.12人、国1.39人。（H22年）</p> <p>○高齢化率：都20.5%（H23年3月31日現在） （都20.8% H24.1.1） 国22.9%（H23年3月31日現在）</p>	<p>○子どもを産み、育てやすい環境づくりのために社会が充実すべきことは「認可保育園など保育施設の拡充」（75.8%）が第一位となっている。（市民問6）</p> <p>○育児休業・介護休暇とも、女性よりも男性で「利用したいが、利用できそうにないと思う」が高い。また、利用していない理由の第一位として「職場に休める雰囲気がないから」（61.0%）が第一位、「経済的に生活が成り立たなくなるから」（33.3%）が次点。（市民問10,10-1）</p> <p>○育児休業・介護休暇とも、女性よりも男性で「利用したいが、利用できそうにないと思う」が高い。また、男性が育児休業や介護休暇をとることに、女性の場合よりも抵抗があるか「わからない」と回答している人が男性に多い傾向がある。（職員問4,5）</p> <p>○仕事と介護の男女の役割分担について、現状は「男性は仕事、女性は介護を分担する」（27.5%）が多いが、理想は「男女とも仕事をし、介護は家族や公的・民間のサービスを多いに活用する」（47.2%）が多い。（市民問2）</p> <p>○仕事と介護の男女の役割分担について、現状は「男女とも仕事をし、介護は男女ともに分担する」（25.2%）が多いが、理想は「男女とも仕事をし、介護は家族や公的・民間のサービスを多いに活用する」（40.7%）が多い。（職員問2）</p> <p>○男女平等社会実現のための市の施策として重要なものでは「子育て支援策の充実」（57.4%）が第一位。（市民問25）</p>	<p>○男性の育児参加の促進をはじめとする、家族的責任（家事・育児・介護）のパートナーシップが課題。</p> <p>○包括的に支援や環境づくりができるようなシステムづくりが必要。</p> <p>○市における他のプランや計画と連携した男女平等推進が求められる。</p>	<p>■合計特殊出生率は都水準なみであるが、国よりも低くなっており、要因として仕事との両立の難しさ等がうかがえる。</p> <p>■育児支援としての保育サービス、介護の公的・民間サービスが求められている。</p> <p>■高齢化率は、国・都よりも低くなっているが、今後ますます高齢化の進行が予測される。</p> <p>⇒関連計画との連携を図りながら、男女平等やワークライフバランスを推進する環境づくりを進めることが重要。</p>
家庭生活	<p>○国の家事時間：平日が男性16分、女性163分。日曜日が男性23分、女性156分。（H18年度社会生活基本調査）</p> <p>○都の家事時間：平日が男性13分、女性155分。日曜日が男性22分、女性145分。（H18年度社会生活基本調査）</p>	<p>○国の家事時間：平日が男性16分、女性163分。日曜日が男性23分、女性156分。（H18年度社会生活基本調査）</p> <p>○都の家事時間：平日が男性13分、女性155分。日曜日が男性22分、女性145分。（H18年度社会生活基本調査）</p>	<p>○家事に携わる時間について、男性の平日は「30分未満」（29.5%）、女性の平日は「1時間以上3時間未満」（35.6%）が多い。また、男性の休日は「1時間以上3時間未満」（26.2%）、女性の休日は「1時間以上3時間未満」（34.4%）が多くなっている。（市民問3）</p> <p>○家事に携わる時間について、男性の平日は「30分未満」（33.4%）、女性の平日は「1時間以上3時間未満」（41.9%）が多い。また、男性の休日は「1時間以上3時間未満」（37.3%）、女性の休日は「1時間以上3時間未満」（37.1%）が多くなっている。（職員問3）</p> <p>○「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」の優先度で、女性の現状の第一位は「『家庭生活』を優先」（29.1%）だが、男性の第一位は「『仕事』を優先」（38.9%）となっている。（市民問7）</p>		<p>■家事に携わる時間は、特に平日において女性よりも男性が短くなっていて、仕事を優先する傾向がうかがえる。</p> <p>⇒家庭における男女平等・共同参画を推進するためには、就業環境と家庭環境の両方を改善し、ワークライフバランスを推進していく必要がある。</p>
性・健康	<p>○自殺者数：男性7人、女性10人。（H22年内閣府経済社会総合研究所）</p> <p>○自殺率：15.20。（H22年内閣府経済社会総合研究所）</p>	<p>○自殺者数：国の男性22,189人、女性8,518人。（東京都男女平等参画データ2011）</p> <p>○自殺者数：都の男性1,985人、女性877人。（東京都男女平等参画データ2011）</p> <p>○自殺率：国24.62、都23.28。（H22年内閣府経済社会総合研究所）</p>	<p>○女性が性や妊娠・出産に関して自分で決めたり、自分の健康を守るために必要なことの第一位は「子どもの成長と発達に応じた性教育」（60.6%）で、次点が「婦人科系疾患の検診受診の啓発」（53.6%）となっている。（市民問19）</p> <p>○地域活動へ参加し、男女共同参画を進めるために必要なことの第一位に「健康であること」（55.0%）があげられている。（市民問15）</p>		<p>■男女とも性や年齢に応じた心身の健康対策が求められている。</p> <p>⇒男女平等の推進の基本には、男女が心身ともに健康であることが重要。</p>